

令和3年度
和歌山リハビリテーション専門職大学
シラバス

理学療法学専攻 作業療法学専攻

講義名	統計学
講師名	松永 秀俊
学年	1 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 2 単位
講義目標	本講義では PC を利用しデータをとり扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を PC にて学修する。
授業計画	第1回 ガイダンス Excelの使い方 第2回 図形の作成と意味 第3回 母集団・標本 第4回 代表値とバラツキ 第5回 確率 第6回 相関係数 第7回 乱数の生成と意味 第8回 正規分布 第9回 仮説検定 p 値と有意水準 第10回 平均の検定 第11回 多重比較 第12回 データ解析：重回帰分析 第13回 データ解析：多重ロジスティック回帰分析 第14回 データ解析：因子分析 第15回 まとめ 総評
履修上の注意	授業前にPCの準備が必要。予習復習を行い、授業理解に努めること。
成績評価	授業中の課題（40%）、定期試験（60%）の結果を総合的に評価する
テキスト	参考図書、その他 森棟公夫：教養 統計学、新世社、2012 年 石村貞夫著、SPSSによる統計処理の手順、東京図書

講義名	プログラミング									
講師名	中川 優									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	プログラミングの基本要素を学びながら、手続きのなプログラミングにおける論理的な思考能力及び実際のプログラミング能力の基礎を身につける。適宜、講義と演習を繰り返す。									
授業計画	第1回	オリエンテーション								
	第2回	入出力と制御構文								
	第3回	簡単な関数とアルゴリズム								
	第4回	関数のプロトタイプ宣言								
	第5回	関数を使ったプログラミング1 (Java)								
	第6回	関数を使ったプログラミング2 (Scala)								
	第7回	ポインタ使用方法1 (単純なポインタ)								
	第8回	ポインタ使用方法2 (関数ポインタ)								
	第9回	ポインタ使用方法3 (関数ポインタ：C言語)								
	第10回	ポインタ使用方法4 (関数ポインタ：D言語)								
	第11回	文字型変数								
	第12回	文字列と文字型配列変数1 ヌルコード								
	第13回	文字列と文字型配列変数2 char型								
	第14回	文字列と文字型配列変数3 strlen関数								
	第15回	課題作成								
履修上の注意	PCの準備が必要。授業でできなかった内容に関しては必ず次回までに行うこと。									
成績評価	講義中の課題(50%)、レポート課題(50%)にて判断する。 講義中の課題については、毎回の授業にて行う (パソコン作業)									
テキスト	参考図書、その他 谷尻かおり 著：これからはじめるプログラミング基礎の基礎 技術評論社 プログラミング入門Cobol 実教出版									

講義名	IoT入門									
講師名	中川 優									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標はIoTを利活用するための基礎知識を習得することを目指す。IoTが登場してきた経緯とIoTの仕組み、市場動向と産業・公共・家庭などいろいろな分野での応用事例、および、IoTを実現する多様な技術や課題について学習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 IoTとは</p> <p>第2回 IoTの仕組み</p> <p>第3回 IoTの市場動向</p> <p>第4回 ビジネスモデル</p> <p>第5回 IoTの応用事例1（交通機関）</p> <p>第6回 IoTの応用事例2（医療）</p> <p>第7回 IoTの応用事例3（農業）</p> <p>第8回 IoTシステム開発</p> <p>第9回 IoTデバイスとIoTゲートウェイ</p> <p>第10回 IoTネットワーク1（ビッグデータ）</p> <p>第11回 IoTネットワーク2（フィンテック）</p> <p>第12回 生活とIoTサービス1（自動運転システム）</p> <p>第13回 生活とIoTサービス2（家庭内電化製品）</p> <p>第14回 今後の展望</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意	<p>IoTを利活用するための基礎知識を習得することを目指すため、授業中の私語は禁ずる。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>株式会社NTTデータ 絵で見てわかるIoT/センサの仕組みと活用 株式会社翔泳社</p> <p>IoTの基本・仕組み・重要事項が全部わかる教科書 SBクリエイティブ</p>									

講義名	生命倫理
講師名	田中 優
学年	1 年
学期	前期
時間	30 時間
選択	2 単位
講義目標	医療の発達に伴い、倫理感は非常に重要である。本講義は、人の生命に関わる倫理的問題としては着床前診断等の遺伝子診断、人工妊娠中絶、代理母出産、脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、インフォームド・コンセント、終末期医療、看護倫理を題材に各項目について講義を展開し、学生の個性と照らし合わせ倫理観を養う。
授業計画	第1回 生命倫理序論 第2回 健康と病気 第3回 医療事故と安全管理 第4回 患者の権利と自己決定権 第5回 着床前診断などの遺伝子診断と人工妊娠中絶 第6回 代理母出産 第7回 脳死と臓器移植 第8回 再生医療 第9回 死生観（死をめぐる医療） 第10回 インフォームド・コンセント 第11回 自己危害と他者危害 第12回 医療事故と安全管理 第13回 安楽死と尊厳死 第14回 終末期医療 第15回 総括講義
履修上の注意	人にとって関りの大きい問題であり、特に医療者にとっては関りの深い問題である。予習復習をしっかりと行い講義に臨むようにする。積極的に講義に臨むようにする。
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する
テキスト	参考図書、その他 生命倫理の教科書 ミネルヴァ書房 生命倫理 法律文化社

講義名	健康とスポーツ									
講師名	河西 紀秀									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	健康維持・増進のための運動やスポーツとその傷害について理解し、その予防について学ぶ。健康科学やスポーツ科学の研究や知見を理解することによって、さまざまな健康行動や身体活動に関する理解を深め、日常生活において健康科学やスポーツ科学に基づく行動を実践できるようになることを目標とする。									
授業計画	<p>第1回 健康科学・スポーツ科学とは何か？を学ぶ</p> <p>第2回 健康維持・増進に効果的な運動について学ぶ</p> <p>第3回 スポーツが身体機能に与える影響について学ぶ</p> <p>第4回 運動とスポーツにおける傷害について学ぶ</p> <p>第5回 運動およびスポーツの傷害とその予防について学ぶ</p> <p>第6回 傷害の予防とコンディショニングについて学ぶ</p> <p>第7回 健康科学の可能性を考える（1）個人の可能性</p> <p>第8回 健康科学の可能性を考える（2）社会の可能性</p> <p>第9回 競技スポーツの心理学を学ぶ（1）個人スポーツ</p> <p>第10回 競技スポーツの心理学を学ぶ（2）集団スポーツ</p> <p>第11回 健康スポーツの心理学を学ぶ（1）体を動かす楽しみ</p> <p>第12回 健康スポーツの心理学を学ぶ（2）生きる爽快感</p> <p>第13回 スポーツ科学の可能性を考える（1）自然科学領域</p> <p>第14回 スポーツ科学の可能性を考える（2）人文・社会科学領域</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意	講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、予習してから授業に参加する。また、復習も忘れずに行うこと。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>公認スポーツ指導者養成テキスト 財団法人日本体育協会</p> <p>基礎から学ぶスポーツ概論改訂版 株式会社大修館書店</p>									

講義名	教育学Ⅰ									
講師名	碓井 岑夫									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	<p>教育学の基礎を学ぶ。教育の本質、目的、内容、方法、さらに制度、行政など、教育現象のさまざまな分野、問題について基礎的に学ぶ。医療従事者としての教育的思考も身につける。内容は実証資料に基づく学習とフィールドワークを取り入れる。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション：講義への参加のしかた、友だちと語る一話すと語る、聴くと聞く								
	第2回	地球の歴史とヒトの誕生：人は地球では「遅れてきた青年」								
	第3回	人間とはなにか：この難問をどう解くのかーヒトと生物								
	第4回	人間と教育1：なぜヒトは学べるのかー発達の可能性								
	第5回	人間と教育2：なぜヒトは失敗するのかー挫折から立ち直りへ								
	第6回	発達の段階：養育・保育・教育と人間形成								
	第7回	人間の学び：まねび（真似る、模倣）から学びへ								
	第8回	学校：学校って好き、キライ。なにがそうさせたのか？								
	第9回	教育にかかわる制度1（学校教育制度）								
	第10回	学校的な価値と地域生活の価値：学力を考える								
	第11回	人間の心理1：自分を理解する、自尊感情を育む								
	第12回	人間の心理2：他者への信頼はあるのか								
	第13回	教育と学習：PTもOTも学ぶ力								
	第14回	教育と方法：目標・内容・方法は三位一体								
	第15回	まとめ								
履修上の注意										
成績評価	レポート課題(30%)、定期試験(70%)にて判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>教育学概論 株式会社学文社</p> <p>教育学入門 ミネルヴァ書房</p>									

講義名	教育学Ⅱ									
講師名	碓井 岑夫									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	<p>教育社会学における基礎的な学説に学ぶ。また学校制度・学級経営を背景にした教育問題について社会的に学ぶことを目的とする。ライフステージの質を考え人間生活の健全なあり方について探求し、解決へのプログラムを考える。調査データ、フィールド調査ビデオも視聴して豊かに学ぶ。参加学生が作成したプログラムのプレゼンテーションを行う。</p>									
授業計画	<p>第1回 大学で学ぶ：ノートを作る 聞きながら書く力、聞いてまとめる力、要点をおさえる力</p> <p>第2回 教育と社会（集団）の関係：ヒトは社会的動物である</p> <p>第3回 学校だけが教育の場か？：教育と学習の概念を広げよう</p> <p>第4回 学校制度：学校制度はどうして決まるか</p> <p>第5回 学校で起こっていること（1）：いじめと学校</p> <p>第6回 学校で起こっていること（2）：不登校と学校</p> <p>第7回 学校で起こっていること（3）：学力問題と学校</p> <p>第8回 ひとりごと、つぶやきから対話へ：対人関係のスキル</p> <p>第9回 人間と関わるしごと：基礎・基本と実際的な応用</p> <p>第10回 教育と福祉：教育福祉という立場</p> <p>第11回 カウンセリングマインド：聴く力と見通す力</p> <p>第12回 (知識 + 経験) × [] = 成果：生きた知識と経験を生かす</p> <p>第13回 少子化社会と学校教育：地域の明日は見えるか</p> <p>第14回 高齢化社会と学習社会：学ぶ自由と学ばない自由</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意										
成績評価	レポート課題(30%)、定期試験(70%)にて判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>教育学をつかむ 有斐閣</p> <p>新・教育学 ミネルヴァ書房</p>									

講義名	老年学									
講師名	松井 有史									
学年	1	年	学期	後期	時間	15	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習する。老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、基礎的な学習する。</p>									
授業計画	第1回	コース・オリエンテーション 加齢と老化								
	第2回	加齢に伴う変化：生理機能・運動機能・精神機能								
	第3回	高齢者のおかれている現状とアプローチ								
	第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患①								
	第5回	高齢者に特徴的な症候と疾患②								
	第6回	高齢者をとりまく環境①								
	第7回	高齢者をとりまく環境②								
	第8回	人生の最終段階における医療								
履修上の注意										
成績評価	講義中の課題(50%)、レポート課題(50%)にて判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	<p>標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 (第5版) 医学書院</p>									

講義名	情報処理Ⅰ									
講師名	八木 栄一									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	医療業務、研究等で必要となる基礎的な情報処理に関する知識と技法の習得を目指す。パソコン実習を行い、今後の調査、研究に必要な、情報処理に関する基礎的な知識と技法を習得する。									
授業計画	第1回	情報の概念, コンピュータと情報								
	第2回	コンピュータの取り扱い (演習・ワープロ、表計算)								
	第3回	コンピュータとネットワーク (演習・情報リテラシー)								
	第4回	情報の入手と活用1 文献検索等								
	第5回	情報の入手と活用2 テーマ別情報収集と分析								
	第6回	PC文章機能 (Word)								
	第7回	PC計算機能 (Excel)								
	第8回	PCプレゼン機能 (パワーポイント)								
	第9回	レポート課題1 出題	課題：1～8の授業内容							
	第10回	病院医療情報システム・電子カルテ								
	第11回	医療情報におけるセキュリティとプライバシー保護								
	第12回	国際論文の検索方法 (医学中央雑誌, CiNii, メディカルオンライン)								
	第13回	国際論文の検索方法 (PubMed)								
	第14回	Abstractを読み解く (PICO形式)								
	第15回	課題作成	課題：10～14の授業内容							
履修上の注意	PCの準備が必要。授業でできなかった内容に関しては必ず次回までに行うこと。									
成績評価	講義中の課題 (50%)、レポート課題 (50%) にて判断する									
テキスト	参考図書、その他 情報処理 データベーススペシャリスト 情報処理技術者 試験学習書 コンピュータリテラシー 共立出版									

講義名	情報処理Ⅱ									
講師名	八木 栄一									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>今後の専門学習において必要とされる基本的な情報リテラシーを学ぶ。 情報の利活用に必要な情報処理や機器の基礎事項並びに情報倫理等について理解する。 到達目標は情報機器を操作できるとともに情報の利活用に必要な基礎知識を修得する。</p>									
授業計画	<p>第1回 情報リテラシーとは</p> <p>第2回 情報の扱い方 PC操作</p> <p>第3回 情報収集とその吟味</p> <p>第4回 情報の形</p> <p>第5回 情報機器及びシステムの把握</p> <p>第6回 新しい技術 (AI、ビッグデータ)</p> <p>第7回 新しい技術 (IoT)</p> <p>第8回 新しい手法 (アジャイルなど)</p> <p>第9回 レポート作成 課題：1～8の授業内容</p> <p>第10回 プロジェクト学習 課題発見</p> <p>第11回 プロジェクト学習 課題目標の設定</p> <p>第12回 プロジェクト学習 課題解決への取り組み</p> <p>第13回 プロジェクト学習 グループ討論</p> <p>第14回 プロジェクト学習 発表</p> <p>第15回 プロジェクト学習 まとめ 課題：10～14の授業内容</p>									
履修上の注意	<p>PCの準備が必要。授業でできなかった内容に関しては必ず次回までに行うこと。</p>									
成績評価	<p>講義中の課題(50%)、レポート課題(50%)にて判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>情報処理技術の基本 日本実業出版社</p> <p>これからのIT業界で働く人のための情報処理技術の基本 日本実業出版社</p>									

講義名	英語Ⅰ
講師名	藪内 昭男
学年	1 年
学期	前期
時間	30 時間
必修	必修
単位	2 単位
講義目標	スピーキングとリスニング活動を中心に自立的言語使用者を目指すよう言語コミュニケーション能力を養成、強化する。生活で出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりしているなら、時事問題や、個人的に興味のある話題について要点を理解することができる。最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的に興味のある事について、準備なしで会話に入ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができるよう学習する。
授業計画	<p>第1回 Course Introduction</p> <p>第2回 Basic Communication Skills</p> <p>第3回 Overview of language learning</p> <p>第4回 Vocabulary Chapter 1 (Understanding the vocabulary)</p> <p>第5回 Vocabulary Chapter 2 (Organize vocabulary)</p> <p>第6回 Vocabulary Chapter 3 (Application of vocabulary) 授業課題 (語彙の適応)</p> <p>第7回 Active speaking and discussion Daily conversation (speaking ability)</p> <p>第8回 Active speaking and discussion Daily conversation (Self expression)</p> <p>第9回 Active speaking and discussion How to ask</p> <p>第10回 Active speaking and discussion Answer method 授業課題 (質問の回答方法)</p> <p>第11回 Active speaking and discussion expression method1 (Hone expression)</p> <p>第12回 Active speaking and discussion expression method2 (Application of expression)</p> <p>第13回 Active speaking and discussion (Enjoy the debate)</p> <p>第14回 Active speaking and discussion (Discovery in the debate) 授業課題 (ディスカッション)</p> <p>第15回 Summary</p>
履修上の注意	予習は教科書の授業予定範囲を読んでおくこと。復習は講義内容を参照して要点をまとめること。3単元ごとに小テストを行う。テスト時には辞書および電子辞書を用意すること。
成績評価	授業中の課題 (40%)、定期試験 (60%) の結果を総合的に評価する
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>『In Plain English (リーディングのための英文法)』 南雲堂 Seishi Sato (佐藤誠司) 著</p> <p>パーフェクトIELTSリーディング テイエス企画</p>

講義名	英語Ⅱ
講師名	藪内 昭男
学年	1 年
学期	後 期
時間	30 時間
必修	必修
単位	2 単位
講義目標	リーディングとライティング活動を中心に自立的言語使用者を目指すよう言語コミュニケーション能力を養成、強化する。授業目標は非常によく使われる日常言語で書かれた内容なら理解でき、身近で個人的に関心のある話題について、つながりのある内容を書くことができる。経験や印象を書くことができるよう学習する。
授業計画	<p>第1回 Course Introduction</p> <p>第2回 Continue to increase reading speed: Daily conversation(Enhancing hearing skills)</p> <p>第3回 Continue to increase reading speed: Daily conversation(Development of reading ability))</p> <p>第4回 Continue to increase reading speed: Daily conversation(Support for reading skills)</p> <p>第5回 read and comprehend a variety of texts and genres1 (lay the base)</p> <p>第6回 read and comprehend a variety of texts and genres 2(Assembly speed) 授業課題 (朗読理解)</p> <p>第7回 read and comprehend a variety of texts and genres 3(Applied capacity development)</p> <p>第8回 Increase ability to make accurate inferences from texts1 (Eliminate mistakes)</p> <p>第9回 Increase ability to make accurate inferences from texts2(Quick judgment)</p> <p>第10回 Written exercises Daily conversation(settle into conversation) 授業課題 (会話)</p> <p>第11回 Written exercises Daily conversation(amusing conversation))</p> <p>第12回 Read-English newspaper Sports section</p> <p>第13回 Read-English newspaper Political column 授業課題 (新聞読解)</p> <p>第14回 Read-English newspaper Social column</p> <p>第15回 Summary</p>
履修上の注意	予習は教科書の授業予定範囲を読んでおくこと。復習は講義内容を参照して要点をまとめること。3単元ごとに小テストを行う。テスト時には辞書および電子辞書を用意すること。
成績評価	授業中の課題 (40%)、定期試験 (60%) の結果を総合的に評価する
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>English newspaper Simply Reading, Simply Writing 南雲堂</p>

講義名	人体構造学Ⅰ（骨・筋系）									
講師名	吉崎 邦夫									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>人体を構成する骨格、関節靭帯、筋系の形態を機能に関連づけて理解を深めることである。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋、脊柱、胸椎、上肢、下肢の骨学各論、関節総論から角関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位、起始停止、支配神経、作用について学習する。</p>									
授業計画	第1回	解剖学総論								
	第2回	骨格系総論								
	第3回	筋系総論								
	第4回	関節・靭帯総論								
	第5回	体幹の骨								
	第6回	脊柱の筋								
	第7回	上肢の骨								
	第8回	上肢の筋								
	第9回	肩・肘・手および手指の関節							小テスト：上肢の骨	
	第10回	下肢の骨								
	第11回	下肢の筋								
	第12回	股・膝・足部および足指の関節								
	第13回	脊柱の関節								
	第14回	顔面の骨と筋								
	第15回	頭部の骨と筋								
履修上の注意	<p>解剖学テキストおよび配布資料を使った講義となる。筋の起始/停止/作用をまとめるワークシートの作成に取り組むことで筋の構造・機能の理解に役立てる。講義ノートをきっちりと取ることで講義内容の復習とその理解に努める。</p>									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	<p>解剖学（第3版）標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村嵯編（医学書院）</p>									
参考図書、その他	<p>プロメテウス 解剖学アトラス</p>									

講義名	人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）									
講師名	鍵井 一浩									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	系統解剖学では消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の4系統に所属する器官だけをとりあつかうが、本講義ではそれに加えて、（心臓及び脈管）循環器系について学習する。									
授業計画	第1回 内臓と脈管系について（総論） 第2回 消化器①（口腔・咽頭・食道） 第3回 消化器②（胃・小腸・大腸・直腸） 第4回 消化器③（肝臓・脾臓・腹膜） 第5回 呼吸器①（鼻腔・喉頭・気管・気管支） 第6回 呼吸器②（気管・気管支） 第7回 呼吸器③（肺） 第8回 泌尿器（腎臓・尿管・膀胱・尿路） 第9回 生殖器 第10回 心臓・動脈・静脈・リンパ系 第11回 体幹の脈管 第12回 上肢の脈管 第13回 下肢の脈管 第14回 頭頸部の脈管 第15回 断面解剖と画像診断									
履修上の注意	解剖学テキストおよび配布資料を使った講義となる。筋の起始/停止/作用をまとめるワークシートの作成に取り組むことで筋の構造・機能の理解に役立てる。講義ノートをきっちりと取ることで講義内容の復習とその理解に努めること。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	解剖学（第3版）標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村嵯編（医学書院）									
参考図書、その他	プロメテウス 解剖学アトラス									

講義名	人体構造学Ⅲ（神経系）									
講師名	玉井 靖彦									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、専門領域で学習する神経系疾患の理解するための基礎となる中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。内容は、細胞と神経、中枢神経の構成、脊髄、脳幹、小脳、間脳、後頭葉、頭頂葉、前頭葉、側頭葉の構造とその機能について学習する。また、運動や視覚、聴覚、体性感覚の伝導路について学習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 細胞と神経</p> <p>第2回 中枢神経の構成</p> <p>第3回 脊髄</p> <p>第4回 脳幹</p> <p>第5回 小脳</p> <p>第6回 間脳</p> <p>第7回 大脳皮質</p> <p>第8回 末梢神経（上肢）</p> <p>第9回 末梢神経（下肢）</p> <p>第10回 末梢神経（体幹）</p> <p>第11回 末梢神経（運動と感覚）</p> <p>第12回 自律神経</p> <p>第13回 平衡聴覚器・嗅覚器・味覚器の構造</p> <p>第14回 神経疾患と解剖学の繋がり</p> <p>第15回 頭部の断面と画像診断</p>									
履修上の注意	<p>配布資料を使った講義になる。後期には骨格筋に関する実習を行う。講義ノートをきっちりと取ることで講義内容の復習とその理解に努めること。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>人体の構造と機能 医学書院</p> <p>人体の正常構造と機能 日本医事新報社</p>									

講義名	人体構造学実習									
講師名	松井 有史									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、医学の基礎である解剖学、骨・筋の構造と機能について理解することである。内容は上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。学習目標は運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。</p>									
授業計画	第1回	上腕の骨	スケッチ						課題：スケッチ提出	
	第2回	前腕の骨	スケッチ						課題：スケッチ提出	
	第3回	手の骨	スケッチ						課題：スケッチ提出	
	第4回	下肢の骨格（寛骨・骨盤の構造）	スケッチ						課題：スケッチ提出	
	第5回	下肢の骨格（大腿骨・脛骨・腓骨）	スケッチ						課題：スケッチ提出	
	第6回	下肢の骨格（足の骨）	スケッチ						課題：スケッチ提出	
	第7回	上肢帯の筋								
	第8回	上腕の筋								
	第9回	前腕の筋							小テスト：スケッチ	
	第10回	手の筋								
	第11回	下肢の筋（寛骨筋）								
	第12回	下肢の筋（大腿の筋）								
	第13回	下肢の筋（下腿の筋）								
	第14回	下肢の筋（足の筋）								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	<p>解剖学テキストと配布資料を使った講義となる。講義ノートをきっちりと取ることで講義内容の復習とその理解に努めること。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>解剖学（第3版）標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 野村嵯編（医学書院）</p>									
	<p>参考図書、その他 人体の構造と機能 医学書院</p>									

講義名	体表解剖学演習									
講師名	河西 紀秀									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、体表解剖学で学習した内容をもとに、骨、関節、筋の触診技術修得と触診を通して皮膚下の組織の形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性の理解を深めることである。内容として、演習を通して上肢帯、肩関節、肘関節、前腕、手関節、手部、下肢帯、股関節、膝関節、下腿、足関節、足部、脊柱、骨盤の角部位の触診法と四肢体幹の触診法と四肢体幹の機能解剖について学習する。</p>									
授業計画	第1回	筋の触診（上肢帯前面）								
	第2回	筋の触診（上肢帯後面）								
	第3回	筋の触診（上肢前面）								
	第4回	筋の触診（上肢後面）								
	第5回	筋の触診（前腕前面）								
	第6回	筋の触診（前腕後面）								
	第7回	筋の触診（下肢帯前面）								
	第8回	筋の触診（下肢帯後面）								
	第9回	筋の触診（大腿前面）								
	第10回	筋の触診（大腿後面）								
	第11回	筋の触診（下腿前面）								
	第12回	筋の触診（下腿後面）								
	第13回	筋の触診総括（頭頸部、体幹）								
	第14回	筋の触診総括（上肢、下肢）								
	第15回	骨・筋の触診総括（頭頸部、体幹、上肢、下肢）								実技テスト
履修上の注意	<p>治療室での実技が中心となる。なお、講義態度が悪い学生は欠席扱いとするので注意すること。又、触診しやすい服装であること。</p>									
成績評価	実技試験(50%)、定期試験(50%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）					機能解剖学的触診技術 MEDICL VIEW 身体運動学 MEDICL VIEW				
	機能解剖学的触診技術（上肢）									

講義名	人体機能学Ⅰ									
講師名	渡邊 和子 / 柏木 克信									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>生体に対する外部からの様々な刺激により、興奮・伝達・収縮という身体の反射・反応が起こる。また、自らの意思で身体運動を惹起・継続することができる。外的刺激を受取り脊髄・脳に練達する感覚系。運動に関する制御や自動化などを行う神経系と運動の動力装置にあたる骨格筋の仕組みと機能について学習する。</p>									
授業計画	第1回	生理学概論								渡邊
	第2回	人体 マクロ								渡邊
	第3回	人体 ミクロ								渡邊
	第4回	骨格系・筋系（筋の分類、構造、神経支配）								渡邊
	第5回	骨格系・筋系（興奮収縮連関、収縮）								渡邊
	第6回	骨格系・筋系（筋線維の種類、筋肥大、筋萎縮）								渡邊
	第7回	骨格系・筋系（筋紡錘、Golgi腱器官）								渡邊
	第8回	骨格系・筋系（心筋、平滑筋）								渡邊
	第9回	神経系（中枢神経と末梢神経の構造と機能）								柏木
	第10回	神経系 （興奮の発生と伝導、末梢神経、自律神経、シナプス）								柏木
	第11回	神経系（大脳、間脳、大脳基底核、脳梁、辺縁系）								柏木
	第12回	神経系（小脳、脳幹、脊髄、脳の高次脳）								柏木
	第13回	感覚系（感覚とは）								柏木
	第14回	感覚系（体性感覚、内臓感覚）								柏木
	第15回	感覚系（特殊感覚）								柏木
履修上の注意	<p>難解であるが、頑張って授業についてくること。分からない点がある場合には、出来るだけのサポートは行うので、気軽に研究室まで質問にいくこと。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>人体の構造と機能 医学書院</p> <p>系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学、坂井建雄、岡田隆夫著（医学書院、2014）</p>									

講義名	人体機能学Ⅱ									
講師名	渡邊 和子 / 柏木 克信									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	人が活動するために必要な、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、体温調整、生体防御機能について理解することである。内容として、細胞機能（遺伝情報や分泌など）、筋の分類と機能、骨代謝、消化器系（咀嚼、嚥下、消化と吸収）、肝臓・胆のう・膵臓の機能、栄養と代謝、呼吸（喚起、外呼吸、ガス運搬、内呼吸）、心臓（刺激伝導路系、心電図）、循環器（血圧、末梢循環）、泌尿器系（腎臓の機能、排尿）、体温調整（水分、電解質、phの調節）、体温調節、生体防御機能について学習する。									
授業計画	第1回	血液								渡邊
	第2回	循環器系 （血液循環、心臓の興奮と刺激伝導系、血液の拍出と血圧）								渡邊
	第3回	循環器系（心電図、心周期）								渡邊
	第4回	循環器系（血圧調節、臓器循環、微小循環と物質交換）								渡邊
	第5回	呼吸器系（ガス交換とガス運搬）								渡邊
	第6回	呼吸器系（呼吸調節、病的呼吸）								渡邊
	第7回	細胞機能（遺伝情報）								渡邊
	第8回	内分泌系（内分泌機能とホルモン）								柏木
	第9回	内分泌系（各腺から分泌されるホルモンの作用）								柏木
	第10回	泌尿器系								柏木
	第11回	免疫系								柏木
	第12回	消化器系（消化器の役割、嚥下、胃の役割）								柏木
	第13回	消化器系（十二指腸、小腸、大腸、肝臓）								柏木
	第14回	生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）								柏木
	第15回	生殖器系（受精、着床、胎児、成長と老化）								柏木
履修上の注意	難解であるが、頑張って授業についてくること。分からない点がある場合には、出来るだけのサポートは行うので、気軽に研究室まで質問にくること。									
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	人体の構造と機能 医学書院 人体機能生理学 南江堂 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 学、坂井建雄、岡田隆夫著（医学書院、2014）									

講義名	人体機能学実習									
講師名	渡邊 和子 / 柏木 克信									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位

講義目標 授業目標は、血液、内分泌系、生殖系、感覚器、中枢神経系、筋生理について理解することである。授業内容として、血液（造血、止血、凝固）、内分泌機能（ホルモンの種類と作用機序）、生殖器（男性、女性）、神経細胞の構造と機能、感覚器系（体性感覚、内蔵感覚、特殊感覚）、筋（筋収縮のメカニズム、筋電図）について学習する。

授業計画	第1回	循環調節（心電図、血圧）	渡邊
	第2回	学習機能（プリズム適応）	渡邊
	第3回	実験データ解析	渡邊
	第4回	循環調節（心電図、血圧）	渡邊
	第5回	学習機能（プリズム適応）	渡邊
	第6回	実験データ解析	渡邊
	第7回	運動機能（筋電図）	渡邊
	第8回	運動制御（眼球運動）	渡邊
	第9回	実験データ解析	小テスト：1～8 渡邊
	第10回	運動機能（筋電図）	柏木
	第11回	運動制御（眼球運動）	柏木
	第12回	実験データ解析	柏木
	第13回	実験データ解析	柏木
	第14回	発表準備	柏木
	第15回	実験結果発表	柏木

履修上の注意

成績評価

小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する

テキスト

「はじめの一步のイラスト生理学」 照井直人編（羊土社）

参考図書、その他

トートラ 人体解剖生理学 原書10版 佐伯由香他編訳（丸善）
 新生理学 第4版 小幡邦彦他著（文光堂）
 標準生理学 第7版 小澤静司他監修（医学書院）

講義名	運動学Ⅰ									
講師名	新宅 幸憲									
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業内容は、四肢・体幹の解剖学を基本として、身体各部の構造と機能に応じた運動について理解することである。内容としては、脊柱・股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節と主部の構造および筋活動と動き、胸郭運動と呼吸について学習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 運動学とは何か</p> <p>第2回 肩複合体の機能解剖と運動のメカニズム（肩甲・上腕リズム）</p> <p>第3回 肘関節と前腕の機能解剖と運動のメカニズム</p> <p>第4回 手関節と手指の機能解剖と運動のメカニズム</p> <p>第5回 股関節と膝の機能解剖と運動のメカニズム</p> <p>第6回 足関節と足部の機能解剖と運動のメカニズム</p> <p>第7回 脊柱の機能解剖と運動のメカニズム</p> <p>第8回 胸郭の機能解剖と呼吸運動のメカニズム</p> <p>第9回 顔面と顎関節の機能解剖と運動のメカニズム</p> <p>第10回 反射と筋緊張亢進について学ぶ</p> <p>第11回 不随意運動の種類と評価方法について学ぶ</p> <p>第12回 随意運動の考え方と評価論について学ぶ</p> <p>第13回 運動制御とは、運動学習とは</p> <p>第14回 運動制御と運動学習の諸理論</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意	<p>講義で用いた教科書やプリント、ノートについて復習し、要点をまとめること。授業中は私語は慎むこと。日程は、進行状況によって前後することがある。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>関節内運動学 南江堂 身体運動学 MEDICL VIEW</p> <p>基礎運動学 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	運動学Ⅱ
講師名	新宅 幸憲
学年	1 年 学期 後期 時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、人の身体運動の力（モーメント）と言ったバイオメカニクスに関する知識および、モーメントとの釣り合いとその力学的分析から身体運動の理解を深めることである。授業内容として、バイオメカニクスの基礎知識として、滑車、ベクトル、時間、速度、関節モーメント、重心、仕事、運動連鎖、立ち上がり動作とモーメント、正常歩行の基礎知識、歩行時の床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動などについて学習する。
授業計画	<p>第1回 力の合成・分解、モーメント</p> <p>第2回 重心、Newtonの運動法則、エネルギー、てこ</p> <p>第3回 骨・関節の構造と機能 関節包内運動、凹凸の法則</p> <p>第4回 筋・神経の構造と機能 （長さ張力曲線、筋の収縮様式、赤筋・白筋）</p> <p>第5回 反射・姿勢保持の神経機構、随意運動の神経機構 （伸張反射、反射の統合レベル）</p> <p>第6回 正常運動発達について</p> <p>第7回 さまざまな姿勢について学ぶ</p> <p>第8回 重心と姿勢の安定性</p> <p>第9回 姿勢の分析と姿勢制御</p> <p>第10回 歩行の時間因子・距離因子</p> <p>第11回 正常歩行時の筋活動、関節運動、床反力</p> <p>第12回 代表的異常歩行、動作分析</p> <p>第13回 歩行と運動学的分析について学ぶ</p> <p>第14回 上肢運動の種類と評価方法について学ぶ</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	講義で用いた教科書やプリント、ノートについて復習し、要点をまとめること。授業中は私語は慎むこと。日程は、進行状況によって前後することがある。
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>身体が求める運動とは何か 文光堂</p> <p>基礎運動学 医歯薬出版株式会社</p>

講義名	運動学実習									
講師名	新宅 幸憲									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を観察し、運動学的視点から運動障害分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲骨・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り、起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。</p>									
授業計画	第1回	身体運動の種類と分析								
	第2回	運動制御と運動学習の運動学的評価①（運動制御）								
	第3回	運動制御と運動学習の運動学的評価②（運動学習）								
	第4回	姿勢制御の運動学的評価①（立位）								
	第5回	姿勢制御の運動学的評価②（座位）								
	第6回	バランス機能の運動学的評価								
	第7回	寝返り、起き上がり、立ちあがりの運動学的評価								
	第8回	転倒の運動学的評価								
	第9回	上肢運動麻痺の運動学的評価							小テスト：1～8	
	第10回	下肢運動麻痺の運動学的評価								
	第11回	運動失調の運動学的評価								
	第12回	加齢に伴う姿勢変化の運動学的評価								
	第13回	正常歩行と病的歩行の運動学的評価 ①（正常歩行）								
	第14回	正常歩行と病的歩行の運動学的評価 ②（病的歩行）								
	第15回	上記内容の総まとめ及び復習								
履修上の注意	<p>患者像をイメージし、講義内容を理解することが重要であり、運動学的用語を用いて動作分析を行えることは臨床において必要不可欠である。 常に自分の体で動きながら知識を整理してもらうため、動きやすい服装で臨むこと。また積極的に質問し自ら学習達成度を高める努力をすること。</p>									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>関節内運動学 南江堂 身体運動学 MEDICL VIEW 機能解剖学的触診技術 MEDICL VIEW</p> <p>基礎運動学 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	人間発達学									
講師名	幸福 秀和									
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	人の一生を「生涯発達」の視点で捉え、誕生から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期を経て、生涯を終える過程で生じる生理的（身体・運動）、心理的発達について学習する。これにより、人の支援に関わる専門家が習得すべき人間行動理解の基礎を形成することを目的とする。									
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、生涯発達理論概説</p> <p>第2回 胎芽、胎児期の成長</p> <p>第3回 乳幼児の成長</p> <p>第4回 幼児～学童期までの成長</p> <p>第5回 学童期の成長</p> <p>第6回 学童期～思春期までの成長</p> <p>第7回 思春期までの運動発達のみとめ</p> <p>第8回 青年期以降の発達①：発達観の変化と生涯発達</p> <p>第9回 青年期以降の発達②：生涯発達と生涯学習</p> <p>第10回 青年期以降の発達③：個人のライフコースと社会</p> <p>第11回 青年期の発達</p> <p>第12回 成人期の発達</p> <p>第13回 高齢期の発達</p> <p>第14回 青年期以降の発達のみとめ</p> <p>第15回 生涯発達の視点</p>									
履修上の注意	予習・復習は欠かさずに実行すること。									
成績評価	レポート(30%)、定期試験(70%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	人間発達学（コメディカルのための専門基礎分野テキスト）改訂5版 中外医学社									

講義名	神経内科学Ⅰ									
講師名	玉井 靖彦									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、神経内科疾患とその治療について理解することである。授業内容として、神経症候群の概要や主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病など、リハビリテーションの対象になることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後について学習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 神経内科学序論。神経内科とは何か</p> <p>第2回 疾患理解のための神経系の解剖と生理の復習（中枢神経）</p> <p>第3回 疾患理解のための神経系の解剖と生理の復習（末梢神経、筋）</p> <p>第4回 病歴の取り方</p> <p>第5回 意識障害の診察</p> <p>第6回 反射の診察</p> <p>第7回 運動麻痺の診察</p> <p>第8回 知覚障害の診察</p> <p>第9回 運動失調の診察</p> <p>第10回 錐体外路症状の診察</p> <p>第11回 高次脳機能障害（失語）</p> <p>第12回 高次脳機能障害（失認、失行、記憶力障害等）</p> <p>第13回 画像診断</p> <p>第14回 電気生理検査</p> <p>第15回 その他の神経学的検査法</p>									
履修上の注意	<p>配布する資料を中心にすすめる。パソコンでのプレゼンテーションを併用することがある。講義時間中に適宜小テストを行う場合がある。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>田崎義昭ら「ベッドサイドの神経の見方」改訂16版 南山堂</p>									
参考図書、その他	<p>標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院</p>									

講義名	神経内科学Ⅱ									
講師名	玉井 靖彦									
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位

講義目標 授業目標は、脳神経疾患とその治療について理解することである。具体的には、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄・脊椎腫瘍など、リハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断と治療法の概要やその経過について学習する。

授業計画	第1回	頭痛およびてんかんをおこす疾患	
	第2回	血管障害（梗塞性疾患）	
	第3回	血管障害（出血性疾患）	
	第4回	変性疾患（認知症）	
	第5回	変性疾患（脊髄小脳変性症）	
	第6回	変性疾患（運動ニューロン病）	
	第7回	変性疾患（錐体外路系疾患）	
	第8回	脱髄性疾患	
	第9回	神経領域の外傷	小テスト：1～8
	第10回	脳腫瘍	
	第11回	炎症性疾患	
	第12回	末梢神経疾患	
	第13回	筋疾患	
	第14回	栄養障害、代謝疾患	
	第15回	内科的疾患に伴う疾患	

履修上の注意 配布する資料を中心にすすめる。パソコンでのプレゼンテーションを併用することがある。講義時間中に適宜小テストを行う場合がある。

成績評価 小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する

テキスト

水野美邦「神経内科ハンドブック 一鑑別診断と治療— 第3版」医学書院

参考図書、その他

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院

講義名	整形外科学Ⅰ									
講師名	岡安 勤									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、リハビリテーションの対象となる整形外科疾患の病態、診断と治療について理解することである。整形外科学Ⅰの内容は、整形外科の対象疾患と診断、総論および、各論として関節リウマチ、慢性関節疾患、循環障害、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患、骨腫瘍、整形外科的神経疾患などの病態と診断・治療について学習する。また、治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。</p>									
授業計画	第1回	整形外科総論（対象疾病と基礎科学）								
	第2回	整形外科総論（診断と治療法）								
	第3回	骨・関節の感染症								
	第4回	関節リウマチの概要と診断								
	第5回	関節リウマチの治療と最近の考え方（寛解から治癒へ）								
	第6回	慢性関節疾患								
	第7回	四肢循環障害と阻血壊死性疾患								
	第8回	代謝性骨疾患（骨粗鬆症を中心に）								
	第9回	骨腫瘍総論（分類・診断・治療）								小テスト：1～8
	第10回	骨腫瘍各論（原発性良性および悪性骨腫瘍）								
	第11回	軟部腫瘍総論・各論（分類・診断・治療と疾患）								
	第12回	整形外科的神経疾患（絞扼性神経障害など）								
	第13回	肩関節1（機能解剖・検査）								
	第14回	肩関節2（疾患）								
	第15回	肘関節（機能解剖・検査・疾患）								
履修上の注意	<p>パワーポイントを用い教科書を基礎に講義する。さらに実際の臨床例、最新の動向や治療についてもビデオ画像などで解説し必要に応じてプリントを配布する。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>内田淳正「標準整形外科学」医学書院</p>									
	<p>参考図書、その他</p> <p>整形学的テキスト 南江堂 病気がみえる運動器・整形外科 MEDICL VIEW</p>									

講義名	整形外科学Ⅱ										
講師名	岡安 勤										
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位	
講義目標	<p>授業目標は、整形外科学Ⅰで修得した整形外科の基礎知識をもとに、部位別疾患と外傷学について理解を深め、その病態理解に必要な解剖やバイオメカニクス、診断と治療について理解することである。授業内容として、手と手関節、頸椎と胸椎・腰椎、股関節、膝関節、足関節などの各部の機能解剖と病態、その診断と治療について学習する。また、外傷や軟部組織損傷、骨折や脱臼などの病態と診断・治療について学習する。</p>										
授業計画	第1回	手関節・手1	(機能解剖・診断・検査)								
	第2回	手関節・手2	(疾患)								
	第3回	頸椎・胸郭									
	第4回	胸椎・腰椎1	(機能解剖・診断・検査)								
	第5回	胸椎・腰椎2	(疾患)								
	第6回	股関節1	(機能解剖・診断・検査)								
	第7回	股関節2	(疾患)								
	第8回	膝関節1	(機能解剖・診断・検査)								
	第9回	膝関節2	(疾患)								小テスト：1～8
	第10回	足関節・足									
	第11回	外傷総論・軟部組織損傷									
	第12回	骨折・脱臼	(成人上肢)								
	第13回	骨折・脱臼	(成人下肢)								
	第14回	小児の骨折									
	第15回	脊椎損傷									
履修上の注意	<p>パワーポイントを用い教科書を基礎に講義する。さらに実際の臨床例、最新の動向や治療についてもビデオ画像などで解説し必要に応じてプリントを配布する。</p>										
成績評価	<p>小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>										
テキスト	<p>内田淳正「標準整形外科学」医学書院</p>										
	<p>参考図書、その他</p> <p>整形学的テキスト 南江堂</p>										

講義名	小児科学									
講師名	岡安 勤									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	小児のリハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な小児神経学および小児科学関連領域の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき小児科疾患を概説する。									
授業計画	<p>第1回 小児の成長発育と発達、保健</p> <p>第2回 小児に特有な一般的身体所見と症候</p> <p>第3回 小児に特有な神経症候、神経学的検査法</p> <p>第4回 脳性麻痺</p> <p>第5回 発達障害 1</p> <p>第6回 発達障害 2</p> <p>第7回 小児てんかん</p> <p>第8回 中枢神経・精神疾患</p> <p>第9回 末梢神経・筋疾患</p> <p>第10回 新生児・未熟児</p> <p>第11回 循環器疾患</p> <p>第12回 内分泌疾患</p> <p>第13回 遺伝病・先天異常</p> <p>第14回 感染症・免疫疾患</p> <p>第15回 血液疾患、腫瘍、その他リハビリテーション介入時に問題となる小児疾患</p>									
履修上の注意	事前:教科書の当該部分を読んでく 講義 今井 る。事後:当日配布資料を復習する。多くのことを学ぶので、予習復習を行い積極的に講義に参加するようにする。									
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	標準理学療法学・作業療法専門基礎分野 小児科学 医学書院									
	参考図書、その他									

講義名	予防医学									
講師名	吉崎 邦夫									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	現在の日本では、ライフスタイルの変化、高齢化、ストレス過剰、環境汚染などを背景として生活習慣病や心の病が増加している。予防医学は、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について理解を深めることを目標とする。授業内容として、健康増進と予防医学の概念、健康問題と施策、高齢化社会と介護予防、生活習慣と予防、運動と予防、ストレスとメンタルヘルスなどを学習する。									
授業計画	第1回	予防医学総論 健康の定義と概念、障害の発生要因、健康増進の概念								
	第2回	主要疾患とその動向 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患等の主要疾患								
	第3回	医療関係法規と制度 医事・薬事・地域保健・医療・福祉に関する法規について								
	第4回	母子保健制度と健やか親子 21 母子保健制度・統計、健やか親子 21、児童虐待等について								
	第5回	障害者の医療と福祉、介護保険制度 社会保障の考え方、社会福祉の組織、障害者基本法、身体障害者福祉法、生活保護法、介護保険法について説明する								
	第6回	感染症と関連法規 感染成立の条件、感染症法の体系、感染症発生動向調査、新型インフルエンザ、結核、予防接種等について説明する								
	第7回	精神保健、健康日本 21 と健康増進								
	第8回	飲酒・喫煙と健康 飲酒・喫煙の健康・経済的影響について								
	第9回	産業保健制度と関連法規 産業保健の目的、労働衛生行政組織、労働災害について								
	第10回	物理的要因と化学的要因 放射能や騒音、化学物質などの健康影響について								
	第11回	放射線の健康影響について 放射線の種類、人体への健康影響について								
	第12回	循環器疾患の危険因子と予防 スポーツ障害の予防								
	第13回	学校保健 学校保健の目的、特性、保健教育、保健学習、保健管理など								
	第14回	がんの危険因子と予防 がんの危険因子、発癌物質、合併症、予防因子について								
	第15回	産業疲労 労働疲労の種類と対策、労働負担の諸要素等について								
履修上の注意	予防治療学について様々な観点から学習する。 多くのことを学ぶので、予習復習を行い積極的に講義に参加するようにすること。									
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	テキスト 健康科学 南江堂 高血圧と循環器病の予防と管理 高血圧・循環器病予防療養指導士認定委員会									
	NEW予防医学・公衆衛生学 南江堂									

講義名	救急援助論									
講師名	田中 優									
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、医療に関わる職種として生命を脅かす病態の兆候を示す患者への医学的な初期対処法を理解し実施できることである。授業内容として、普通救命の基礎、救急医療を必要とする疾患とその兆候、ショックや意識消失時などの生体反応と対応、死に直結する疾患とその兆候、整形外科領域の病態と初期対応などについて学習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 救急病態 全身病態</p> <p>第2回 救急病態 局所病態</p> <p>第3回 救急疾患（循環器疾患・心臓）</p> <p>第4回 救急疾患（循環器疾患・血管）</p> <p>第5回 救急疾患（呼吸器疾患・気道）</p> <p>第6回 救急疾患（呼吸器疾患・肺）</p> <p>第7回 救急疾患（中枢神経疾患・脳）</p> <p>第8回 救急疾患（中枢神経疾患・脊髄）</p> <p>第9回 救急疾患（消化器疾患・食道や胃など）</p> <p>第10回 救急疾患（消化器疾患・小腸や大腸など）</p> <p>第11回 救急疾患（代謝疾患）</p> <p>第12回 救急疾患（外因性疾患）</p> <p>第13回 心肺蘇生法</p> <p>第14回 総括及びフィードバック</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意	<p>講義形式で行い、間に質疑応答を行う。心肺蘇生については実技指導も行う。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>渡邊隆夫ら メディカルスタッフのための救急医学 医学出版社 2007</p>									
参考図書、その他	<p>救急ナースのための超はやわかり疾患ブック メディカ出版</p>									

講義名	臨床・画像診断学									
講師名	田中 優									
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位

講義目標 理学療法士・作業療法士にとって臨床現場で必要となる主な対象疾患・外傷のX-P、CT、MRIなどの画像について、読影の基本を学び、正常像と異常像の違いや各画像の見方・読み方などを理解し、対象患者の病変・損傷部位とその性質や症状との関連性を理解できる能力を養う。

授業計画	第1回	運動器の疾患・外傷：骨折、脱臼	
	第2回	運動器の疾患・外傷：靭帯損傷、筋・腱損傷、骨粗鬆症	
	第3回	運動器の疾患・外傷：骨関節の変性疾患、感染症	小テスト
	第4回	運動器の疾患・外傷：リウマチ、炎症性疾患	
	第5回	運動器の疾患・外傷：脊椎、脊髄疾患	
	第6回	胸部画像：正常胸部画像	小テスト
	第7回	胸部画像：代表的な疾患	
	第8回	腹部画像：正常腹部画像	
	第9回	腹部画像：腹部消化器の代表的な疾患	小テスト
	第10回	腹部画像：泌尿生殖器、後腹膜臓器の代表的疾患	
	第11回	脳神経系の疾患：出血性脳血管障害の画像	
	第12回	脳神経系の疾患：虚血性脳血管障害の画像	小テスト
	第13回	脳神経系の疾患：脳腫瘍の画像	
	第14回	脳神経系の外傷：頭部外傷の画像	
	第15回	脳神経系の疾患：脳変性疾患の画像	

履修上の注意

成績評価 小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する

テキスト 参考図書、その他

理学療法士・作業療法士 PT・OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版
医歯薬出版 2019

講義名	チーム医療論									
講師名	京 雪楓									
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、多職種で協働し連携していくために必要なチームワークの基礎を学習する。そのために、第一に人と人が協働して物事を達成することの基本を学ぶ。次に、保健医療の歴史と現状を概観することを通じて、協働や連携がどのような過程で発展してきたかについて理解を深める。また、医療福祉現場で起こりうる連携の問題を身近な例を通して理解できるようにする。</p>									
授業計画	第1回	チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について								
	第2回	チーム医療における看護師・保健師の役割と活動								
	第3回	チーム医療における理学療法士の役割と活動								
	第4回	チーム医療における薬剤師の役割と活動								
	第5回	チーム医療における管理栄養士の役割と活動								
	第6回	チーム医療における社会福祉士の役割と活動								
	第7回	チーム医療における保育士・幼稚園教諭・小中学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動								
	第8回	チーム医療における病院における情報管理と事務系と診療情報士の役割と活動								
	第9回	チーム医療アプローチについて								
	第10回	チームビルディング	小テスト：チームアプローチ							
	第11回	模擬症例検討・報告書作成①（症例1）								
	第12回	模擬症例検討・報告書作成②（症例2）								
	第13回	発表・フィードバック①（症例1について）								
	第14回	発表・フィードバック②（症例2について）								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	<p>臨床現場において各職種との連携は必須である。そのために、本講義では各職種の役割を理解し、どのようにかかわるのかを検討する。予習復習をしっかりと行い講義に臨むこと。</p>									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>「チーム医療」とは何か 日本看護協会出版社 新しいチーム医療 看護の科学社</p> <p>チーム医療論 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	地域包括ケア論									
講師名	鍵井 一浩									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進む中で、住み慣れた地域で医療と福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論では、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め実践の在り方について理解することを授業目標とする。授業内容として、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステムの概念と制度、地域包括ケアを支える専門職と地域住民の役割、地域包括ケアセンターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題、事例を通して地域ケア包括システムの構築に向けた方法を学習する。</p>									
授業計画	第1回	地域包括ケアの概論								
	第2回	福祉関連法的諸制度・介護保険制度とサービス								
	第3回	介護保険の理学療法								
	第4回	高齢者の体と心の変化								
	第5回	障害者の体と心の変化								
	第6回	地域の社会資源について①（フォーマル）								
	第7回	地域の社会資源について②（インフォーマル）								
	第8回	自助・互助・公助・共助①								小テスト：社会資源
	第9回	自助・互助・公助・共助②（関係性）								
	第10回	地域づくりについて①（地域づくりとは）								
	第11回	地域づくりについて②（住民主体）								
	第12回	地域課題について①（地域課題とは）								
	第13回	地域課題について②（課題の発見）								
	第14回	グループワーク・地域課題の解決								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	<p>今後、地域で活動する理学療法士は増加すると思われる。その中で活躍するためにしっかりと学ぶこと。 予習復習をしっかりと行い講義に臨むこと。</p>									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>よくわかる地域包括ケアの理論と実践 日本医療企画</p> <p>地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク 株式会社勤草書房</p>									

講義名	地域環境活動演習									
講師名	鍵井 一浩／山田 隆人									
学年	4	年	学期	前期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、地域で行われる活動に対して理学療法士の観点から支援方法の検討する。地域には、さまざまな活動が身近にあり、自治団体などの活動方法やボランティア活動も注目されており、自分の人生を豊かにするだけでなく、活力ある地域づくりにもつながる。その方法を演習形式で議論し、様々な問題に対する解決方法を模索する。</p>									
授業計画	<p>第1回 現状の医療・福祉・介護と今後の方向性</p> <p>第2回 地域連携(医師の役割と理学・作業療法士との関係)</p> <p>第3回 地域連携(看護師の役割と理学・作業療法士との関係)</p> <p>第4回 地域連携(作業療法士と理学療法士との関係)</p> <p>第5回 地域連携(言語聴覚士の役割と理学・作業療法士との関係)</p> <p>第6回 地域連携(医療ソーシャルワーカーの役割と理学・作業療法士との関係)</p> <p>第7回 地域連携(ケアマネージャーの役割と理学・作業療法士との関係)</p> <p>第8回 地域連携における理学・作業療法士の役割と必要性</p> <p>第9回 事例検討① 要介護</p> <p>第10回 事例検討② 要支援</p> <p>第11回 事例検討③ 生活保護</p> <p>第12回 地域連携における社会資源の種類を理解</p> <p>第13回 地域連携における社会資源の活用法</p> <p>第14回 社会資源の開発と新しい発想、介護プランの立案</p> <p>第15回 担当会議の理解(疑似体験)</p>									
履修上の注意	<p>事前に配布した資料やテキスト、参考図書などを読み理学療法士が連携する他職種を少しでも理解しておくこと。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版 羊土社</p> <p>標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院</p>									

講義名	地域包括ケア演習						
講師名	鍵井 一浩／松井 有史						
学年	4 年	学期	前期	時間	30 時間	選択	1 単位
講義目標	授業目標は、和歌山市で行われている自立支援について理解することにある。和歌山市では、自立支援を独自の定義化を行い、様々な取組を行っている。その取組に対して理学療法士の専門性を生かした支援を体験する。また、企画において学生らしい発想を持って新たな支援方法を検討してほしい。						
授業計画	第1回 2025年問題を理解 第2回 高齢者の特徴の生理（心身能力の低下、経済面） 第3回 高齢者が在宅生活を選択する意味 第4回 高齢者の生活背景（家族関係の変化、役割の変化） 第5回 高齢者とリハビリテーション 第6回 高齢者と介護サービス（施設サービス） 第7回 高齢者と介護サービス（在宅サービス） 第8回 高齢者と介護サービス（その他サービス、インフォーマルサービス） 第9回 高齢者の住まいと住まい方（和歌山市との比較） 第10回 高齢者を取り巻く医療保険機関（和歌山市周辺の医療機関の特徴） 第11回 高齢者を取り巻く社会福祉施設（和歌山市周辺の社会福祉施設） 第12回 高齢者を取り巻くインフォーマルサービス（和歌山市周辺のインフォーマルサービス） 第13回 医療提供体制変遷から考える地域連携の必要性（和歌山市の現状） 第14回 医療関係機関の施設・介護サービスの連携を理解 第15回 地域包括ケアシステムの理解（和歌山市の現状把握）						
履修上の注意	事前にテキストや参考図書、配布資料を読み、高齢者を取り巻く環境がどのように変化しているかを理解しておくこと。						
成績評価	講義中のプレゼン(50%)、レポート課題(50%)にて判断する。						
テキスト	参考図書、その他 標準理学療法学（地域理学療法学）医学書院 介護支援専門実践テキスト 中央法規						

講義名	理学療法概論									
講師名	松永 秀俊						(実務経験者)			
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、理学療法の対象、目的、役割などの理解を深め、理学療法の目指すものを正しく理解することである。また、作業療法実施過程や理論を知り、各領域の作業療法を理解することである。授業内容として、作業療法の定義や理念、作業療法の捉えている理学療法とは何か、対象や働く場所、人の健康の捉え方(ICF)、社会状況や法・制度、他職種連携について学習する。</p>									
授業計画	第1回	理学・作業療法の歴史、理学・作業療法の定義、理学・作業療法を構成する各種技術の概要、理学療法とリハビリテーション。								
	第2回	理学・作業療法と障害、医学の領域、理学・作業療法の対象。								
	第3回	理学療法の流れ、理学療法における診療ガイドラインの適用。								
	第4回	理学療法士の使命と倫理、理学療法士に関する法律。								
	第5回	理学療法士・作業療法士が働く現場。								
	第6回	理学療法士・作業療法士の職能及び多職種について。								
	第7回	理学療法（士）教育。								
	第8回	中枢神経疾患理学療法概論。								
	第9回	骨関節疾患理学療法概論。							小テスト1～8	
	第10回	小児理学療法概論。								
	第11回	感染予防。								
	第12回	理学療法研究。								
	第13回	理学療法士と報酬。								
	第14回	医療事故。								
	第15回	理学療法記録とまとめ方、臨床実習において学生に求められるもの。								
履修上の注意	毎回出席し、予習・復習をしっかりと行うこと。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	<p>理学療法概論テキスト（理学療法入門テキスト 改訂第3版）著者名：監修 細田多穂、編集 中島喜代彦、森田正治、久保田章仁 出版社：南江堂</p>									
	<p>参考図書、その他 理学療法概論 医歯薬出版</p>									

講義名	基礎理学療法学Ⅰ									
講師名	栗川 幹雄			(実務経験者)						
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、理学療法の歴史や、理学療法士の活動と役割を理解すること理学療法における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は歴史を通し、現在のあるべき理学療法像の言及すべく分析を行ない、レポートにて考察することで理解を含めていく。</p>									
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションとは</p> <p>第2回 理学療法とは</p> <p>第3回 理学療法士の要件</p> <p>第4回 リハビリテーション医療における理学療法士の責務</p> <p>第5回 運動の効果と必要性</p> <p>第6回 2次的障害と対策</p> <p>第7回 理学療法の実際1 (接遇・マナー・患者対応)</p> <p>第8回 理学療法の実際2 (姿勢変換・自動運動・他動運動)</p> <p>第9回 理学療法の実際3 (理学療法における評価)</p> <p>第10回 理学療法の実際4 (関節可動域訓練、筋力増強訓練)</p> <p>第11回 理学療法実際5 (ADLトレーニング)</p> <p>第12回 理学療法と補装具</p> <p>第13回 障がい者の心理的・社会的問題と理学療法</p> <p>第14回 障がい者のスポーツ</p> <p>第15回 理学療法士教育とスーパービジョン</p>									
履修上の注意	<p>理学療法の知識・技術を学ぶ上での基礎となる授業である。今後の専門科目で行われる多くの課題学習や問題解決型学習のための出発点でもあるので、その準備として、少しの疑問でもあれば積極的に質問して解決していく姿勢を身に付けていくこと。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>「運動療法学テキスト」改訂第2版 南江堂</p>									
参考図書、その他	<p>基礎理学療法学 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	基礎理学療法学Ⅱ							
講師名	松井 有史						(実務経験者)	
学年	1	年	学期	後 期	時間	30 時間	必修	1 単位
講義目標	授業目標は、理学療法における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は、評価から治療に至るまでの課程や、チーム医療の役割について理解を深めていくことである。							
授業計画	第1回 生体の形 第2回 生体の動き 第3回 生体力学 第4回 生体力学（力と運動の法則） 第5回 生体力学（エネルギー） 第6回 生体力学（角度、角速度、角加速度） 第7回 筋力と筋持久力（筋力） 第8回 筋力と筋持久力（筋持久力） 第9回 認知/運動 第10回 歩行 第11回 関節可動域障害 第12回 筋力低下/筋細胞の壊死と再生/創傷/靭帯損傷 第13回 神経損傷/脳の可塑性と運動学習 第14回 運動技能と運動学習（運動技能） 第15回 運動技能と運動学習（運動学習）							
履修上の注意	基礎理学療法学Ⅱは、機能形態学と理学療法を結び付けていく科目といえる。両者を行き来しながら、学習内容を確認したり、統合し、理学療法士としての基礎力を高めること。							
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する							
テキスト	『基礎理学療法学』、大橋ゆかり編、「医歯薬出版」、2012年、第1版							
	参考図書、その他 標準理学療法学 基礎理学療法学 医学書院							

講義名	理学療法研究論									
講師名	松永 秀俊					(実務経験者)				
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	近年の医療界の潮流として科学的根拠に基づく理学療法の実践が重要視され、保険算定の中でも世界的に根拠のない治療は算定外となったり減算となったりしてきている。本講義では理学療法の科学的検証を行うことを目標とし、研究の総論に始まり研究計画の立案から統計学的分析手法の選択、研究の実施、論文の書き方までを実践することで学修する。									
授業計画	第1回	オリエンテーション、臨床研究の基礎概念を学ぶ								
	第2回	統計学の基礎概念、データベースの収集・構築の方法について学ぶ。								
	第3回	群間データの分析方法を学ぶ。								
	第4回	多群間データ、対応データの分析方法を学ぶ。								
	第5回	回帰と相関について学ぶ。								
	第6回	解析結果のまとめ方、表現方法（グラフ等）を学ぶ。								
	第7回	研究デザイン、倫理、個人情報、研究計画書の書き方について学ぶ。								
	第8回	文献検索、論文抄読について学ぶ。								
	第9回	理科系文章、図・表の作り方、論文作成について学ぶ。								
	第10回	三次元動作解析、床反力計、筋電図計について学ぶ。								
	第11回	課題作成①情報収集								
	第12回	課題作成②情報収集								
	第13回	課題作成③レポート作成								
	第14回	課題作成④レポート作成								
	第15回	課題作成⑤レポート作成								
履修上の注意	様々なデータを実際に分析し、方法を学ぶ。 また、グループで課題を作成しレポートを提出してもらう。グループ内だけでなく、たくさんの人とディスカッションを行いレポート作成を行うこと。									
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	標準理学療法学 基礎理学療法学 医学書院 理学療法学 医歯薬出版株式会社									基礎
	『基礎理学療法学』、大橋ゆかり編、「医歯薬出版」、 2012年、第1版 「運動療法学テキスト」改訂第2版 南江堂									

講義名	臨床理学療法学									
講師名	吉崎 邦夫					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、理学療法の臨床において、発症時のエピソードとその後の経過、現在の症状と理学療法検査・測定結果を統合し解釈して臨床推論を行い、問題点の解決に向けて、目標設定、プログラムの立案を行う、理学療法評価のプロセスを有痛疾患のケーススタディを通して学ぶ。授業内容はそれぞれのケースにおける評価から治療までの課程を考案し、ゴール設定を各グループでまとめ発表し理解を深める。</p>									
授業計画	<p>第1回 障害概論</p> <p>第2回 医学的リハにおける障害評価とその手順</p> <p>第3回 痛みのとらえ方</p> <p>第4回 痛みのとらえ方（臨床推論：クリニカルリーズニング）</p> <p>第5回 有痛性疾患のケーススタディⅠ（肩関節）演習；症例理解</p> <p>第6回 有痛性疾患のケーススタディⅠ（肩関節）演習；課題解決</p> <p>第7回 有痛性疾患のケーススタディⅡ（肩関節）演習；症例理解</p> <p>第8回 有痛性疾患のケーススタディⅡ（肩関節）演習；課題解決</p> <p>第9回 有痛性疾患のケーススタディⅢ（腰部）演習；症例理解</p> <p>第10回 有痛性疾患のケーススタディⅢ（腰部）演習；課題解決</p> <p>第11回 有痛性疾患のケーススタディⅣ（腰部）演習；症例理解</p> <p>第12回 有痛性疾患のケーススタディⅣ（腰部）演習；課題解決</p> <p>第13回 有痛性疾患のケーススタディⅤ（下肢）演習；症例理解</p> <p>第14回 有痛性疾患のケーススタディⅤ（下肢）演習；課題解決</p> <p>第15回 ケーススタディの総括</p>									
履修上の注意	<p>学生全員参加型の授業展開をする。その中で実際にケースの評価を実施し、そのプロセスを評価する。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>痛み学 -臨床のためのテキスト-熊澤孝朗訳 名古屋大学出版会</p> <p>基本編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版 文光堂</p>									

講義名	理学療法臨床診断学									
講師名	田中 優			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法士において、「診断」という言葉は通常使われるものではない。しかし、医師が行う診断とはちがひ、対象者の「生活機能」についてどのような状態であるかを判断し、そこから治療方針を策定する必要が臨床では多々ある。血液検査、レントゲン・CT・MRIなどの読み取り、整形外科テストから損傷の有無を判断する。バランス能力などの観察技術の経験し学習する。「生活機能診断」を行うために必要な知識と技術の習得を目指す。									
授業計画	第1回	理学療法における診断とはなにか？								
	第2回	カルテの読み方・書き方								
	第3回	医学所見の読み方 血液検査								
	第4回	医学所見の読み方 生化学検査								
	第5回	画像所見 レントゲン読影総論								
	第6回	画像所見 レントゲン読影各論								
	第7回	画像所見 MRI読影（脳）								
	第8回	画像所見 MRI読影（運動器）								
	第9回	画像所見 エコー読影								
	第10回	整形外科テスト 上肢								
	第11回	整形外科テスト 下肢								
	第12回	バランス能力の検査と評価								
	第13回	理学療法診断について 機能・構造レベル								
	第14回	理学療法診断について 活動／参加レベル								
	第15回	運動機能・活動診断								
履修上の注意	様々な検査所見を理学療法士の視点で理解し判断することは臨床場面で求められる。そのために必要なことを学ぶ。 予習復習をしっかりと行い講義に臨むこと。									
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略 医学書院									
	そのとき理学療法士はこう考える 医学書院									

講義名	理学療法評価学総論Ⅰ									
講師名	吉崎 邦夫			(実務経験者)						
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法における評価の目的とその具体的な検査方法について理解し実施できるようにする。具体的には、理学療法評価の方法、病歴のとり方、形態測定、関節可動域測定(ROM-T)、徒手筋力テスト(MMT)について決められている方法通りに施行し、代償運動等に注意して正確にできるようにすることである。									
授業計画	第1回	評価の目的・過程、ICIDH、ICF								
	第2回	トップダウン評価、ボトムアップ評価、記録、問題点リストの整理の仕方								
	第3回	病歴のとり方、現症のとり方								
	第4回	形態測定の意義と目的、形態測定の実際、肢長・周径の測定								
	第5回	形態測定の実際(肢長・周径)								
	第6回	関節可動域測定の定義と目的、測定上の留意事項、運動方向別測定方法の理解(基本軸、移動軸、参考可動域、注意点)								
	第7回	運動方向別測定方法の理解(基本軸、移動軸、参考可動域、注意点)								
	第8回	関節可動域測定の実際(上肢)、運動方向別測定方法の理解(基本軸、移動軸、参考可動域、注意点)								
	第9回	関節可動域測定の実際(下肢)、運動方向別測定方法の理解(基本軸、移動軸、参考可動域、注意点)								
	第10回	関節可動域測定の実際(体幹)、運動方向別測定方法の理解(基本軸、移動軸、参考可動域、注意点)								
	第11回	筋力検査の目的・分類・実際、徒手筋力検査の意義・目的・判定基準、抵抗のかけ方、検査上の留意事項								
	第12回	代償運動、運動方向と主働筋、神経支配の結びつき							課題：ROMについて	
	第13回	徒手筋力検査法の実際(上肢：肩関節、肘関節、手関節)								
	第14回	徒手筋力検査法の実際(下肢：股関節、膝関節、足関節)								
	第15回	徒手筋力検査法の実際(頸部・体幹)							実技試験	
履修上の注意	予習復習をしっかりと行い、積極的に講義に参加すること。									
成績評価	提出課題(30%)、実技試験(30%)、定期試験(40%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	運動器疾患の「なぜ？」わかる臨床解剖学 医学書院 理学療法評価学 金原出版株式会社									
	標準理学療法学 医学書院									

講義名	理学療法評価学総論Ⅱ									
講師名	吉崎 邦夫			(実務経験者)						
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法における評価の目的とその具体的な検査方法について理解し実施できるようにする。具体的には、整形外科的検査、知覚検査、反射検査、協調性検査、筋トーン検査、片麻痺運動機能検査、高次脳機能検査、SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)、FIM(Functional Independence Measure)等を決められている方法通りに施行し、代償運動等に注意して正確にできるようにすることを学ぶ。									
授業計画	第1回	整形外科的検査 疾患別整形外科的徒手検査の理解、検査方法の理解								
	第2回	知覚検査 知覚の分類、検査の手順と注意事項、検査測定を理解								
	第3回	反射検査 目的、手順と注意事項、深部・表在・病的反射検査測定を理解								
	第4回	協調性検査 目的、ADL上の現象、検査測定を理解								
	第5回	筋トーン検査 目的、筋トーンの異常、検査測定を理解								
	第6回	片麻痺機能検査 運動障害の特徴、Brunnstromの回復段階、検査測定を理解								
	第7回	SIASの目的の理解								
	第8回	SIASの検査方法の理解								
	第9回	高次脳機能検査 失語・失行・失認の理解								課題：1～8
	第10回	高次脳機能検査 失語・失行・失認の理解								
	第11回	脳神経検査 目的の理解								
	第12回	脳神経検査 検査測定を理解								
	第13回	呼吸循環機能検査 目的、正常値、異常値、肺気量分画の理解、運動療法基準の理解								
	第14回	正常歩行の理解、歩行分析								
	第15回	FIMの目的、特徴の理解、FIM18項目の採点方法の理解								実技試験
履修上の注意	予習復習をしっかりと行い、積極的に講義に参加すること。									
成績評価	提出課題(30%)、実技試験(30%)、定期試験(40%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	理学療法評価学 文光堂									
	標準理学療法学 医学書院									

講義名	身体機能評価学実習Ⅰ									
講師名	松永 秀俊					(実務経験者)				
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、身体運動について、重力や加速度、モーメントやこの原理など力学的に理解し、基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の分析に利用できる重心動揺計、ビデオカメラや筋電図装置など各種の計測機器とその測定方法について使用例を提示し、客観的な動作観察・分析の方法について学ぶ。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション								
	第2回	物体の落下運動について理解する。								
	第3回	落下運動についてパソコンを使用しシミュレーションする								
	第4回	モーメントの計算を理解する。								
	第5回	人体におけるモーメントを関節と筋張力の関係に応用する。							小テスト：モーメント	
	第6回	テコの種類と物体の釣合について学ぶ。								
	第7回	体重心の計算方法について学ぶ。重心動揺計の利用について								
	第8回	ビデオカメラを用いた動作分析の原理を学ぶ。								
	第9回	スクワット動作をビデオ撮影しステックピクチャーに描く。								
	第10回	反応時間とは何か、その意義について学ぶ								
	第11回	パソコンを用いた反応時間測定について学ぶ								
	第12回	筋電図の概要と表面筋電図の測定法について学ぶ								
	第13回	筋電図実習(1) 歩行							課題：筋電図の理解	
	第14回	筋電図実習(2) 走行							課題：筋電図の理解	
	第15回	歩行の観察法について学ぶ								
履修上の注意										
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>人体の構造と機能 医学書院</p> <p>身体運動学 MEDICL VIEW</p>									

講義名	身体機能評価学実習Ⅱ									
講師名	松永 秀俊			(実務経験者)						
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、正常の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて学習する。三次元動作解析装置を用いた動作分析を学ぶ。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション								
	第2回	寝返り動作にすいて学ぶ								
	第3回	起き上がり動作について学ぶ								
	第4回	立位アライメントについて学ぶ。								
	第5回	姿勢の変換に伴う反射について学ぶ								
	第6回	姿勢の分析法について学ぶ。								
	第7回	立位姿勢のアライメントを分析する。								
	第8回	立ち直り反応と傾斜反応について学ぶ	小テスト：アライメント							
	第9回	3次元動作解析装置の原理を学ぶ。	課題：動作解析データ提出							
	第10回	3次元動作解析装置で床から立ち上がり動作を測定する。	課題：動作解析データ提出							
	第11回	3次元動作解析装置で椅子から立ち上がり動作を測定する。	課題：動作解析データ提出							
	第12回	3次元動作解析装置で歩行動作を測定する。	課題：動作解析データ提出							
	第13回	3次元動作解析装置で走行動作を測定する。	課題：動作解析データ提出							
	第14回	3次元動作解析装置のデータ分析を学ぶ。	課題：動作解析データ提出							
	第15回	まとめ								
履修上の注意										
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	動作分析 臨床活用講座 MEDICL VIEW									
	身体運動学 MEDICL VIEW 姿勢動作歩行分析 羊土社									

講義名	理学療法評価学実習Ⅰ									
講師名	松井 有史			(実務経験者)						
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、脳血管疾患患者を中心とした基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、疾患別の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析など特徴の理解を深め学習する。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行い、臨床的な評価の練習ができるようにする。</p>									
授業計画	第1回	中枢神経系の機能と構造								
	第2回	脳画像の読み方（CT、MRI）								
	第3回	脳血管障害の病態								
	第4回	脳血管障害に対する急性期治療、医学的管理								
	第5回	脳卒中片麻痺者の運動障害の特徴								
	第6回	脳卒中片麻痺に対する評価－神経学的評価－								
	第7回	脳卒中片麻痺に対する評価－姿勢・動作分析－								
	第8回	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－寝返り動作を中心に－							小テスト：動作分析他	
	第9回	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－起き上がり動作を中心に－								
	第10回	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－座位・起き上がり動作を中心に－								
	第11回	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－立ち上がり・立位動作を中心に－								
	第12回	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－歩行を中心に－								
	第13回	OSCE解説－脳卒中片麻痺者に対する理学療法－①								
	第14回	OSCE練習－脳卒中片麻痺者に対する理学療法－②								
	第15回	OSCE練習－脳卒中片麻痺者に対する理学療法－③								
履修上の注意										
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>基本動作の評価と治療アプローチ MEDICL VIEW 筋肉の基本としくみ マイナビ 脳卒中ビジュアルテキスト 医学書院 動作分析 臨床活用講座 MEDICL VIEW 理学療法学ゴールド・マスター・テキスト 理学療法評価法 MEDICL VIEW</p>									

講義名	理学療法評価学実習Ⅱ										
講師名	吉崎 邦夫					(実務経験者)					
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、整形外科疾患患者を中心とした基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、疾患別の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析など特徴の理解を深め学習する。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行い、臨床的な評価の練習ができるようにする。</p>										
授業計画	第1回	運動器の機能と構造									
	第2回	画像の読み方（x-p）									
	第3回	運動器疾患の病態									
	第4回	運動器疾患に対する急性期治療、医学的管理									
	第5回	運動器疾患の運動障害の特徴									
	第6回	運動器疾患に対する評価－神経学的評価－									
	第7回	運動器疾患に対する評価－姿勢・動作分析－									
	第8回	運動器疾患に対する理学療法－寝返り動作を中心に－								小テスト：評価について	
	第9回	運動器疾患に対する理学療法－起き上がり・坐位動作を中心に－									
	第10回	運動器疾患に対する理学療法－立ち上がり・立位動作を中心に－									
	第11回	運動器疾患に対する理学療法－起き上がり動作を中心に－									
	第12回	運動器疾患に対する理学療法－歩行を中心に－									
	第13回	OSCE解説－運動器疾患に対する理学療法－									
	第14回	OSCE練習－運動器疾患に対する理学療法－①									
	第15回	OSCE練習－運動器疾患に対する理学療法－②									
履修上の注意											
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する										
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学 医学書院上肢 運動器疾患の診かた・考えかた 医学書院</p> <p>運動器疾患の機能解剖に基づく評価と解釈 運動と医学の出版社</p>										

講義名	応用評価学演習									
講師名	松永 秀俊（実務経験者）／大松 慶子（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、3年次までに修得した評価法とともに海外で用いられる評価法も取り入れ、さらに患者の状態の理解を把握する。各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行う。</p>									
授業計画	第1回	応用評価学演習の目指すところ								
	第2回	脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第3回	脳血管症例に対する評価方法、統合解釈								
	第4回	運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第5回	運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第6回	神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第7回	神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第8回	運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第9回	運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第10回	動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する）							課題：分析レポート	
	第11回	動作観察・分析②（逸脱動作を分析する）							課題：分析レポート	
	第12回	動作観察・分析③（分析結果から機能障害を推論する）							課題：分析レポート	
	第13回	動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）							課題：分析レポート	
	第14回	精神疾患の捉え方・症例に対する対応							小テスト：動作分析	
	第15回	理学療法総合臨床実習における客観的臨床能力試験（OSCE）について								
履修上の注意	不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）がないように注意する。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハビリテーションにおける評価Ver.3 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	運動療法学									
講師名	栗川 幹雄						(実務経験者)			
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、整形疾患や脊髄損傷による生活障害を持った人への理学療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法論を説明していく。</p>									
授業計画	第1回	運動療法学総論								
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法①（関節の構造と運動）								
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法②（関節可動域制限因子）								
	第4回	関節可動域制限に対する運動療法③（関節可動域運動）								
	第5回	関節可動域制限に対する運動療法④（伸張運動）								
	第6回	筋力低下に対する運動療法①（筋力低下の分類）								
	第7回	筋力低下に対する運動療法②（過負荷・特異性の原則）								
	第8回	筋力低下に対する運動療法③（筋力増強運動）								
	第9回	持久力低下に対する運動療法①（筋持久力）							小テスト：ROM・筋力	
	第10回	持久力低下に対する運動療法②（全身持久力）								
	第11回	代謝機能障害に対する運動療法								
	第12回	全身調整に対する運動療法								
	第13回	運動麻痺に対する運動療法①（中枢性、末梢性）								
	第14回	運動麻痺に対する運動療法②（協調性運動障害）								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	講義形式で行う。									
成績評価	小テスト(20%)，定期試験(80%)で判断する									
テキスト	<p>柳澤 健 編集「理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学」メジカルビュー社</p> <p>運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 文光堂</p>									

講義名	運動療法学実習Ⅰ									
講師名	松井 有史			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位

講義目標 授業目標は、臨床現場で多く経験する、異常歩行の病態と分類、脳卒中片麻痺患者、パーキンソン病、運動失調、変形性関節疾患、バランス障害、呼吸障害、高齢者の運動障害の病態・運動の分析について理解できるように演習を行う。

授業計画	第1回	異常歩行の病態と類型分類	
	第2回	異常歩行の運動分析と演習	
	第3回	脳卒中片麻痺患者の異常歩行パターンの分析と演習1 (分析方法)	
	第4回	脳卒中片麻痺患者の異常歩行パターンの分析と演習2 (演習)	
	第5回	脳卒中片麻痺患者の歩行障害の病態と装具の効果	
	第6回	脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作に対する病態運動の分析と運動療法	
	第7回	パーキンソン病の立ち上がり・立位・歩行における典型的病態運動の分析と演習 1 (分析方法)	
	第8回	パーキンソン病の立ち上がり・立位・歩行における典型的病態運動の分析と演習 2 (演習)	
	第9回	運動失調の協調運動障害における病態運動の分析と演習	小テスト：1～8
	第10回	変形性関節疾患の歩行障害	
	第11回	バランス障害(立位・座位)の病態運動の分析と演習 1 (分析方法)	
	第12回	バランス障害(立位・座位)の病態運動の分析と演習 2 (演習)	
	第13回	呼吸の病態運動	
	第14回	高齢者の運動障害と特徴	
	第15回	まとめ	

履修上の注意

成績評価 小テスト(20%) レポート課題(20%)、定期試験(60%)

テキスト

参考図書、その他

ベリ－ 歩行分析(正常歩行と異常歩行) 医歯薬出版

運動学実習第3版 医歯薬出版株式会社

講義名	運動療法学実習Ⅱ									
講師名	河西 紀秀						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、エビデンスを踏まえた筋力トレーニングの基礎知識を理解し、各疾患への応用を図り知識を深めることである。授業内容は、筋力トレーニングに関して知識を深め実技を通して理学療法の治療技術を学習する。									
授業計画	第1回	オリエンテーション								
	第2回	筋収縮メカニズム								
	第3回	トレーニングの3大原理								
	第4回	筋力強化と骨格筋の形状								
	第5回	筋肥大・筋萎縮・筋疲労								
	第6回	OKC・CKCの違いについて（実技含む）								
	第7回	運動療法におけるリスク管理								
	第8回	筋力の改善プログラム								
	第9回	筋持久力の改善プログラム							小テスト：1～8	
	第10回	筋力トレーニングのエビデンス								
	第11回	各疾患における筋力トレーニングのあり方（腰痛）								
	第12回	各疾患における筋力トレーニングのあり方膝（膝OA）								
	第13回	各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）①上肢								
	第14回	各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）②下肢								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。講義態度が悪い人は、欠席扱いとしますのでご注意ください。									
成績評価	小テスト(20%) レポート課題(20%)、定期試験(60%)									
テキスト	参考図書、その他									
	標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論					運動療法学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト				
	プリント配布					必要に応じて書籍を紹介				

講義名	物理療法学実習							
講師名	福井 直樹			(実務経験者)				
学年	2	年	学期	後 期	時間	30 時間	必修	2 単位
講義目標	物理療法に関連した痛みの生理学と病理学、物理的刺激が生体にあたえる影響について、エビデンスを学習しながら、ホットパック、寒冷療法、超短波療法、極超短波療法、超音波療法、光線療法、電気刺激療法、振動刺激療法等の各種治療技術の解説、実習を行う。臨床での様々な対象者に応じた治療手段の選択・物理療法実践を目標とする。							
授業計画	第1回 物理療法総論 第2回 物理療法を体験する 第3回 炎症と修復 第4回 痛みのメカニズム① 第5回 痛みのメカニズム② 第6回 運動制限・筋トーン異常 第7回 温熱・寒冷刺激が生体にも与える影響 第8回 電気刺激が生体にも与える影響 第9回 超音波が生体にも与える影響 第10回 光線が生体にも与える影響 第11回 エネルギー変換刺激が生体にも与える影響 第12回 力学的刺激が生体にも与える影響 第13回 水の圧力や抵抗などが生体にも与える影響 第14回 バイオフィードバック療法 第15回 まとめ							
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。実習ができる服装で参加すること。							
成績評価	成績評価はレポート課題(20%)定期試験(80%)で判定する							
テキスト	参考図書、その他 物理療法学 金原出版株式会社 エビデンスから身につける物理療法 羊土社 庄本康治／編 EBM物理療法 原著第4版 医歯薬出版							

講義名	物理療法学実習									
講師名	福井 直樹			(実務経験者)						
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	物理療法に関連した痛みの生理学と病理学、物理的刺激が生体にあたえる影響について、エビデンスを学習しながら、ホットパック、寒冷療法、超短波療法、極超短波療法、超音波療法、光線療法、電気刺激療法、振動刺激療法等の各種治療技術の解説、実習を行う。臨床での様々な対象者に応じた治療手段の選択・物理療法実践を目標とする。									
授業計画	第16回 関節可動域運動 総論 治療と効果 第17回 ホットパック 第18回 パラフィン浴 第19回 水治療法 第20回 超短波療法 第21回 極超短波療法 第22回 超音波療法 第23回 寒冷療法 第24回 光線療法 第25回 電気刺激療法(痛みに対するTENS) 第26回 電気刺激療法(筋力増強を目的としたEMS) 第27回 振動刺激療法 第28回 臨床における物理療法の用い方 第29回 運動療法の効果を高める物理療法の利用法 第30回 まとめ									
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。実習ができる服装で参加すること。									
成績評価	成績評価はレポート課題(20%)定期試験(80%)で判定する									
テキスト	参考図書、その他 物理療法学 金原出版株式会社 エビデンスから身につける物理療法 羊土社 庄本康治／編 EBM物理療法 原著第4版 医歯薬出版									

講義名	運動器障害理学療法学実習									
講師名	河西 紀秀					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	前期	時間	60	時間	必修	2	単位

講義目標

授業目標は、部位別の運動器障害の理学療法を実施するために必要な検査、評価、治療技能を身につける。授業内容は、筋骨格系に生じる障害の捉え方（評価）、その原因特定までの分析過程、原因を取り除くための介入手技について実習および演習を通じて学習する。

授業計画

- 第1回 運動器障害の概要と捉え方
- 第2回 骨・軟骨障害（1）変形性関節症（総論）
- 第3回 骨・軟骨障害（2）変形性脊椎症
- 第4回 骨・軟骨障害（3）変形性膝関節症（保存療法）
- 第5回 骨・軟骨障害（4）変形性膝関節症（手術療法）
- 第6回 骨・軟骨障害（5）変形性膝関節症（高齢者プログラム）
- 第7回 骨・軟骨障害（6）変形性股関節症（保存療法）
- 第8回 骨・軟骨障害（7）変形性股関節症（手術療法）
- 第9回 関節軟部組織性障害（1）靭帯損傷・半月板損傷（総論）
- 第10回 関節軟部組織性障害（2）前十字靭帯・後十字靭帯損傷
- 第11回 関節軟部組織性障害（3）膝内側側副靭帯、半月板および足部
- 第12回 関節外側側副靭帯損傷、関節構造に由来する障害（1）脱臼
- 第13回 関節構造に由来する障害（2）動揺関節、関節不安定性
- 第14回 骨性障害（1）骨折
- 第15回 骨性障害（2）大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前、術後）

履修上の注意

理学療法の基本となるので、知識は前もってしっかり学習し、授業では実技を中心に学びふこと。

成績評価

レポート課題(30%)、定期試験(70%)で判断する

テキスト

参考図書、その他

シンプル理学療法学シリーズ
運動器障害理学療法学テキスト改訂第2版
その他随時授業内で配布する。

水上昌文、運動療法基礎技術（CD-ROM）
居村茂幸（編）：筋骨格障害系理学療法学

講義名	運動器障害理学療法学実習									
講師名	河西 紀秀					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	前期	時間	60	時間	必修	2	単位

講義目標 授業目標は、部位別の運動器障害の理学療法を実施するために必要な検査、評価、治療技能を身につける。授業内容は、筋骨格系に生じる障害の捉え方（評価）、その原因特定までの分析過程、原因を取り除くための介入手技について実習および演習を通じて学習する。

授業計画	第16回	骨性障害（3）大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術後回復期）
	第17回	骨性障害（4）大腿骨頸部骨折、転子部骨折（高齢者プログラム）
	第18回	骨性障害（5）下肢の骨折
	第19回	骨性障害（6）上肢の骨折
	第20回	骨性障害（7）脊椎の骨折
	第21回	筋・軟部組織性障害（1）概論
	第22回	筋・軟部組織性障害（2）肩関節周囲炎
	第23回	筋・軟部組織性障害（3）肩腱板損傷（保存療法、手術療法）
	第24回	Motor unit性障害
	第25回	脊椎性障害（1）頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎症、頸部後縦靭帯骨化症
	第26回	脊椎性障害（2）（急性腰痛）腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症
	第27回	脊椎性障害（3）慢性腰痛症
	第28回	複合障害（1）関節リウマチ（1）
	第29回	複合障害（2）関節リウマチ（2）
	第30回	切断の理学療法

履修上の注意 理学療法の基本となるので、知識は前もってしっかり学習し、授業では実技を中心に学びふこと。

成績評価 レポート課題(30%)、定期試験(70%)で判断する

テキスト 参考図書、その他

シンプル理学療法学シリーズ
運動器障害理学療法学テキスト改訂第2版
その他随時授業内で配布する。

水上昌文、運動療法基礎技術（CD-ROM）
居村茂幸（編）：筋骨格障害系理学療法学

講義名	スポーツ障害理学療法学実習									
講師名	河西 紀秀						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、スポーツ理学療法について理解する、医療現場からスポーツ競技復帰などについて理解する。競技特性を考慮したリハビリテーションプログラムの作成ができるようになる。授業内容は実技を交え理解を深める。									
授業計画	第1回	スポーツ外傷・損傷総論								
	第2回	成長期スポーツ外傷・損傷の特性								
	第3回	スポーツ現場における救急・救命処置								
	第4回	スポーツと栄養・休息								
	第5回	上肢のスポーツ外傷・損傷								
	第6回	下肢のスポーツ外傷・損傷								
	第7回	体幹のスポーツ外傷・損傷								
	第8回	スポーツ外傷・損傷予防と外傷・損傷対策								
	第9回	スポーツ外傷・損傷予防（テーピング）							小テスト：1～8	
	第10回	スポーツ外傷・損傷対策（トレーニング）								
	第11回	パフォーマンス向上トレーニング								
	第12回	スポーツ理学療法の理論と実際								
	第13回	膝関節のスポーツ外傷・損傷に対する理学療法戦略								
	第14回	スポーツ外傷・損傷予防における体幹部の重要性								
	第15回	体幹バランスチェックと強化法								
履修上の注意	講義と実技を織り交ぜながら進めていく。可能な限り画像・映像を使用して理解を深めるようにする。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	寺山和雄 監修 辻陽雄 編 「標準整形外科学」 医学書院					必要に応じて資料を配布。				

講義名	中枢神経障害理学療法学実習									
講師名	吉崎 邦夫					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	中枢神経障害に対する理学療法は脳解剖と神経生理、中枢神経障害の基礎知識、最新の内科的・外科的治療、画像データの分析などをふまえて病態を理解する必要がある。また、早期離床や課題特異的訓練等、最新の治療法にも精通する必要がある。本講義では前半に理論を後半に実習を行い、中枢神経障害患者に対する理学療法の理論と技術について学ぶ。									
授業計画	第1回	総論	中枢神経障害の全容							
	第2回	片麻痺	片麻痺の原因、脳血管障害とは							
	第3回	片麻痺	脳血管障害の診断、急性期治療							
	第4回	片麻痺	片麻痺患者の評価(1)							
	第5回	片麻痺	片麻痺患者の評価(2)							
	第6回	片麻痺	重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際							(その1)
	第7回	片麻痺	重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際							(その2)
	第8回	片麻痺	演習1A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ							
	第9回	片麻痺	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際							(その1)
	第10回	片麻痺	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際							(その2)
	第11回	片麻痺	演習2 A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ							レポート：分析レポート
	第12回	片麻痺	日常生活における身体機能の活用 (生活機能の向上)							
	第13回	片麻痺	実習1 片麻痺者の動作の特徴・基本動作・車いすの駆動・装具、三角巾の装着・介助歩行など							
	第14回	片麻痺	片麻痺者にみられる合併症とその対策							
	第15回	片麻痺	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法							
履修上の注意	実習時には実習のできる服装を準備すること。 各自で復習を行い。疑問点については早期に解決する。									
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト中枢神経障害理学療 法学テキスト 改訂第3版									
参考図書、その他	リハに役立つ脳画像 MEDICL VIEW 高次機能障害学 医歯薬出版株式会社 脳卒中理学療法の理論と技術 原 寛 美 MEDICAL VIEW									

講義名	中枢神経障害理学療法学実習									
講師名	吉崎 邦夫						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	中枢神経障害に対する理学療法は中枢神経解剖と神経生理、中枢神経障害の基礎知識、最新の内科的・外科的治療、画像データの分析などをふまえて病態を理解する必要がある。また、早期離床や課題特異的訓練等、最新の治療法にも精通する必要もある。本講義では前半に理論を後半に実習を行い、中枢神経障害患者に対する理学療法の理論と技術について学ぶ。									
授業計画	第16回	運動失調	運動失調とは							
	第17回	運動失調	小脳性運動失調の理学療法							
	第18回	運動失調	演習3	A	グループ討議					
			B	症例の提示によるロールプレイ						
	第19回	パーキンソン症状	パーキンソン病とは							
	第20回	パーキンソン症状	パーキンソン病の理学療法							
	第21回	パーキンソン症状	演習4	A	グループ討議					
			B	症例提示によるロールプレイ						
	第22回	四肢麻痺・対麻痺	脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能							
	第23回	四肢麻痺・対麻痺	自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症							
	第24回	四肢麻痺・対麻痺	脊髄損傷の評価							
	第25回	四肢麻痺・対麻痺	四肢麻痺の理学療法（急性期）							
	第26回	四肢麻痺・対麻痺	四肢麻痺の理学療法（回復期）							
	第27回	四肢麻痺・対麻痺	対麻痺の理学療法（急性期）							
	第28回	四肢麻痺・対麻痺	対麻痺の理学療法（回復期）							
	第29回	四肢麻痺・対麻痺	演習3	基本動作・車いす応用動作・対麻痺者の立位・歩行動作						
	第30回	脊髄損傷者の社会参加とスポーツプログラム								
履修上の注意	実習時には実習のできる服装を準備すること。各自で復習を行い。疑問点については早期に解決する。									
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 中枢神経障害理学療法学テキスト 改訂第3版									
参考図書、その他	リハに役立つ脳画像 MEDICL VIEW 高次機能障害学 医歯薬出版株式会社 脳卒中理学療法の理論と技術 原 寛 美 MEDICAL VIEW									

講義名	神経筋疾患理学療法学実習									
講師名	福井 直樹			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法の対象となる神経・筋疾患の病態や症状を踏まえた疾患に対する評価、治療、効果判定について学習・実技練習を行う。障がい像を把握するための思考展開の方法を学習する。将来にわたって、科学的なアプローチで患者の疾患や病態・障害を理解できるように常に医学や医療技術の発展に関心を持てるようになることを目標とする。									
授業計画	第1回	脊髄小脳変性症の病態・症状								
	第2回	脊髄小脳変性症の評価・治療								
	第3回	脊髄小脳変性症の予後・症例								
	第4回	筋萎縮性側索硬化症の病態・症状検討								
	第5回	筋萎縮性側索硬化症の評価・治療								
	第6回	筋萎縮性側索硬化症の予後・症例検討								
	第7回	多発性硬化症の病態・症状・予後								
	第8回	多発性硬化症の評価・治療・予後・症例検討								
	第9回	ギラン・バレー症候群の病態・症状								
	第10回	ギラン・バレー症候群の評価・治療・予後・症例検討								
	第11回	シャルコー・マリー・トゥース病の病態・症状・治療・予後・症例検討								
	第12回	多発性筋炎・皮膚筋炎の病態・症状・治療・予後・症例検討								
	第13回	筋ジストロフィー（筋強直性ジストロフィー・他）の病態・症状・治療・予後・症例検討								
	第14回	末梢神経障害（糖尿病神経障害・顔面麻痺・他）								
	第15回	ポストポリオ症候群・重症筋無力症・その他の神経・筋疾患								
履修上の注意	予習復習をしっかりと行い講義に臨むこと。									
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	臨床につながる 神経・筋疾患 花山 耕三 著 医歯薬出版					田崎義昭ら「ベッドサイドの神経の見方」改訂16版 南山堂				

講義名	系統別・治療手技演習									
講師名	松永 秀俊						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、理学療法における重要な治療手技（マニュアルセラピー）を実施するために各系統別・治療手技を理解し、解剖学、生理学、運動学などの知識をもとに症候に適した治療手技を選択し、実施できることである。授業内容としては、1. 各治療手技の基礎理論を理解し、説明することができる。2. 骨・筋・軟部組織を触診し、各種治療手技をもちいて基礎的な評価・実践ができることである。</p>									
授業計画	第1回	系統別・治療手技（マニュアルセラピー）総論								
	第2回	基礎となる解剖・生理・運動学の概要								
	第3回	対象となる機能障害に対する一般的な評価とその意義								
	第4回	神経筋骨格系障害の病態生理学的治癒過程								
	第5回	クリニカルリーズニング								
	第6回	リスク管理（イエローフラッグとレッドフラッグ）						小テスト		
	第7回	関節モビライゼーション理論								
	第8回	関節モビライゼーション演習（脊柱）								
	第9回	関節モビライゼーション演習（四肢）								
	第10回	軟部組織モビライゼーション理論								
	第11回	軟部組織モビライゼーション演習								
	第12回	神経系モビライゼーション理論								
	第13回	神経系モビライゼーション演習								
	第14回	その他の治療手技紹介①								
	第15回	その他の治療手技紹介②								
履修上の注意	実技練習を繰り返し行うこと									
成績評価	小テスト(20%)、実技試験(40%)、定期試験(40%)で評価する									
テキスト	<p>運動療法Ⅰ 第2版 監修 千住秀明 編集 河元岩男 溝田勝彦 出版社：神陵文庫</p>									
	<p>参考図書、その他 授業中必要に応じてその都度紹介する</p>									

講義名	日常生活活動学									
講師名	栗川 幹雄						(実務経験者)			
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	日常生活活動、疾患、症状と日常生活活動の基礎知識について理解し、標準化されたADL検査を実施できること、ICFの概念に基づき日常生活障害に影響する様々な要因を理解し解決策を説明できるようになることである。ADLの標準化された評価法である Functional Independence Measure (FIM)、Barthel Index (BI)などの習得と臨床の評価に必要なADLの観察方法、基本的能力や環境との関連性を考慮した介助・指導方法を学ぶ。									
授業計画	第1回	ADLの概要 (定義などの基礎知識)								
	第2回	IADLとQOLの概要 (定義などの基礎知識)								
	第3回	活動の理解 (活動と生活問題)								
	第4回	障害の理解 (生活問題とICIDH、ICF)								
	第5回	ADLの評価1 (理学療法における考え方)								
	第6回	ADLの評価2 (FIMなど各種評価法)								
	第7回	ADLの評価3 (BIなど各種評価法)								
	第8回	ADL訓練の考え方								小テスト
	第9回	動作観察の基礎知識								
	第10回	起居動作								
	第11回	移乗								
	第12回	移乗、更衣動作								
	第13回	車いすの理解と杖の処方								
	第14回	車いすの駆動介助								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	生活場面で行われる動作について学ぶ。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名し発表を促すこともあるが、積極的に講義に参加すること。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	<p>シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト改訂第3版 南江堂</p>									
参考図書、その他	<p>新版 日常生活活動(ADL)-評価と実際- 医歯薬出版株式会社</p> <p>標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院</p>									

講義名	日常生活活動学実習									
講師名	栗川 幹雄						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法の臨床における代表疾患において、動作の模倣を通じ障害の特徴を説明する。さらに、補助誘導方法の教示により、疾患別運動療法実践の糸口をつかむ。車いす、杖などの福祉用具その他自助具につき、疾患に適応した使用方法および指導方法を説明する。									
授業計画	第1回	脳血管障害の特徴とICFの理解、ADL訓練の基本								
	第2回	脳血管障害患者のベッド上動作								
	第3回	脳血管障害患者の車いす移乗・操作								
	第4回	脳血管障害患者の更衣動作、トイレ動作、入浴動作、整容動作								
	第5回	脳血管障害患者の歩行、応用歩行と歩行補助具								
	第6回	脳血管障害患者の起き上がり(レポート課題)								
	第7回	脊髄損傷患者の起居動作							小テスト	
	第8回	脊髄損傷患者の車椅子移乗・操作								
	第9回	脊髄損傷患者の立位・歩行								
	第10回	パーキンソン病患者のADL								
	第11回	リウマチ患者のADL								
	第12回	股関節・膝関節疾患患者のADL								
	第13回	慢性腰痛症患者のADL								
	第14回	運動失調患者のADL								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	生活場面で行われる動作について学ぶ。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名し発表を促すこともあるが、積極的に講義に参加すること。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	<p>シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト改訂第3版 南江堂</p>									
参考図書、その他	<p>日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ 医歯薬出版株式会社</p> <p>標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院</p>									

講義名	生活環境学実習									
講師名	栗川 幹雄					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	医療機関退院後もリハビリテーションが必要な対象者への支援は、医学的側面だけではなく、「生活者」の視点に立った個別的アプローチが必要である。理学療法士の役割をより深く学ぶため、QOLの向上を目指した「オーダーメイド」プランの作成や住宅改修・環境面に対するアプローチについての知識を習得する。									
授業計画	第1回	オリエンテーション、地域理学療法について（概略の解説）								
	第2回	生活リズムの重要性とQOL向上の支援								
	第3回	生活環境での課題を抽出する①（屋内環境）								
	第4回	生活環境での課題を抽出する②（屋外環境）								
	第5回	生活環境改善・住宅改修の検討①（バリアフリー化について）								
	第6回	生活環境改善・住宅改修の検討②（計画のポイントについて）								
	第7回	生活環境改善・住宅改修の検討③（屋外など）								
	第8回	生活環境改善・住宅改修の検討④（玄関など）								
	第9回	生活環境改善・住宅改修の検討⑤（廊下など）								
	第10回	生活環境改善・住宅改修の検討⑥（居室など）								
	第11回	生活環境改善・住宅改修の検討⑦（トイレなど）								
	第12回	生活環境改善・住宅改修の検討⑧（浴室など）								
	第13回	公共施設の改修検討①（駅）								
	第14回	公共施設の改修検討②（道路）								
	第15回	公共施設の改修検討③（図書館）								
履修上の注意	公共施設など学外に出向き、情報収集を行う。普段、何気なく使用している場面にどのような問題があり、理学療法士の視点からどのように改修すべきかを考える。広い視野を持って課題に取り組むこと。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 南江堂					参考図書、その他 現場から学ぶ自立支援のための住宅改修 医学書院 建築 知識なんかなくても住宅改修を成功させる本 三輪書店 住宅改修アセスメントのすべて 三和書籍				
	標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院									

講義名	障害者スポーツ演習				
講師名	河西 紀秀		(実務経験者)		
学年	3年	学期	前期	時間	30時間 選択 1単位
講義目標	障害者スポーツについて、実技演習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障害に応じたスポーツの工夫や、障害者スポーツ指導者について理解する。初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。				
授業計画	第1回	コース・オリエンテーション	障害者スポーツの意義と理念		
	第2回	障害者の理解、障害者とスポーツの効果について学ぶ。			
	第3回	障害者福祉と法律について学ぶ。			
	第4回	障害者のスポーツの現状と課題について学ぶ。			
	第5回	障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。			
	第6回	障害の理解とスポーツの実際（身体障害など）①			
	第7回	障害の理解とスポーツの実際（知的障害など）②			
	第8回	障害の理解とスポーツの実際（精神障害など）③			
	第9回	障害の理解とスポーツの実際（視覚障害など）④			
	第10回	安全管理とボランティアについて学ぶ。			
	第11回	障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。			
	第12回	障害者スポーツに関する教育・研究機関、学会、団体等			
	第13回	障害者のスポーツ指導上の留意点			
	第14回	パラリンピック競技について学ぶ。			
	第15回	競技種目別や地域レベル障害者スポーツについて学ぶ。			
履修上の注意					
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他				
	配布資料を中心に授業を行う。		授業中、適宜紹介する、		

講義名	応用物理療法学演習									
講師名	福井 直樹					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	疼痛・遅発性筋痛・褥瘡・痙縮抑制・脳血管障害患者の可塑性の促進やパーキンソン病の前傾姿勢、脳血管障害の半側空間失認に対する電気刺激法などの最新の物理療法について理論背景から学び、臨床実践ができるよう実技を行う。									
授業計画	第1回	デルマトームおよびスクレロームを背景にした疼痛抑制電気刺激法の理論								
	第2回	デルマトームおよびスクレロームを背景にした疼痛抑制電気刺激法の実践								
	第3回	広汎性侵害抑制を用いた疼痛抑制電気刺激法の理論								
	第4回	広汎性侵害抑制を用いた疼痛抑制電気刺激法の実践								
	第5回	遅発性筋痛に対する微弱電流電気刺激法の理論								
	第6回	遅発性筋痛に対する微弱電流電気刺激法の実践								
	第7回	褥瘡に対する微弱電流電気刺激法の理論								
	第8回	褥瘡に対する微弱電流電気刺激法の実践								
	第9回	痙縮抑制を目的とした神経筋電気刺激法の理論								
	第10回	痙縮抑制を目的とした神経筋電気刺激法の実践								小テスト：痙縮と物療
	第11回	末梢神経電気刺激による運動学習効果の増強理論								
	第12回	末梢神経電気刺激による運動学習効果増強の実践								
	第13回	パーキンソン病や半側空間失認に対する前庭神経電気刺激法の理論								
	第14回	パーキンソン病や半側空間失認に対する前庭神経電気刺激法の実践								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。実習ができる服装で参加すること。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する 課題：実践時にデータ提出									
テキスト	参考図書、その他									
	エビデンスから身につける物理療法 羊土社 庄本康治／編									
	EBM物理療法原著第4版 医歯薬出版株式会社 Michelle H.Cameron 原著／渡部一郎 訳									

講義名	高次脳機能障害の治療法									
講師名	大松 慶子		(実務経験者)							
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、作業療法士・理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶことである。特に高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができるようにする。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション・高次脳機能障害の概要								
	第2回	認知機能検査の実際と解釈								
	第3回	注意機能の評価の実際と解釈・注意障害における理学療法中の注意事項								
	第4回	注意障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第5回	半側空間無視の評価の解釈・半側空間無視における理学療法中の注意事項								
	第6回	半側空間無視の特徴と評価、リハビリテーション								
	第7回	記憶の評価の解釈、記憶障害における理学療法中の注意事項								
	第8回	記憶障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第9回	失語の評価の実際、失語症の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第10回	失語の特徴と評価、リハビリテーション								
	第11回	行為の評価の実際、行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第12回	失行の特徴と評価、リハビリテーション								
	第13回	その他の評価の実際と解釈								
	第14回	前頭葉障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第15回	遂行機能障害の特徴と評価、リハビリテーション								
履修上の注意	毎回の授業の復習をすること。遅刻・欠席はしないように。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>高次脳機能障害学マエストロシリーズ (1) 基礎知識のエッセンス 医歯薬出版</p> <p>高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版</p>									

講義名	認知症の理解とその支援									
講師名	小島 徹也		(実務経験者)							
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、認知症の疫学やその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景を理解することにより、認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考える力と態度を養うことである。</p>									
授業計画	<p>第1回 認知症とは</p> <p>第2回 認知症の疫学と各国の政策</p> <p>第3回 認知症の病態と症状</p> <p>第4回 主な原因疾患の症状と経過</p> <p>第5回 認知症の治療</p> <p>第6回 パーソン・センタード・ケア</p> <p>第7回 認知症をもつ人への評価 ①</p> <p>第8回 認知症をもつ人への評価 ②</p> <p>第9回 心身機能への支援 ①</p> <p>第10回 心身機能への支援 ②</p> <p>第11回 作業を用いた支援 ①</p> <p>第12回 作業を用いた支援 ②</p> <p>第13回 IADL・ADLへの支援</p> <p>第14回 物的・社会的環境への支援</p> <p>第15回 回想法、リアリティ・オリエンテーション、その他の支援方法</p>									
履修上の注意	<p>予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加すること。 グループディスカッションを多く取り入れるので、学びを深めること。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>資料配付する。</p>									
	<p>参考図書、その他</p> <p>宮口英樹・監修 小川真寛、他・編集認知症をもつ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― メジカルビュー社 「ム・ヤツトソツト&キヤスリオン・ノリアイノ者 認知症の介護のために知っておきたい大切なこと パーソンセンタードケア入門 高橋誠一監訳 吉田真理子訳 筒井書房</p>									

講義名	レクリエーション活動演習									
講師名	巽 絵理			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、レクリエーションの対象・効果を理解し、病状の軽減や活動量の増加を目指す内容、すなわちリハビリテーションに通じるように用いる技術を体得することである。レクリエーションの種類、内容の紹介から始まり、対象者に応じて実施できるよう演習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 レクリエーションの基本理念</p> <p>第2回 治療的レクリエーションの技法</p> <p>第3回 種目別レクリエーション活動(1) 講義：遊戯・ゲーム</p> <p>第4回 種目別レクリエーション活動(2) 演習：遊戯・ゲーム</p> <p>第5回 種目別レクリエーション活動(3) 講義：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など</p> <p>第6回 種目別レクリエーション活動(4) 演習：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など</p> <p>第7回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(1) 講義：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など</p> <p>第8回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(2) 演習：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など</p> <p>第9回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(3) 講義：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など</p> <p>第10回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(4) 演習：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など</p> <p>第11回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(5) 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など</p> <p>第12回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(6) 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など</p> <p>第13回 施設別にみた治療的レクリエーション活動(1) 保健センター・病院など</p> <p>第14回 施設別にみた治療的レクリエーション活動(2) 介護保険施設・サービスなど</p> <p>第15回 施設別にみた治療的レクリエーション活動(3) 障害児(者)施設など</p>									
履修上の注意	<p>予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加する。 グループでの発表や演習もあるので、意見交換をしっかりと行い学びを深めること。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>中村春基・他 レクリエーション【改訂第2版】社会参加を促す治療的レクリエーション</p>									

講義名	地域理学療法学Ⅰ				
講師名	鍵井 一浩		(実務経験者)		
学年	2年	学期	後期	時間	30時間 必修 1単位
講義目標	地域で生活している高齢者・障害者・障害児の生活自立支援に向けて、地域リハビリテーションの意義や社会資源・他職種連携・関係各所の連携等を中心に学習する。また障害予防や介護予防、介護制度の利用や福祉用具の算定についても幅広く学ぶ。				
授業計画	第1回 地域リハビリテーションの概念 第2回 制度と関連法規（介護保険等） 第3回 地域における社会資源①（フォーマル） 第4回 地域における社会資源②（インフォーマル） 第5回 他職種との協働 第6回 地域での連携（関連機関） 第7回 要介護認定とケアマネジメント 第8回 介護予防と障害予防 第9回 健康状態の評価とリスク管理 第10回 健康増進 第11回 特定疾患の評価と介入方法 第12回 在宅医療にかかる知識 （摂食嚥下・胃瘻・IVH・人工呼吸器・褥瘡） 第13回 住環境評価と住環境整備（住宅改修） 第14回 福祉用具 （歩行補助具・車いす・移乗機器・日常生活用具・環境制御装置） 第15回 まとめ				
履修上の注意	今後、理学療法でも拡大が予測される分野です。予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。また、講義中に指名をすることもありますが、積極的に講義に参加する。				
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他 ビジュアルレクチャー地域理学療法学 医歯薬出版株式会社 福祉住環境コーディネーター2級検定試験公式テキスト 東京商工会議所 標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院				

講義名	地域理学療法学Ⅱ				
講師名	鍵井 一浩		(実務経験者)		
学年	3年	学期	前期	時間	30時間 必修 1単位
講義目標	本講義では地域で生活している高齢者・障害者・障害児の生活自立支援に向けて、訪問理学療法・通所理学療法の実際を写真や動画で学習し、地域における理学療法のあり方を社会資源、介護老人保健施設、認知症高齢者等のキーワードに基づいて事例検討を行う。				
授業計画	第1回 施設における理学療法（入院・入所） 第2回 訪問理学療法 第3回 通所理学療法 第4回 ポジショニングとシーティング 第5回 動作指導と介助方法の指導 第6回 地域における理学療法 課題発表1 【社会資源とは、近隣市における社会資源】 第7回 地域における理学療法 課題発表1 【社会資源とは、近隣町村における社会資源】 第8回 地域における理学療法 課題発表2 【介護老人保健施設の役割・機能、事例Aを通して】 第9回 地域における理学療法 課題発表2 【介護老人保健施設の役割・機能、事例Bを通して】 第10回 地域における理学療法 課題発表2 【介護老人保健施設の役割・機能、事例Cを通して】 第11回 地域における理学療法 課題発表3 【認知症高齢者への集団理学療法・リハビリテーション】 第12回 地域における理学療法 課題発表3 【認知症高齢者への個別理学療法・リハビリテーション】 第13回 地域における理学療法 課題発表4 【認知症を有する高齢者の事例D】 第14回 地域における理学療法 課題発表4 【認知症を有する高齢者の事例E】 第15回 地域における理学療法 課題発表4 【認知症を有する高齢者の事例F】				
履修上の注意	今後、理学療法でも拡大が予測される分野です。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名をすることもありますが、積極的に講義に参加する。				
成績評価	受講態度(20%)，レポート課題(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他 PT・OTビジュアルテキスト地域理学療法学 羊土社 ビジュアルレクチャー地域理学療法学 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院				

講義名	地域理学療法実習									
講師名	鍵井 一浩			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>本講義では、地域理学療法で学習した内容をふまえ、施設や地域活動の現場見学等を通して地域で生活を送る障害者の現状を知ることが目的とする。 主に福祉用具展示施設の見学実習や地域で活動する理学療法士に帯同し、介護保険サービスのあり方や各種福祉用具の用途、環境整備の提供方法を理解する。</p>									
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 オリエンテーション 実習の個人目標立案</p> <p>第3回 施設見学実習1 (挨拶)</p> <p>第4回 施設見学実習2 (施設の役割などを知る)</p> <p>第5回 施設見学実習3 (対象者を知る)</p> <p>第6回 施設見学実習4 (障害を知る)</p> <p>第7回 施設見学実習5 (施設理学療法士の行動を学ぶ)</p> <p>第8回 施設見学実習6 (まとめ)</p> <p>第9回 地域活動現場見学実習1 (地域の実情を知る)</p> <p>第10回 地域活動現場見学実習2 (現場の理学療法士の考えを知る)</p> <p>第11回 地域活動現場見学実習3 (現場の理学療法士の行動を学ぶ)</p> <p>第12回 地域活動現場見学実習4 (他職種との連携を学ぶ)</p> <p>第13回 地域活動現場見学実習5 (対象者のニーズを知る)</p> <p>第14回 地域活動現場見学実習6 (まとめ)</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意	<p>施設や地域活動の現場に向いて見学実習を行う。 利用者や対象者とのかわりに気を付けながら、理学療法士が現場でどのように考え行動しているかを学ぶこと。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハビリ部門管理者のための実践テキスト ログガ書房高齢者施設の介護人材育成テキスト 中央法規</p> <p>介護支援支援専門員実践テキスト 中央法規 実例でわかる介護老人保健施設 法研</p>									

講義名	理学療法見学実習									
講師名	松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 栗川幹雄 松井有史 河西紀秀 福井直樹 (全員実務経験者)									
学年	1	年	学期	前期	時間	45	時間	必修	1	単位
講義目標	医療人としての接遇・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、理学療法における施設特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で、理学療法過程と対象者の関わり方を見学する。また、その施設の関連職種の業務や患者・利用者への関わり方の違いやチームアプローチについて理解する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。									
授業計画	<p>1日目 オリエンテーション（実習目的と実習内容）</p> <p>2日目 実習病院及び理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の役割について説明を受ける</p> <p>3日目 理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の専門性について説明を受ける</p> <p>4日目 理学療法場面を見学し、指導者より代表的な対象疾患及び障害像について説明を受ける</p> <p>5日目 実習まとめ</p>									
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。									
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハビリテーションリスク管理販売費度ブック MEDICAL VIEW</p> <p>理学療法士の日 保育社</p>									

講義名	理学療法体験実習									
講師名	松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 栗川幹雄 松井有史 河西紀秀 福井直樹 (全員実務経験者)									
学年	2	年	学期	前期	時間	90	時間	必修	2	単位
講義目標	学内外で学んだ内容を活かし、臨床実習指導者の指導の下で、見学と対象者との会話等においての体験を行う。また、チームの一員として問診、授業で履修している理学療法評価を共同参加により理学療法過程を体験する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う。									
授業計画	<p>1週目 オリエンテーションや見学を通して理学療法士像の一部を把握できる。</p> <p>2週目 臨床実習指導者のもと理学療法士像を把握できる。</p>									
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を体験する。									
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハビリテーション評価データブック 医学書院</p> <p>理学療法評価学 文光堂 理学療法臨床評価プランニング 南江堂</p>									

講義名	理学療法評価実習
講師名	松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 栗川幹雄 松井有史 河西紀秀 福井直樹 (全員実務経験者)
学年	3 年 学期 前期 時間 180 時間 必修 4 単位
講義目標	学内で学んだ理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶ。特に、理学療法評価における目標設定や治療プログラムの立案にあたっては、臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1 週目 オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した理学療法評価を抽出できる。</p> <p>4 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。</p> <p>5 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定 (S,A,B,C,D) は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハビリテーション評価ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社</p> <p>理学療法評価学 文光堂 理学療法臨床評価プランニング 南江堂</p>

講義名	理学療法総合臨床実習									
講師名	松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 栗川幹雄 松井有史 河西紀秀 福井直樹 (全員実務経験者)									
学年	4	年	学期	前期	時間	720	時間	必修	16	単位
講義目標	8週間2カ所の臨床実習施設において総合臨床実習を行う。これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶ。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。									
授業計画	<p>実習前 OSCEから理学療法療法の評価技能及び理学療法治療過程の検討状況を確認する</p> <p>1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる</p> <p>4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる</p> <p>5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる</p> <p>6 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の立案を実施できる</p> <p>7 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の一部を実施できる</p> <p>8 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。</p> <p>9 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>10 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>11 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる</p> <p>12 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる</p> <p>13 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる</p> <p>14 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の立案を実施できる</p> <p>15 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の一部を実施できる</p> <p>16 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。</p> <p>実習後 OSCEから理学療法療法の評価技能及び理学療法治療過程の検討状況を確認する</p>									
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。									
成績評価	実習前後に客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。臨床実習終了時、総合評価における成績判定(S,A,B,C,D)は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習前後のOSCEの結果、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハカルテ活用ハンドブック MEDICAL VIEW</p> <p>理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル 協同医書出版 PT卒後ハンドブック 三輪書店</p>									

講義名	作業療法概論									
講師名	大松 慶子						(実務経験者)			
学年	1	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>作業療法の歴史とパラダイムの変遷について理解を深め、作業療法の目的を正しく理解する。また、それらを踏まえた上で、人の健康の捉え方、作業についての知識の基礎と作業療法の理論を学ぶ。授業内容として、作業療法の定義や理論、作業の意味や作業を通じた人の捉え方、社会状況や法・制度、他職種連携、作業療法の過程と身体障害、精神障害、老年期、発達障害の各領域の対象者と、急性期から生活期までの実際等を学習する。</p>									
授業計画	第1回	作業療法とは何か								
	第2回	作業療法の歴史とパラダイムの変遷								
	第3回	作業療法の対象と活動分野・領域作業								
	第4回	人の健康の捉え方 (ICF)								
	第5回	作業療法の実践過程								
	第6回	チームアプローチ							小テスト	
	第7回	作業療法の意味								
	第8回	作業的存在								
	第9回	作業療法の理論 ①								
	第10回	作業療法の理論 ②								
	第11回	作業療法の対象と活動領域								
	第12回	急性期における作業療法の役割・機能								
	第13回	回復期における作業療法の役割・機能								
	第14回	生活期における作業療法の役割・機能								
	第15回	倫理、管理運営								
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めてください。</p>									
成績評価	小テスト(20%)，定期試験(80%)で判断する									
テキスト	<p>矢谷令子著「標準作業療法学 作業療法学概論」 医学書院</p>									
参考図書、その他	<p>ギャーリー・キールホフナー・著、山田 孝・監訳 「作業療法 実践の理論 原著第4版」 医学書院 吉川ひろみ・著「『作業』って何だろう 第2版 作業科学入門」 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	基礎作業学									
講師名	幸福 秀和						(実務経験者)			
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、作業活動における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は、人が作業を行うことによる、環境からの影響、身体機能や精神機能からの影響や関係性について理解を深めていくことである。									
授業計画	第1回	オリエンテーション／作業とは								
	第2回	作業活動とライフサイクル								
	第3回	作業遂行の構成要素								
	第4回	作業遂行に関する理論①身体機能的理解								
	第5回	作業遂行に関する理論②精神機能的理解								
	第6回	作業遂行に関する理論③発達学的理解								
	第7回	作業遂行の包括的理解								小テスト
	第8回	作業の治療的応用のための基本理論①学習理論								
	第9回	作業の治療的応用のための基本理論②行動理論								
	第10回	作業の治療的応用のための基本理論③ICF								
	第11回	作業分析とは								
	第12回	一般的作業分析								
	第13回	限定的作業分析								
	第14回	作業・作業活動の治療的使用								
	第15回	作業療法と作業活動（病院で働く作業療法士からの講義）								
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	矢谷令子監修「標準作業療法学 基礎作業学」医学書院									

講義名	作業療法研究論									
講師名	幸福 秀和						(実務経験者)			
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、臨床家となってから作業療法研究ができるための研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことである。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の手続きを学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行なう。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行う</p>									
授業計画	第1回	作業療法研究法の概論								
	第2回	研究とは何をするのか								
	第3回	研究の種類と論文構成								
	第4回	研究に関わる基礎知識								
	第5回	研究論文の発表と手続き								
	第6回	実際の作業療法研究事例について								
	第7回	研究疑問の立て方と解決法								
	第8回	文献検索（演習）	書籍から							小テスト
	第9回	文献検索（演習）	インターネットから							
	第10回	研究計画の立案								
	第11回	研究計画の報告								
	第12回	研究計画書の作成（演習）①研究デザイン・目的								
	第13回	研究計画書の作成（演習）②仮説・方法								
	第14回	研究計画書の作成（演習）③スケジュール								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	<p>講義の際、前回の内容に関しての小テストを実施したり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。小テストやレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする</p>									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 医学書院</p>									

講義名	基礎作業学実習Ⅰ									
講師名	大松 慶子					(実務経験者)				
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業の持つ意味を理解し、様々な作業活動の行程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになること、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ること为目标とする。授業内容は、作業活動のうち革細工、マクラメなどの作業活動を用いて作業遂行要素に関する作業分析を行ない、レポートにて考察することで理解を含めていく。</p>									
授業計画	第1回	作業療法における基本理論,作業分析方法の概略								
	第2回	作業的存在の分析について								
	第3回	作業的存在の分析の実際								
	第4回	革細工の実際								
	第5回	革細工の分析								
	第6回	革細工の臨床的応用について								
	第7回	限定的作業分析の実際とフィードバック							小テスト	
	第8回	木工芸の実際								
	第9回	木工芸の分析								
	第10回	木工芸の臨床的応用について								
	第11回	籐細工の実際と分析								
	第12回	籐細工の臨床的応用について								
	第13回	陶芸の実際								
	第14回	陶芸の分析								
	第15回	陶芸の臨床的応用について								
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p>									
	<p>小林夏子他「標準作業療法学 基礎作業学」医学書院</p>									

講義名	基礎作業学実習Ⅱ									
講師名	巽 絵理			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>作業療法の治療として多く用いられる作業活動種目について、治療的視点を持ちながら、対象者が手順や方法を理解し遂行できるような指導ができるようになることである。</p> <p>授業方法は、木工、モザイクなどの作業種目を提示し、グループにて作品を完成させる中で行程分析を行い作業種目の治療的視点、他者に指導できる教授方法を検討し、レポートにまとめていき、実際に他者に教授するまでをおこなう。</p>									
授業計画	<p>第1回 包括的作業分析</p> <p>第2回 作業を学習するための理論</p> <p>第3回 行動学習を利用した支援</p> <p>第4回 行動学習の方法</p> <p>第5回 作業の選定および作業分析</p> <p>第6回 作業支援の実践とフィードバック（木工）</p> <p>第7回 作業支援の実践とフィードバック（革細工）</p> <p>第8回 作業支援の実践とフィードバック（陶工）</p> <p>第9回 作業支援の実践とフィードバック（モザイク）</p> <p>第10回 興味・関心チェックシート演習</p> <p>第11回 作業遂行とクライアント中心の実践・COPM演習</p> <p>第12回 トップダウン評価・AMPS運動技能</p> <p>第13回 トップダウン評価・AMPSプロセス技能</p> <p>第14回 課題演習1・作業遂行での課題を検討する</p> <p>第15回 課題演習2・作業遂行を可能にする支援計画検討</p>									
履修上の注意	<p>前半は作業支援について行う。実施する作業に関して、事前に行う等して、作業支援の準備を十分に行っておくこと。</p> <p>後半は作業の実施・遂行に関する表を中心に行う。講義までに実施する検査・評価内容および方法に関して確認しておくこと。</p>									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院					参考図書、その他				
	COPM・AMPSスターティングガイド 医学書院					作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 メディカルビュー社				
						作業活動実習マニュアル 医歯薬出版株式会社				

講義名	作業療法評価学総論Ⅰ									
講師名	大松 慶子			(実務経験者)						
学年	1	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深めることである。</p> <p>授業内容は、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的な知識を深める。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション 作業療法過程の復習								
	第2回	作業療法評価の概論								
	第3回	生理機能の評価（バイタルサイン等）								
	第4回	身体障害作業療法評価の特徴と評価の流れ								
	第5回	身体障害の評価（整形疾患、骨折等）								
	第6回	身体障害の評価（整形疾患、末梢神経障害等）								
	第7回	身体障害の評価（中枢神経系疾患等）								
	第8回	身体障害の評価（認知機能関連疾患等）								
	第9回	身体障害の評価（その他疾患）								
	第10回	精神障害作業療法評価の特徴と評価の流れ								
	第11回	精神障害の評価（統合失調症等）								
	第12回	精神障害の評価（神経症性疾患等）								
	第13回	精神障害の評価（気分障害関連疾患等）								
	第14回	精神障害の評価（心神喪失関連等）								
	第15回	精神障害の評価（その他の疾患）								
履修上の注意	<p>基礎医学の学習内容を事前に確認しておくこと。</p> <p>各領域の作業療法について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。</p>									
成績評価	講義中課題(40%)、定期試験(60%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	<p>標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学 岩崎テル子 他（編集）医学書院</p>									

講義名	作業療法評価学総論Ⅱ									
講師名	大松 慶子		(実務経験者)							
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深めることである。</p> <p>授業内容は、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的な知識を深める。作業療法評価の分析解釈方法を病気別に理解する。</p>									
授業計画	<p>第1回 発達障害作業療法評価の特徴と評価の流れ</p> <p>第2回 発達障害の評価（運動機能障害等）</p> <p>第3回 発達障害の評価（神経障害・進行性障害等）</p> <p>第4回 発達障害の評価（自閉症性障害等）</p> <p>第5回 発達障害の評価（発達障害等）</p> <p>第6回 発達障害の評価（その他障害）</p> <p>第7回 高齢期障害作業療法評価の特徴と評価の流れ</p> <p>第8回 高齢期障害の評価（整形疾患、骨折等）</p> <p>第9回 高齢期障害の評価（中枢神経等）</p> <p>第10回 高齢期障害の評価（認知機能障害等）</p> <p>第11回 高齢期障害の評価（廃用性症候群等）</p> <p>第12回 高齢期障害の評価（その他疾患）</p> <p>第13回 作業療法評価の分析・統合と解釈（急性期および回復期）</p> <p>第14回 作業療法評価の分析・統合と解釈（生活期）</p> <p>第15回 作業療法評価の分析・統合と解釈（維持期）</p>									
履修上の注意	<p>各領域の作業療法について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。</p>									
成績評価	<p>講義中課題(40%)、定期試験(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学 岩崎テル子 他（編集）医学書院</p> <p>参考図書、その他</p>									

講義名	作業療法評価学実習									
講師名	川 雅弘			(実務経験者)						
学年	2	年	学期	前期	時間	60	時間	必修	2	単位
講義目標	<p>作業療法で用いられる基本的な技術が修得できることとする。内容として、作業療法場面における面接や観察、オリエンテーションを含めた各検査測定の方法について教員の実演を通してモデル提示を行なう。一定時間の実技練習と指導を重ね、臨床実習に向けてスキルを確認し、加えて自ら学ぶ姿勢も身につけていく。臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）についての説明を行なう。</p>									
授業計画	第1回	コースオリエンテーション、評価実技の概要説明			(1回2時間、1～15回迄同様)					
	第2回	車椅子の駆動介助 (デモンストレーション・実技練習)								
	第3回	車椅子の駆動介助 実技確認① (基本的な車椅子の操作と心構え)								
	第4回	車椅子の駆動介助 実技確認② (対象者の姿勢への配慮など)								
	第5回	血圧と脈拍の測定 (デモンストレーション・実技練習)								
	第6回	血圧と脈拍の測定 実技確認① (患者への説明などの対応)								
	第7回	血圧と脈拍の測定 実技確認② (正確な血圧計の使い方)								
	第8回	関節可動域測定 (デモンストレーション・実技練習)								
	第9回	関節可動域測定 実技確認① (患者への説明などの対応)								
	第10回	関節可動域測定 実技確認② (角度計の使い方、基本軸・移動軸など)								
	第11回	腱反射・病的反射 (デモンストレーション・実技練習)								
	第12回	腱反射・病的反射 実技確認① (患者への説明などの対応)								
	第13回	腱反射・病的反射 実技確認② (打腱器の使い方、検査方法の正確性)								
	第14回	客観的臨床能力試験 (OSCE:Objective Structured Clinical Examination) の解説								
	第15回	客観的臨床能力試験 (OSCE:Objective Structured Clinical Examination) のデモンストレーション								
履修上の注意	<p>学生同士での実技練習を積極的に実施すること。実技および実技確認においては、実習を想定した服装を着用して行なう。</p>									
成績評価	<p>実技4項目について、各項目20点で採点を行なう。</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>才藤栄一「臨床技能とOSCE」金原出版</p>									

講義名	作業療法評価学Ⅰ				
講師名	川 雅弘		(実務経験者)		
学年	2 年	学期	前期	時間	30 時間 必修 1 単位
講義目標	<p>講義の目標は、作業療法における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明でき、検査測定を実施できることである。評価学Ⅰでは身体構造に関連する検査を中心について学ぶ。</p> <p>授業内容は、作業療法の評価における各検査を体験を通して理解を深めていく。実技を通して基本的な技法を学んだ内容を小テストや実技テストを通して確実に知識・技術が身に付いていることを確認しながら進めていく。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション、評価プロセス及び目的			
	第2回	形態計測（概要）			
	第3回	形態計測（実技）			
	第4回	関節可動域検査①（肩関節）			
	第5回	関節可動域検査②（肘関節、手関節）			
	第6回	関節可動域検査③（手指、股関節）			
	第7回	関節可動域検査④（膝関節、足関節）			
	第8回	関節可動域検査実技試験			
	第9回	反射検査の意義と目的	小テスト		
	第10回	反射検査（腱反射、病的反射）			
	第11回	姿勢反射検査の意義と目的			
	第12回	姿勢反射検査（原始反射、姿勢反射）			
	第13回	感覚検査の意義と目的			
	第14回	感覚検査（表在感覚）			
	第15回	感覚検査（深部感覚）			
履修上の注意	<p>実技を中心に行なう。検査技術を獲得するためには授業時間が医学集として学生同士の実技練習が必須となる。</p>				
成績評価	小テスト20%、実技テスト30%、定期試験50%				
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>佐竹勝『作業療法評価学（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）』メディカルビュー社</p>				

講義名	作業療法評価学Ⅱ				
講師名	幸福 秀和		(実務経験者)		
学年	2年	学期	後期	時間	30時間 必修 1単位
講義目標	<p>講義の目標は、作業療法における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明でき、検査測定を実施できることである評価学Ⅱでは身体機能に関連する検査を中心について学ぶ。</p> <p>授業内容は、作業療法の評価における各検査を体験を通して理解を深めていく。実技を通して基本的な技法を学んだ内容を小テストや実技テストを通して確実に知識・技術が身に付いていることを確認しながら進めていく。</p>				
授業計画	<p>第1回 徒手筋力検査①(検査目的、方法について)</p> <p>第2回 徒手筋力検査②(肩、肩甲帯)</p> <p>第3回 徒手筋力検査③(肘、前腕)</p> <p>第4回 徒手筋力検査④(手関節、手指)</p> <p>第5回 徒手筋力検査⑤(股関節)</p> <p>第6回 徒手筋力検査⑥(膝関節、足関節)</p> <p>第7回 徒手筋力検査⑦(体幹)</p> <p>第8回 徒手筋力検査実技試験(上肢)</p> <p>第9回 徒手筋力検査実技試験(下肢)</p> <p>第10回 筋緊張検査の意義と目的</p> <p>第11回 筋緊張検査</p> <p>第12回 協調性検査の意義と目的</p> <p>第13回 協調性検査</p> <p>第14回 上肢機能検査の意義と目的</p> <p>第15回 上肢機能検査(簡易上肢機能検査)</p>				小テスト
履修上の注意	<p>実技を中心に行なう。検査技術を獲得するためには授業時間が医学集として学生同士の実技練習が必須となる。</p>				
成績評価	<p>小テスト20%、実技テスト30%、定期試験50%</p>				
テキスト	<p>参考図書. その他</p> <p>佐竹勝『作業療法評価学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)』メディカルビュー社</p>				

講義名	応用評価学演習									
講師名	松永 秀俊（実務経験者）／大松 慶子（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、3年次までに修得した評価法とともに海外で用いられる評価法も取り入れ、さらに患者の状態の理解を把握する。各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行う。</p>									
授業計画	第1回	応用評価学演習の目指すところ								
	第2回	脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第3回	脳血管症例に対する評価方法、統合解釈								
	第4回	運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第5回	運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第6回	神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第7回	神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第8回	運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第9回	運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第10回	動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する）	課題：分析レポート							
	第11回	動作観察・分析②（逸脱動作を分析する）	課題：分析レポート							
	第12回	動作観察・分析③（分析結果から機能障害を推論する）	課題：分析レポート							
	第13回	動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）	課題：分析レポート							
	第14回	精神疾患の捉え方・症例に対する対応	小テスト：動作分析							
	第15回	理学療法総合臨床実習における客観的臨床能力試験（OSCE）について								
履修上の注意	<p>不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）がないように注意する。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>リハビリテーションにおける評価Ver.3 医歯薬出版株式会社</p>									

講義名	身体障害作業療法学Ⅰ									
講師名	大松 慶子			(実務経験者)						
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、脳血管障害による生活障害を持った人への作業療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法を学ぶ。</p>									
授業計画	<p>第1回 日常作業への介入概論</p> <p>第2回 日常作業への介入基礎演習 自助具作成</p> <p>第3回 スプリントの基本的知識と作製準備</p> <p>第4回 スプリントの作製</p> <p>第5回 車椅子の種類、目的、評価、障害別選定、シーティング、車いす駆動指導</p> <p>第6回 習得モデル</p> <p>第7回 リスク管理、二次障害予防</p> <p>第8回 作業を基盤とした運動コントロールの基礎</p> <p>第9回 作業を基盤とした運動コントロールの応用</p> <p>第10回 作業を基盤とした運動コントロールの実際</p> <p>第11回 模擬患者との介入演習①（上肢への介入）</p> <p>第12回 模擬患者との介入演習②（歩行への介入）</p> <p>第13回 模擬患者との介入演習③（基本動作への介入）</p> <p>第14回 模擬患者との介入演習発表とフィードバック①（上肢・歩行）</p> <p>第15回 模擬患者との介入演習発表とフィードバック②（基本動作）</p>									
履修上の注意	<p>この授業では、日常作業への作業療法介入の実際について、事例を通して、学んでいく。授業外での予習・復習が求められるので、しっかりと取り組むこと。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>作業療法全書 「日常生活活動評価」 協同医書</p>									
	<p>参考図書、その他</p>									

講義名	身体障害作業療法学Ⅱ									
講師名	幸福 秀和					(実務経験者)				
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>高次脳機能障害のメカニズムの理解および、基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。授業内容は、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について講義を進めていく。また、脳血管障害から起こる生活障害についてICFを用いて理解し、治療プログラムの立案までの一連のプロセス理解を促す。実際の症状と日常生活への影響の理解を促すために動画媒体を用いて授業を進めていく。</p>									
授業計画	第1回	高次脳機能障害とは何か								
	第2回	高次脳機能障害の評価の概要								
	第3回	画像の見方、観察・面接の方法								
	第4回	神経心理学検査の紹介								
	第5回	意識障害と注意機能障害の特徴								
	第6回	意識障害と注意機能障害の評価と介入								
	第7回	半側空間無視および関連する障害の特徴								
	第8回	半側空間無視および関連する障害の評価と介入								
	第9回	感情障害の特徴と評価								小テ
	第10回	認知とは、認知の障害の特徴								
	第11回	認知障害の評価と介入								
	第12回	言語障害の特徴と評価								
	第13回	記憶障害の特徴と評価								
	第14回	思考障害の特徴と評価								
	第15回	遂行機能障害の特徴と評価								
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。</p>									
成績評価	小テスト20%、定期試験80%									
テキスト	参考図書、その他									
	<p>佐竹勝『高次脳機能障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)』 メディカルビュー社</p>									

講義名	身体障害作業療法学実習Ⅰ									
講師名	長辻 永喜	(実務経験者)								
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、整形疾患や脊髄損傷による生活障害を持った人への作業療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法論を説明していく。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション・手の整形外科疾患と解剖学の復習								
	第2回	手の骨折の概要								
	第3回	手の骨折の作業療法評価（実技）								
	第4回	手の骨折の作業療法アプローチ（実技）								
	第5回	末梢神経障害の概要								
	第6回	末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ								
	第7回	関節リウマチの概要								
	第8回	関節リウマチの作業療法評価とアプローチ								
	第9回	腱損傷の概要・作業療法評価とアプローチ（実技）								小テスト
	第10回	熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ								
	第11回	手のスプリントの実際（型紙）								
	第12回	手のスプリントの実践（作成）								
	第13回	手の整形外科疾患の症例検討								
	第14回	手の整形外科疾患の症例検討								
	第15回	手の整形外科の作業療法評価とアプローチ例								
履修上の注意	<p>遅刻・欠席に気をつけること。実技の際は袖を捲り上げやすい服装とバスタオルを持参のこと。スプリント作成時の準備物は授業内で伝えるので忘れず持参すること。</p>									
成績評価	小テスト（20%）、レポート・報告（20%）、定期試験（60%）として評価する									
テキスト	参考図書、その他									
	<p>標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 矢谷 令子監修 医学書院</p>									

講義名	身体障害作業療法学実習Ⅱ				
講師名	川 雅弘	(実務経験者)			
学年	3 年	学期	前期	時間	30 時間 必修 1 単位
講義目標	<p>授業目標は内部疾患や難病などの各障害におけるメカニズムの理解および、基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。授業内容は、特定疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患、悪性新生物の基礎知識とリスク管理、作業療法介入について学習をする。また、喀痰吸引についても実技を通して学習する。</p>				
授業計画	<p>第1回 神経難病の障害特性と作業療法1 (パーキンソン病)</p> <p>第2回 神経難病の障害特性と作業療法2 (ALS)</p> <p>第3回 神経難病の障害特性と作業療法3 (重症筋無力症)</p> <p>第4回 神経難病の障害特性と作業療法4 (多発性硬化症)</p> <p>第5回 呼吸疾患と作業療法1 (COPD) 小テスト</p> <p>第6回 呼吸疾患と作業療法2 (肺癌)</p> <p>第7回 呼吸疾患と作業療法3 (喀痰吸引法)</p> <p>第8回 呼吸疾患と作業療法4 (喀痰吸引演習)</p> <p>第9回 循環器疾患と作業療法1 (高血圧症)</p> <p>第10回 循環器疾患と作業療法2 (心筋梗塞後遺症)</p> <p>第11回 循環器疾患と作業療法3 (慢性心不全)</p> <p>第12回 循環器疾患と作業療法4 (その他の循環器疾患)</p> <p>第13回 代謝疾患と作業療法1 (糖尿病) 小テスト</p> <p>第14回 代謝疾患と作業療法2 (メタボリックシンドローム)</p> <p>第15回 代謝疾患と作業療法3 (その他代謝疾患)</p>				
履修上の注意					
成績評価	小テスト (20%)、レポート・報告 (20%)、定期試験 (60%) として評価する				
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 医歯薬出版</p>				

講義名	発達障害作業療法学Ⅰ									
講師名	幸福 秀和		(実務経験者)							
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	発達障害領域の脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解する。授業内容は、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺、痙直型片麻痺、アテトーゼ型、失調型、混合型の特徴と評価、治療支援について、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。									
授業計画	<p>第1回 脳性麻痺について（概要）</p> <p>第2回 脳性麻痺について（痙直型）</p> <p>第3回 痙直型四肢麻痺児の特徴</p> <p>第4回 痙直型四肢麻痺児の分析と評価計画立案</p> <p>第5回 痙直型両麻痺児の特徴</p> <p>第6回 痙直型両麻痺児の分析と評価計画立案</p> <p>第7回 痙直型片麻痺児の特徴</p> <p>第8回 痙直型片麻痺児の分析と評価計画立案</p> <p>第9回 脳性麻痺について（アテトーゼ、失調型）</p> <p>第10回 アテトーゼ型の特徴</p> <p>第11回 アテトーゼ型の分析と評価計画立案</p> <p>第12回 脳性麻痺について（混合型、弛緩型）</p> <p>第13回 重症心身障害児について（概要）</p> <p>第14回 重症心身障害児の特徴と分析</p> <p>第15回 摂食機能について</p>									
履修上の注意	ビデオを用いた分析、記録を行うことが多い。授業時間内で記載できなかったことは、次回の授業までに必ず記載しておくこと。									
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	上杉雅之「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版					参考図書、その他 長崎重信「ゴールドマスター 発達障害作業療法学」メ ディカルビュー社				

講義名	発達障害作業療法学Ⅱ											
講師名	幸福 秀和			(実務経験者)								
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位		
講義目標	発達障害領域の知的障害や自閉スペクトラム症などの障害特性、発達特性とその作業療法評価と治療・支援について理解する。内容としては、知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、学習障害などの特徴とその評価やライフステージに合わせた治療支援、感覚統合障害の評価と治療支援について学習する。											
授業計画	第1回	発達障害とは										
	第2回	知的障害の臨床像の理解										
	第3回	知的障害の評価と治療										
	第4回	ダウン症の臨床像の理解										
	第5回	ダウン症の評価と治療										
	第6回	自閉スペクトラム症の臨床像										
	第7回	自閉症スペクトラムの評価										
	第8回	自閉スペクトラム症の治療										
	第9回	学習障害の臨床像										
	第10回	学習障害の評価と治療										
	第11回	ADHDの臨床像										
	第12回	ADHDの評価と治療										
	第13回	感覚統合障害の評価										
	第14回	感覚統合障害の治療										
	第15回	特別支援教育について										
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。											
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する											
テキスト	<table border="0"> <tr> <td>上杉雅之「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版</td> <td>長崎重信「ゴールドマスター 発達障害作業療法学」メ ディカルビュー社</td> </tr> </table>										上杉雅之「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版	長崎重信「ゴールドマスター 発達障害作業療法学」メ ディカルビュー社
上杉雅之「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版	長崎重信「ゴールドマスター 発達障害作業療法学」メ ディカルビュー社											
	参考図書、その他											

講義名	精神障害作業療法学Ⅰ									
講師名	巽 絵理（実務経験者）、小島 徹也（実務経験者）									
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、精神障害に対する作業療法評価から治療計画の立案を理解すること、作業療法の対象となる精神疾患について理解し、作業療法治療援助の知識を習得することである。授業内容は作業療法の基本構造、評価プロセスの学習、疾患別作業療法として統合失調症、気分障害などを学習する。授業の中で実際に評価を体験し、ICFを用いて統合と解釈の流れについて学ぶ。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション	精神科作業療法の歴史							
	第2回	統合失調症の作業療法（入院中の作業療法）								
	第3回	統合失調症の作業療法（社会生活場面での作業療法）								
	第4回	森田療法								
	第5回	神経症性障害の作業療法								
	第6回	てんかんの作業療法								
	第7回	器質性精神障害の作業療法								
	第8回	その他の疾患・障害の作業療法 SST と作業療法								
	第9回	SST と作業療法（目的）								小テスト
	第10回	SST と作業療法（ロールプレイ）								
	第11回	SST と作業療法（モデリング）								
	第12回	SST と作業療法（社会生活の改善）								
	第13回	SST と作業療法（練習の順序について）								
	第14回	SST と作業療法（対象者と関係職種）								
	第15回	SST と作業療法（まとめ）								
履修上の注意	授業後にはレポートを提出する。定期的に小テストを行う。									
成績評価	小テスト(20%)、レポート課題(20%)、定期試験(60%)で判断する									
テキスト	<p>作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害 富岡詔子・小林正義編集 協同医書出版社</p>									
	参考図書、その他									

講義名	精神障害作業療法学Ⅱ									
講師名	巽 絵理（実務経験者）、小島 徹也（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、精神障害に対する作業療法の治療目標と具体的な医療計画立案について理解できるようになることである。作業療法の対象となる精神疾患について理解を深め、作業療法治療援助を実践するための知識を修得することである。授業内容は、精神障害作業療法学Ⅰで学んだ精神科作業療法の視点、治療、援助構造、評価について、事例を用いてその関連性を統合できるように理解を進める。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション	精神科作業療法の評価							
	第2回	精神科作業療法評価								
	第3回	精神作用物質使用による精神および行動の障害の作業療法								
	第4回	人格障害・摂食障害の作業療法								
	第5回	気分障害の作業療法								
	第6回	てんかんの作業療法								
	第7回	その他の疾患・障害の作業療法								
	第8回	精神科領域での就労支援（一般雇用）								小テスト
	第9回	精神科領域での就労支援（福祉的就労、在宅就労）								
	第10回	認知行動療法と作業療法								
	第11回	事例検討								
	第12回	作業療法の実際（入院生活技能訓練）								
	第13回	作業療法の実際（入院集団精神療法）								
	第14回	作業療法の実際（通院集団精神療法）								
	第15回	作業療法の実際（まとめ）								
履修上の注意	<p>授業後にはレポートを提出する。定期的に小テストを行う。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、レポート課題(20%)、定期試験(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害 富岡詔子・小林正義編集 協同医書出版社</p>									
	<p>参考図書、その他</p>									

講義名	老年期障害作業療法学Ⅰ									
講師名	井口 知也						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>①高齢者の現状、高齢社会到来の経緯と社会制度の変化を理解する、②加齢による高齢者の一般的特徴を理解する、③老年期に多い各種障害・症状および一般的評価方法を理解する、④老年期に多い各種疾患に対する作業療法の評価・介入方法を理解することである。授業内容は、高齢社会到来の背景と高齢者の現状を述べ、老年期障害の一般的特徴、生理機能の変化、高齢者に多い症候（転倒、排尿障害、心疾患、肺疾患、認知症、パーキンソン症候群、廃用性症候群など）を講義し、作業療法の評価と介入方法を教示する。</p>									
授業計画	第1回	高齢化社会に伴う諸問題								
	第2回	高齢化社会の時代的背景								
	第3回	加齢による高齢者の一般的特徴								
	第4回	介護保険制度について								
	第5回	老年期作業療法の実践(基本的枠組み)								
	第6回	老年期作業療法の実践(特定高齢者,一般高齢者について)								
	第7回	老年期障害のマネジメント1(機能障害に対して)								
	第8回	老年期障害のマネジメント2(精神障害に対して)								
	第9回	老年期障害疾患別作業療法(廃用症候群)								小テスト
	第10回	老年期障害疾患別作業療法(内部障害)								
	第11回	老年期障害疾患別作業療法(心疾患、呼吸器疾患)								
	第12回	老年期障害疾患別作業療法(中枢性疾患①脳血管障害)								
	第13回	老年期障害疾患別作業療法(中枢性疾患②パーキンソン病)								
	第14回	老年期障害疾患別作業療法(整形疾患①上肢)								
	第15回	老年期障害疾患別作業療法(整形外科②下肢)								
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。</p>									
成績評価	小テスト20%、定期試験80%									
テキスト	<p>徳永千尋「老年期作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)」メディカルビュー社</p>									
	<p>参考図書、その他</p>									

講義名	老年期障害作業療法学Ⅱ				
講師名	川 雅弘	(実務経験者)			
学年	3 年	学期	後 期	時間	60 時間 必修 2 単位
講義目標	<p>授業目標は、認知症に対する病態理解、症状および一般的評価を理解し、作業療法の介入方法を理解することができることである。授業内容として、認知症に対する作業療法士の役割および形態、作業療法プロセス（評価・統合と解釈・目標設定・目的とアプローチ、実施方法）、作業療法治療理論、家族や多職種との連携について説明を行なう。</p>				
授業計画	第1回	認知症の疫学	(1回2時間、1～15回迄同様)		
	第2回	認知症の病態と症状			
	第3回	認知症の治療			
	第4回	認知症をもつ人への作業療法の視点			
	第5回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス			
	第6回	認知症に対する作業療法評価①（ニーズ・背景の評価）			
	第7回	認知症に対する作業療法評価②（作業遂行の評価）			
	第8回	認知症に対する介入	小テスト		
	第9回	認知症に対する作業療法の理論と手法①（アクティビティ）			
	第10回	認知症に対する作業療法の理論と手法②（活動形態）			
	第11回	回想法			
	第12回	認知症に対する基本となるかわり			
	第13回	認知症に対する作業療法アプローチ（事例①）			
	第14回	認知症に対する作業療法アプローチ（事例②）			
	第15回	認知症に対する作業療法アプローチ（事例③）			
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。</p>				
成績評価	小テスト20%、定期試験80%				
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>宮口秀樹「認知症をもつ人への作業療法アプローチ」メディカルビュー社</p>				

講義名	日常生活活動学									
講師名	湯川 喜裕					(実務経験者)				
学年	2	年	学期	後期	時間	60	時間	必修	2	単位
講義目標	<p>①日常生活活動、疾患、症状と日常生活活動の基礎知識について理解し、標準化されたADL検査を実施できること、②日常生活の支援をするための治療的技術を選択できるようになること、③ICFの概念に基づき日常生活障害に影響する様々な要因を理解し解決策を説明できるようになることである。授業内容は、ADLの標準化された評価法（Functional Independence Measure、バーサルインデックスなど）の習得と臨床の評価に必要なADLの観察方法、基本的能力や環境との関連性を考慮した分析を学ぶ。</p>									
授業計画	第1回	ICFについて				(1回2時間、1～15回迄同様)				
	第2回	身体構造について								
	第3回	心身機能について								
	第4回	活動の要素について								
	第5回	参加の要素について								
	第6回	環境因子について								
	第7回	事例におけるICFの理解								
	第8回	ADLの基礎								
	第9回	ADLの基礎の評価								
	第10回	ADLの治療理論								
	第11回	ADL評価の実際 高齢者の自立度								
	第12回	ADL評価の実際 Barthel Index								
	第13回	ADL評価の実際 Functional Independence Measure								
	第14回	ADL評価の実際 Frenchai Activity Index								
	第15回	ICFとADL評価								
履修上の注意	<p>ICFの項目について、講義前に書籍等で確認して置くこと。講義においては、事例等を用いて、ICFの項目に分類するなどのワークショップを行う予定である。 ADL評価に関して事前に書籍等を読み、評価に関する概要について理解して置くこと。</p>									
成績評価	<p>日常生活活動の評価およびICFに関する内容は、試験を実施し80%で評価し、20%はワークショップ等の課題の成果で評価する</p>									
テキスト	参考図書、その他									
	標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院									

講義名	日常生活活動学実習Ⅰ		
講師名	湯川 喜裕	(実務経験者)	
学年	3年	学期	前期
時間	60時間	必修	2単位
講義目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになることとする。構成要素の理解では、食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し、グループワークを通して分析を進める。その分析内容は発表会を持って全体に広めていく。		
授業計画	<p>第1回 身体機能のADL・APDL 起居移動 (1回2時間、1～15回迄同様)</p> <p>第2回 身体機能のADL・APDL 食事</p> <p>第3回 身体機能のADL・APDL 整容</p> <p>第4回 身体機能のADL・APDL 更衣</p> <p>第5回 身体機能のADL・APDL 排泄</p> <p>第6回 身体機能のADL・APDL 入浴</p> <p>第7回 身体機能のADL・APDL 炊事</p> <p>第8回 身体機能のADL・APDL 掃除</p> <p>第9回 身体機能のADL・APDL 買い物</p> <p>第10回 社会生活行為の支援 教育・就労</p> <p>第11回 社会生活行為の支援 コミュニティ・遊び</p> <p>第12回 高齢者・障がい者を取り巻く生活環境</p> <p>第13回 排泄の環境アセスメントと支援</p> <p>第14回 入浴の環境アセスメントと支援</p> <p>第15回 歩装具・福祉用具・住環境</p>		
履修上の注意	前半は作業支援について行う。実施する生活活動に関する内容について、書籍を読み把握しておくこと。 後半は疾患・領域別の生活行為の理解を深める。疾患や障害について、発達障害・精神障害に関する内容を事前に確認しておくこと。		
成績評価	演習に対する態度、課題における遂行状況を50%で評価する。演習課題の提出およびその内容についてを50%で判定する		
テキスト	参考図書、その他		
	標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院		

講義名	日常生活活動学実習Ⅱ									
講師名	湯川 喜裕			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>一般的な起居動作の動作分析ができることと、作業分析が理解できることとする。授業内容では、作業療法独自の観察評価について理解を進める。後に健常者や臨床の対象者動画を通じて数例の作業分析を進めていく。また、2つ目の基本動作の分析では、寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行についての基本動作分析を行なう。それぞれの動作に伴う分析ポイントを教示し、学生間の演習を通じてさらに理解を深めていく。その後、全体に共通の事例を提示し、知識を用いながら分析を進めていく授業展開とする。</p>									
授業計画	<p>第1回 作業と運動学 作業時の力と筋活動</p> <p>第2回 作業と運動学 運動と作業、姿勢保持</p> <p>第3回 作業と神経心理学 作業と筋電</p> <p>第4回 作業と神経心理学 作業とニューロリハビリテーション</p> <p>第5回 基本動作演習 寝返り・起き上がり</p> <p>第6回 基本動作演習 立ち上がり</p> <p>第7回 基本動作演習 歩行1 (一般的な歩行)</p> <p>第8回 基本動作演習 歩行2 (高齢者の歩行)</p> <p>第9回 基本動作演習 杖歩行</p> <p>第10回 基本動作演習 車椅子駆動1 (両手駆動)</p> <p>第11回 基本動作演習 車椅子駆動2 (片手片足駆動)</p> <p>第12回 ADL活動時の筋活動1 (歩行時の筋活動)</p> <p>第13回 ADL活動時の筋活動2 (寝返り、起き上がりの筋活動)</p> <p>第14回 事例検討1 (事例A)</p> <p>第15回 事例検討2 (事例B)</p>									
履修上の注意	<p>前半は動作および運動学的な内容について理解を深める。事前に運動学および参考書等の内容を読み把握しておくこと。</p> <p>後半は演習を中心に動作・行為について理解を深めていく。運動・生理学的に生活を捉えてらる様、運動学および生理学手法に関する内容を事前に確認しておくこと。</p>									
成績評価	<p>演習に対する態度、課題における遂行状況を50%で評価する。演習課題の提出およびその内容についてを50%で判定する</p>									
テキスト	<p>標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院</p> <p>標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院</p>									
	<p>参考図書、その他</p>									

講義名	障害者スポーツ演習									
講師名	河西 紀秀		(実務経験者)							
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>障害者スポーツについて、実技演習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障害に応じたスポーツの工夫や、障害者スポーツ指導者について理解する。初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。</p>									
授業計画	第1回	コース・オリエンテーション	障害者スポーツの意義と理念							
	第2回	障害者の理解、障害者とスポーツの効果について学ぶ。								
	第3回	障害者福祉と法律について学ぶ。								
	第4回	障害者のスポーツの現状と課題について学ぶ。								
	第5回	障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。								
	第6回	障害の理解とスポーツの実際（身体障害など）①								
	第7回	障害の理解とスポーツの実際（知的障害など）②								
	第8回	障害の理解とスポーツの実際（精神障害など）③								
	第9回	障害の理解とスポーツの実際（視覚障害など）④								
	第10回	安全管理とボランティアについて学ぶ。								
	第11回	障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。								
	第12回	障害者スポーツに関する教育・研究機関、学会、団体等								
	第13回	障害者のスポーツ指導上の留意点								
	第14回	パラリンピック競技について学ぶ。								
	第15回	競技種目別や地域レベル障害者スポーツについて学ぶ。								
履修上の注意										
成績評価	受講態度（20％）レポート課題(100％)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	配布資料を中心に授業を行う。					授業中、適宜紹介する、				

講義名	高次脳機能障害の治療法									
講師名	大松 慶子						(実務経験者)			
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、作業療法士・理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶことである。特に高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができるようにする。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション・高次脳機能障害の概要								
	第2回	認知機能検査の実際と解釈								
	第3回	注意機能の評価の実際と解釈・注意障害における理学療法中の注意事項								
	第4回	注意障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第5回	半側空間無視の評価の解釈・半側空間無視における理学療法中の注意事項								
	第6回	半側空間無視の特徴と評価、リハビリテーション								
	第7回	記憶の評価の解釈、記憶障害における理学療法中の注意事項								
	第8回	記憶障害の特徴と評価、リハビリテーション								小テスト
	第9回	失語の評価の実際、失語症の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第10回	失語の特徴と評価、リハビリテーション								
	第11回	行為の評価の実際、行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第12回	失行の特徴と評価、リハビリテーション								
	第13回	その他の評価の実際と解釈								
	第14回	前頭葉障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第15回	遂行機能障害の特徴と評価、リハビリテーション								
履修上の注意	毎回の授業の復習をすること。遅刻・欠席はしないように。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>高次脳機能障害学マエストロシリーズ①基礎知識のエッセンス 医歯薬出版</p> <p>高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版</p>									

講義名	認知症の理解とその支援									
講師名	小島 徹也		(実務経験者)							
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、認知症の疫学やその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景を理解することにより、認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考える力と態度を養うことである。</p>									
授業計画	<p>第1回 認知症とは</p> <p>第2回 認知症の疫学と各国の政策</p> <p>第3回 認知症の病態と症状</p> <p>第4回 主な原因疾患の症状と経過</p> <p>第5回 認知症の治療</p> <p>第6回 パーソン・センタード・ケア</p> <p>第7回 認知症をもつ人への評価 ①</p> <p>第8回 認知症をもつ人への評価 ②</p> <p>第9回 心身機能への支援 ①</p> <p>第10回 心身機能への支援 ②</p> <p>第11回 作業を用いた支援 ①</p> <p>第12回 作業を用いた支援 ②</p> <p>第13回 IADL・ADLへの支援</p> <p>第14回 物的・社会的環境への支援</p> <p>第15回 回想法、リアリティ・オリエンテーション、その他の支援方法</p>									
履修上の注意	<p>予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加すること。 グループディスカッションを多く取り入れるので、学びを深めること。</p>									
成績評価	<p>小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する</p>									
テキスト	<p>資料配付する。</p>									
	<p>参考図書、その他</p> <p>宮口英樹・監修 小川真寛、他・編集認知症をもつ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― メジカルビュー社 「ム・ヤツトソツト&キヤスリオン・ノリアイノ者 認知症の介護のために知っておきたい大切なこと パーソンセンタードケア入門 高橋誠一 監訳 吉田真理子訳 筒井書房</p>									

講義名	レクリエーション活動演習									
講師名	巽 絵理			(実務経験者)						
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	<p>授業目標は、レクリエーションの対象・効果を理解し、病状の軽減や活動量の増加を目指す内容、すなわちリハビリテーションに通じるように用いる技術を体得することである。レクリエーションの種類、内容の紹介から始まり、対象者に応じて実施できるよう演習する。</p>									
授業計画	<p>第1回 レクリエーションの基本理念</p> <p>第2回 治療的レクリエーションの技法</p> <p>第3回 種目別レクリエーション活動(1) 講義：遊戯・ゲーム</p> <p>第4回 種目別レクリエーション活動(2) 演習：遊戯・ゲーム</p> <p>第5回 種目別レクリエーション活動(3) 講義：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など</p> <p>第6回 種目別レクリエーション活動(4) 演習：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など</p> <p>第7回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(1) 講義：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など</p> <p>第8回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(2) 演習：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など</p> <p>第9回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(3) 講義：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など</p> <p>第10回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(4) 演習：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など</p> <p>第11回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(5) 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など</p> <p>第12回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動(6) 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など</p> <p>第13回 施設別にみた治療的レクリエーション活動(1) 保健センター・病院など</p> <p>第14回 施設別にみた治療的レクリエーション活動(2) 介護保険施設・サービスなど</p> <p>第15回 施設別にみた治療的レクリエーション活動(3) 障害児(者)施設など</p>									
履修上の注意	<p>予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加すること。 グループでの発表や演習もあるので、意見交換をしっかりと行い学びを深めること。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>中村春基・他 レクリエーション【改訂第2版】社会参加を促す治療的レクリエーション</p>									

講義名	地域作業療法学Ⅰ									
講師名	湯川 喜裕					(実務経験者)				
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>①地域リハビリテーションの概念と歴史を理解する、②地域作業療法に必要な様々な社会保障制度を理解する、③地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する、④地域作業療法に必要な疾患の知識、評価・介入の技術およびリスク管理を理解することである。</p> <p>授業内容は、地域作業療法に必要な訪問リハビリテーション、住宅改修の方法と制度、予防的施策とリハビリテーション職種の介入、ケアマネジメントについて講義を行う。</p>									
授業計画	<p>第1回 地域リハビリテーションとは</p> <p>第2回 地域作業療法とは</p> <p>第3回 社会保障制度</p> <p>第4回 介護保険制度における作業療法</p> <p>第5回 障害者総合支援法における作業療法</p> <p>第6回 教育・企業における作業療法</p> <p>第7回 社会生活支援を学ぶ</p> <p>第8回 居住環境改善について理解する</p> <p>第9回 居住環境改善方法について理解する</p> <p>第10回 居住環境改善方法の事例検討する</p> <p>第11回 生活行為向上マネジメント（MTDLP）を学ぶ</p> <p>第12回 MTDLPの実践例から学ぶ</p> <p>第13回 MTDLPを理解する</p> <p>第14回 MTDLPを用いて、評価を行う</p> <p>第15回 MTDLPの評価から支援計画を立案する</p>									
履修上の注意	<p>社会保障制度に関して、講義前に法制度の概要や作業療法に関する部分を読み概要を理解しておくこと。生活行為向上マネジメントに関する情報は、日本作業療法士協会のHPを閲覧し、その概要について事前に理解を深めて置くこと。</p>									
成績評価	<p>社会保障制度に関する内容において、試験を実施し、50%で評価する。生活行為向上マネジメントに関する事例検討の内容を50%で評価する。</p>									
テキスト	標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院					標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院				
	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 医歯薬出版株式会社					作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント 一般社団法人日本作業療法士協会				

講義名	地域作業療法学Ⅱ				
講師名	湯川 喜裕	(実務経験者)			
学年	3年	学期	前期	時間	30時間
				必修	1単位
講義目標	<p>地域活動実践者による講義を通して、身体障害者,精神障害者,発達障害者および老年期障害者に対する多様な地域活動の実際と作業療法(士)の役割を学ぶことである。 授業内容は、地域の様々な領域を総合的に学習し、地域における作業療法の理解を進めることである。</p>				
授業計画	<p>第1回 地域作業療法の実践の場を知る</p> <p>第2回 地域作業療法の実践例 身障領域</p> <p>第3回 地域作業療法実践者の活動 1 (精神障害領域)</p> <p>第4回 地域作業療法の実践例 精神障害領域</p> <p>第5回 地域作業療法実践者の活動 2 (高齢期障害領域)</p> <p>第6回 地域作業療法の実践例 高齢期障害領域</p> <p>第7回 地域作業療法実践者の活動 3 (訪問作業療法領域)</p> <p>第8回 地域作業療法の実践例 訪問作業療法領域</p> <p>第9回 地域作業療法実践者の活動 4 (就労支援領域)</p> <p>第10回 地域作業療法の実践例 就労支援領域</p> <p>第11回 地域作業療法実践者の活動 5 (発達障害領域)</p> <p>第12回 地域作業療法の実践例 発達障害領域</p> <p>第13回 地域での課題を検討する</p> <p>第14回 地域での課題を解決する方略の検討</p> <p>第15回 地域での課題を解決する方略の実現の検討</p>				
履修上の注意	<p>地域で活躍している作業療法士から地域で活動する際の課題等を学ぶ機会を作っている。地域作業療法学で学んだ、基盤となる法制度や施設に関する情報を事前に確認しておくこと。 講義で学んだ内容についての記載およびその内容に関するディスカッションを行う。</p>				
成績評価	<p>課題における遂行状況を50%で評価する。課題の提出およびその内容についてを50%で判定する。</p>				
テキスト	<p>標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院</p> <p>地域リハビリテーション論 Ver.7 三輪書店</p> <p>標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院</p>				

講義名	地域作業療法学実習									
講師名	湯川 喜裕					(実務経験者)				
学年	3	年	学期	後期	時間	60	時間	必修	2	単位

講義目標

授業目標は、地域活動実践者による講義を通して、身体障害者、精神障害者、発達障害者および老年期障害者に対する多様な地域活動の実際と作業療法(士)の役割を学ぶことである。授業内容は、地域の様々な領域を総合的に学習し、地域における作業療法の理解を進めることである。

授業計画

第1回	地域作業療法の実践 (精神障害者の地域移行支援)	(1回2時間、1~15回迄同様)
第2回	地域作業療法の実践 (障害者の就労支援施設等の施設見学準備)	
第3回	} 地域作業療法の実践 (障害者の就労支援施設等の施設見学)	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回	地域作業療法の実践 (障害者の就労支援施設等の施設見学発表)	
第8回	地域作業療法の実践 (障害高齢者の地域移行支援)	
第9回	地域作業療法の実践 (介護実習普及センターの施設見学準備)	
第10回	} 地域作業療法の実践 (介護実習普及センターの施設見学)	
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	地域作業療法の実践 (介護実習普及センターの施設見学発表)	
第15回	まとめ	

履修上の注意

職業リハビリテーションを実現していくための法制度や社会資源、障害を持つ人々に対する具体的なアセスメントや援助など作業療法の機能と役割について教授する。本科目は地域志向科目となる。

成績評価

受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する

テキスト

地域リハビリテーション原論 太田仁史 医歯薬出版株式会社

参考図書、その他

講義名	作業療法見学実習									
講師名	長辻永喜 幸福秀和 巽 絵理 大松慶子 川雅弘 井口知也 小島徹也 湯川喜裕 (全員実務経験者)									
学年	1	年	学期	前期	時間	45	時間	必修	1	単位
講義目標	医療人としての接遇・態度を身につけること、そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、作業療法における施設特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法過程と対象者の関わり方を見学する。また、その施設の関連職種の業務や患者・利用者への関わり方の違いやチームアプローチについて理解する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。									
授業計画	<p>1日目 オリエンテーション（実習目的と実習内容）</p> <p>2日目 実習病院及び作業療法場面を見学し、指導者より作業療法士の役割について説明を受ける</p> <p>3日目 作業療法場面を見学し、指導者より作業療法士の専門性について説明を受ける</p> <p>4日目 作業療法場面を見学し、指導者より代表的な対象疾患及び障害像について説明を受ける</p> <p>5日目 実習まとめ</p>									
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること									
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S、A、B、C、D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書実習、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。									
テキスト	なし									
	参考図書、その他 OT臨地実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社									

講義名	作業療法体験実習
講師名	長辻永喜 幸福秀和 巽 絵理 大松慶子 川雅弘 井口知也 小島徹也 湯川喜裕 (全員実務経験者)
学年	2 年 学期 前期 時間 135 時間 必修 2 単位
講義目標	学内外で学んだ内容を活かし、臨床実習指導者の指導の下で、見学と対象者との会話等においての体験を行う。また、チームの一員として問診、授業で履修している作業療法評価を共同参加により作業療法過程を体験する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う(1単位)。
授業計画	1 週目 オリエンテーションや見学を通して作業療法士像の一部を把握できる。 2 週目 臨床実習指導者のもと作業療法士像を把握できる。 3 週目 臨床実習指導者のもと作業療法士像を把握できる。
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること。
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定(S,A,B,C,D)は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書実習、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。
テキスト	参考図書、その他 OT臨地実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社

講義名	作業療法評価実習
講師名	長辻永喜 幸福秀和 巽 絵理 大松慶子 川雅弘 井口知也 小島徹也 湯川喜裕 (全員実務経験者)
学年	3 年 学期 前期 時間 180 時間 必修 4 単位
講義目標	学内で学んだ各種作業療法評価とその考え方をベースにし、臨床での作業療法評価の体験を通して、作業療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的な教示を提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。
授業計画	<p>1 週目 オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。</p> <p>3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した作業療法評価を抽出できる。</p> <p>4 週目 臨床実習指導者のもと作業療法評価の一部を実施する。</p> <p>5 週目 臨床実習指導者のもと作業療法評価の一部を実施する。</p>
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること。
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定 (S,A,B,C,D) は原則、本学がおこなう。 成績判定の資料として本学の評定表に加え、実習前OSCE、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。
テキスト	参考図書、その他 なし OT臨地実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社

講義名	作業療法総合臨床実習		
講師名	長辻永喜 幸福秀和 巽 絵理 大松慶子 川雅弘 井口知也 小島徹也 湯川喜裕 (全員実務経験者)		
学年	4年	学期	前期
時間	720	時間	必修
単位	16		
講義目標	8週間の臨床実習施設2か所での作業療法支援の体験を通して、作業療法の臨床患者過程と実践方法を診療チームの一員として学び、作業療法評価の実施技能及び作業療法支援を検討できる。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。		
授業計画	<p>実習前 OSCEから作業療法の評価技能及び作業療法支援の検討状況を確認する</p> <p>1週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>2週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>3週目 臨床実習指導者と一緒に作業療法評価を実施できる</p> <p>4週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法の立案を一部実施できる</p> <p>5週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法を実施できる</p> <p>6週目 臨床実習指導者のもとと基本的作業療法の立案を実施できる</p> <p>7週目 臨床実習指導者のもとと基本的作業療法の一部を実施できる</p> <p>8週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的作業療法が実施できる。</p> <p>9週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。</p> <p>10週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。</p> <p>11週目 臨床実習指導者と一緒に作業療法評価を実施できる</p> <p>12週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法の立案を一部実施できる</p> <p>13週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法を実施できる</p> <p>14週目 臨床実習指導者のもとと基本的作業療法の立案を実施できる</p> <p>15週目 臨床実習指導者のもとと基本的作業療法の一部を実施できる</p> <p>16週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的作業療法が実施できる。</p> <p>実習後 OSCEから作業療法の評価技能及び作業療法支援の検討状況を確認する</p>		
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもととチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること		
成績評価	実習前後に客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。臨床実習終了時、総合評価における成績判定(S,A,B,C,D)は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評価表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習前後のOSCEの結果、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。		
テキスト	なし		
	参考図書、その他 OT臨床実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社		

講義名	地域における健康支援を考える									
講師名	松井 有史									
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	健康寿命の延伸が社会的に問われる中で、地域における健康支援（健康維持・増進、疾病・介護予防）の取り組みは、和歌山市の一例として「チャレンジ健康わかやま」が掲げられている。また、介護予防では、総合事業として民間委託やボランティア活動も含めて実施されている。このような健康維持・増進、疾病予防、介護予防の活動の現状を調査し、実際にボランティア等として参加することも含めて体験する。その中で、その課題を発見し解決策を考案しレポートを作成する。									
授業計画	第1回	科目のオリエンテーション、健康支援学とは 演習のねらい								
	第2回	地域における健康維持・増進や介護予防の現状を調査する								
	第3回	上記のグループ発表								
	第4回	実地調査、体験・ボランティア活動を行う上での諸注意								
	第5回	グループ活動①								
	第6回	グループ活動②								
	第7回	グループ活動③								
	第8回	グループ活動④								
	第9回	グループ活動⑤								
	第10回	グループ活動⑥								
	第11回	グループ活動⑦								
	第12回	グループ活動⑧								
	第13回	グループ活動⑨								
	第14回	グループ発表①								
	第15回	グループ発表② 総評、まとめ								
履修上の注意	調査をしっかりと行うこと。グループ活動に積極的に参加すること。グループワークでは、他者の意見を傾聴し自分の意見をしっかりと発言して積極的なディスカッションが行えるようにすること。									
成績評価	グループ活動の評価(80%)、レポート(20%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	演習要項および必要な資料は適宜配布する。					健康支援学入門 北大路書房				

講義名	組織論
講師名	大泉 英次
学年	2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 2 単位
講義目標	経済学を通して組織における仕事の分担の仕方、協働の仕方を研究し、そのなかで管理の重要性を理解し、具体的方法について学修する。特に強制的な管理方法と配慮型の管理方法について理解を深め、現場における応用力を高める。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 組織デザイン</p> <p>第3回 組織の成長</p> <p>第4回 マクロ組織論の代表的理論</p> <p>第5回 組織文化</p> <p>第6回 ミクロ組織論の誕生と組織の力学</p> <p>第7回 意思決定論</p> <p>第8回 科学的管理法から人間関係論へ</p> <p>第9回 動機づけ理論</p> <p>第10回 マネジメント・コントロール</p> <p>第11回 リーダーシップ論</p> <p>第12回 コンフリクトマネジメント</p> <p>第13回 組織学習と組織変革</p> <p>第14回 人的資源管理</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>
履修上の注意	前回の講義内容について繰り返し視聴を行って復習する。以降の講義では、それまでの回に学習した内容は理解できているものとして進捗します。
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する
テキスト	参考図書、その他
随時配布	よくわかる組織論 ミネルヴァ書房

講義名	地域活性企業論
講師名	大泉 英次
学年	2 年
学期	後 期
時間	30 時間
必修	必修
単位	2 単位
講義目標	地域活性化で注目を集めた地域の取り組みと、そのなかで企業はどのようにして、その役割を果たしてきたかを検証する。地域の特性を十分理解したうえで、具体的な地域活性の道を探り、自治体と企業に提案していけるような人材の養成を行っていく。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 まち・ひと・しごと地方創生 第3回 観光立国と観光まちづくり 第4回 コミュニティデザインと観光まちづくり 第5回 食とまちづくり 第6回 スポーツとまちづくり 第7回 まち歩きとまちづくり 第8回 温泉とまちづくり 第9回 世界遺産とまちづくり 第10回 花とまちづくり 第11回 アートとまちづくり 第12回 暮らしびりとまちづくり 第13回 市民協働の観光まちづくり①（個別自治体） 第14回 市民協働の観光まちづくり②（複数自治体の連携） 第15回 講義の総括
履修上の注意	人間の街 ヤン・ゲール 北原理雄訳 鹿島出版会
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する
テキスト	参考図書、その他 新版地域マーケティングの核心 同友館

講義名	リーダーシップ論
講師名	京 雪楓
学年	2 年
学期	後 期
時間	30 時間
必修	必修
単位	2 単位
講義目標	<p>各々の領域において、関連分野の他職種と連携して問題解決や新たな課題に取り組んでいくために、リーダーシップを発揮する機会がある。リーダーシップは社会生活において身近なテーマでありながら、自ら行おうとすると複雑な人の心理や行動を科学することも必要な深遠な要素を含んでいる。リーダーシップはその時代状況や社会環境を反映し、変化と進化を続けてきた。過去から現在までのリーダーシップの変遷を整理しつつ、これから未来へ続く変化に対応できるリーダーシップについて、講義の他、常に自らの問題として捉える演習を行いながら学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション リーダーシップとは</p> <p>第2回 リーダーシップ理論①（特性理論）——リーダーに共通する特性は何か</p> <p>第3回 リーダーシップ理論②（行動理論）——リーダーの取るべき行動</p> <p>第4回 環境条件によって変化するリーダー像——条件適正理論</p> <p>第5回 リーダーとファロワーの関係に着目——交換・交流理論</p> <p>第6回 組織を変革するリーダーとは</p> <p>第7回 倫理観に基づくリーダーシップ理論</p> <p>第8回 リーダーシップと関連する組織行動① ——パワーと影響力、ファロワーシップ</p> <p>第9回 リーダーシップと関連する組織行動② ——ネットワーク、非常時のリーダーシップ</p> <p>第10回 リーダーシップの開発 ——リーダーの成長過程の研究、組織的取り組み、進化する開発</p> <p>第11回 リーダーシップを形成する①——ありたい姿を描く</p> <p>第12回 リーダーシップを形成する②——現状の自分を客観視する</p> <p>第13回 リーダーシップを形成する③——ギャップを埋める</p> <p>第14回 リーダーシップを発揮する ——目的・目標の明確化と共有、計画立案、実行・振り返り</p> <p>第15回 リーダーシップについてのまとめ</p>
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、演習など能動的に授業に参加するようにする。リーダーシップは、主体的に自己変革を通して形成されるので常に自己との対比をくりかえしながら授業内容に取り組むこと。</p>
成績評価	グループ活動の評価（40%）、レポート課題(60%)で判断する
テキスト	<p>グロービス経営大学院 編著 【新版】グロービスMBAリーダーシップ ダイヤモンド社 2014.</p>
参考図書、その他	授業中に紹介する

講義名	経営と会計									
講師名	大泉 英次									
学年	2	年	学期	前期	時間	30	時間	選択	2	単位
講義目標	<p>学習目標は経営者としての知識を身につけるべく、経営と会計の基礎を学ぶ。例を挙げると、決算書には経営者の考えや日々の行動が「数字」という形で反映される起業を目指している方、これから経営に携わる方向けに、ここでは「数字」を理解する上で必要な会計知識をご紹介します、中身を読み解き、銀行の担当者や投資家からの質問に答えられるように準備する。</p>									
授業計画	第1回	オリエンテーション（講義の目的と計画、内容、成績評価、教科書、その他）								
	第2回	記録と報告の会計（財務会計）とは？								
	第3回	ホテルやレストランの取引を複式簿記の仕組み（会計等式）で理解する								
	第4回	取引を報告する。会計等式から財務諸表への展開。								
	第5回	課題演習1：ホテルやレストランの取引を分解し、報告する								
	第6回	課題演習2：ホテルやレストランの取引を考える。								
	第7回	課題演習3：課題演習2の取引を分解し、報告する。								
	第8回	経営のための会計（管理会計）とは？								小テスト
	第9回	SWOT分析を理解する								
	第10回	SWOT分析の演習								
	第11回	戦略マップを理解する								
	第12回	戦略マップの演習								
	第13回	総合演習1（事例A）								
	第14回	総合演習2（事例B）								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	授業では、ノート作成および演習をエクセルを用いて行う。									
成績評価	①毎回小レポート(エクセルシート)の提出および評価(40%)、②小テスト(議論のまとめ)20%、③定期テスト(40%)の割合で総合的に評価する									
テキスト	参考図書、その他									
	プリントを配布する					ハンドブック経営学 [改訂版]				

講義名	医療経済論						
講師名	大泉 英次						
学年	2 年	学期	前期	時間	30 時間	選択	2 単位
講義目標	医療制度を扱う経済学の応用分野である。経済学の基礎をまなびながら、医薬品・医療保険など医療にかかわるさまざまなことを経済学的手法を用いて分析することを学修する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 医療と経済（日本） 第3回 医療と経済（世界） 第4回 日本の医療費 第5回 医療保険の理論 第6回 医療保険の運営と実際 第7回 保健医療の費用 第8回 医療経済評価 第9回 経済発展と国民の健康水準 第10回 医療技術の進歩と伝播 第11回 医療における価格・計画・競争・規制～衡平性 第12回 医療における価格・計画・競争・規制～政府の役割 第13回 所得分配と健康 第14回 議論 第15回 まとめ						
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。						
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する						
テキスト	参考図書、その他						
指定なし	医療経済学講義 補訂版 東京大学出版会						

講義名	支援ロボット論									
講師名	八木 栄一									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	2	単位
講義目標	<p>少子高齢社会に進む流れの中、誰にでも使いやすい生活支援技術が求められる。低侵襲性計測技術、ロボット技術による生活支援、健康支援工学の各分野における最先端の研究開発事例の工学的に解説を通じて、生活者と支援技術の関わりを理解する。</p>									
授業計画	<p>第1回 序論：生体計測における侵襲性とはなにか、低侵襲計測技術の重要性について学ぶ。</p> <p>第2回 低侵襲性計測技術～磁気による手法について学ぶ。</p> <p>第3回 低侵襲性計測技術～光による手法について学ぶ。</p> <p>第4回 低侵襲性計測技術～熱計測における低侵襲計測について学ぶ。</p> <p>第5回 低侵襲性計測技術～ビデオカメラを低侵襲計測事例について学ぶ。</p> <p>第6回 ロボット技術による生活支援～低侵襲性外科手術ロボットから課題点を考える。</p> <p>第7回 ロボット技術による生活支援～介護応用について学ぶ。</p> <p>第8回 ロボット技術による生活支援～リハビリテーション応用について学ぶ。</p> <p>第9回 ロボット技術による生活支援～コミュニケーション応用について学ぶ。</p> <p>第10回 健康支援工学～姿勢・歩行機能評価技術について学ぶ。</p> <p>第11回 健康支援工学～歩行機能向上の為に地域での介入の取組事例について学ぶ。</p> <p>第12回 健康支援工学～ウォーキングによる歩行機能向上の為に介入事例について学ぶ。</p> <p>第13回 健康支援工学～生活支援の為にスマートハウスについて学ぶ。</p> <p>第14回 健康支援工学～スマートハウスにおける健康支援について学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ～日常生活下での生体データ収集の重要性について学ぶ。</p>									
履修上の注意	<p>日頃からメディアの報道などをチェックする事。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p>									
	毎回配布する。					生活支援工学概論 コロナ社				

講義名	地方自治と生活									
講師名	久禮 義一									
学年	2	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	2	単位
講義目標	<p>本講義では、地方自治の法としくみを学ぶ。地方自治は近年、大きく変動してきた。地方自治の行方は、まちづくり、地域福祉、環境保全といった地域の具体的・現実的な課題として、私たちの日々の生活にも直接かかわってくる。地方自治・地方分権をめぐる近年の動向や今後の展望を、これからの地域に生きる自分自身の関心事として捉えてもらいたい。</p>									
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：自治とは何か？</p> <p>第2回 地方自治の歴史と展開</p> <p>第3回 中央地方関係と自治体</p> <p>第4回 地方分権改革の意義と到達点</p> <p>第5回 地方政府の種類と機能</p> <p>第6回 広域行政と市町村合併</p> <p>第7回 自治体の政治機構と議会改革</p> <p>第8回 自治体の行政機構と行政改革</p> <p>第9回 自治体の政策過程</p> <p>第10回 住民参加と協働</p> <p>第11回 コミュニティと地域内分権</p> <p>第12回 地方自治とまちづくり</p> <p>第13回 地方自治と地域福祉</p> <p>第14回 地方自治と防災・危機管理</p> <p>第15回 まとめ</p>									
履修上の注意	<p>授業の予習として、講義内容や自治体の政治・行政に関するトピックスについて、新聞、ニュース、インターネットなどを利用して自発的に情報を収集する。</p> <p>授業中に重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、積極的に教員に質問する。</p>									
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>									
テキスト	<p>参考図書、その他</p>									
随時配布する	<p>図解 よくわかる地方自治のしくみ 第5次改訂版 学陽書房</p>									

講義名	生涯スポーツ論									
講師名	河西 紀秀									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	選択	2	単位
講義目標	生涯にわたるスポーツをテーマとしてとらえ、子供から高齢者までの人生プラン的視点から授業を行う。現代の社会・生活構造の変化を踏まえて多様化するスポーツの諸相について概説する。主として生涯スポーツの観点から、地域スポーツ、ニュースポーツの創造、総合型地域スポーツクラブ、スポーツと環境問題、グローバル世界とスポーツについて取り上げ基礎的に理解を深める。									
授業計画	第1回	ガイダンスと生涯スポーツ概論								
	第2回	理論（健康・体力づくりと運動、運動種目・内容、運動の質と量、安全管理など）								
	第3回	実技・演習（歩く・オリエンテーリングの理論と実際）								
	第4回	実技（オリエンテーリング大会）								
	第5回	演習・研究（研究発表テーマの設定、研究の方法、グループ活動）								
	第6回	実技・演習（体操の目的、構成、種類、実施方法）								
	第7回	実技・発表（体操創作、体操創作の基本、創作、創作発表）								
	第8回	演習（企画書の作成）								
	第9回	演習（グループ別に、テーマ設定し、企画書を作成・発表）								
	第10回	自主作成プログラム①（Aグループ主催）								
	第11回	自主作成プログラム②（Bグループ主催）								
	第12回	自主作成プログラム③（Cグループ主催）								
	第13回	自主作成プログラム④（Dグループ主催）								
	第14回	自主作成プログラム⑤（Eグループ主催）								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	実技を伴う講義では運動可能な服装を準備すること。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	プリントを配布する					生涯スポーツの理論と実際 改訂版 大修館書店				

講義名	医用・福祉工学論
講師名	八木 栄一
学年	3 年
学期	前期
時間	30 時間
選択	2 単位
講義目標	医用・福祉システムの実用化のためのシステム論、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術が必要不可欠であることを理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 生体への工学的アプローチ1：基礎 第3回 生体への工学的アプローチ2：実践 第4回 移植医療と福祉機器 第5回 研究と医の倫理1：歴史 第6回 研究と医の倫理2：ヘルシンキ宣言 第7回 障害者・高齢者の科学1：各種定義 第8回 障害者・高齢者の科学2：実践 第9回 工学の医療分野への応用 第10回 福祉機器の分類・規格・信頼性 第11回 移動機器 第12回 コミュニケーション機器 第13回 聴覚補償機器 第14回 住宅環境 第15回 障害者・高齢者スポーツ
履修上の注意	遅刻は、他の受講者の大迷惑となるので、理由の如何を問わず一切認めない。授業中に携帯電話などで他の受講者に迷惑をかけたと考えられる場合には退室させることがある。
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考図書、その他	福祉工学への招待 ヒトの潜在能力を生かすモノづくり ミネルヴァ書房

講義名	発達障害児・者の現状と課題									
講師名	幸福 秀和									
学年	3	年	学期	前期	時間	30	時間	選択	2	単位
講義目標	<p>「気になる子ども」や「発達障害児・者」の家庭、保育、教育、就労の現場において「特別な支援」や「配慮」について課題となっている。発達障害は2005年に発達障害者支援法で定義され、知的な遅れの有無や、その他の部分で重篤な困難さをもっている場合もあり、その障害の程度も様々である。そのため、施策が講じられてはいるが、充分に対応できているとは言いがたい。関連領域、例えば家庭、保育、教育、就労の現場において発達障害児・者のおかれている現状を調査し、その課題と解決策を考案しレポートを作成する。</p>									
授業計画	第1回	科目のオリエンテーション、発達障害・者とは 演習のねらい								
	第2回	地域において発達障害児・者のおかれている現状を調査する								
	第3回	上記のグループ発表								
	第4回	実地調査、体験・ボランティア活動を行う上での諸注意								
	第5回	グループ活動①								
	第6回	グループ活動②								
	第7回	グループ活動③								
	第8回	グループ活動④								
	第9回	グループ活動⑤								
	第10回	グループ活動⑥								
	第11回	グループ活動⑦								
	第12回	グループ活動⑧								
	第13回	グループ活動⑨								
	第14回	グループ発表①								
	第15回	グループ発表② 総評、まとめ								
履修上の注意	<p>調査をしっかりと行うこと。グループ活動に積極的に参加すること。グループワークでは、他者の意見を傾聴し自分の意見をしっかりと発言して積極的なディスカッションが行えるようにすること。</p>									
成績評価	<p>グループ活動の評価(80%)、レポート(20%)で判断する</p>									
テキスト	<p>演習要項および必要な資料は適宜配布する。</p>									
	<p>参考図書、その他 発達障害の「本当の理解」とは 市川 宏伸 編著、金子書房 その他、授業中に紹介する。</p>									

講義名	アンチエイジング						
講師名	渡邊 和子						
学年	3 年	学期	後 期	時間	30 時間	選択	2 単位
講義目標	世界有数の長寿国の日本は、余命だけでなく健康寿命が価値をもつ意味が大きく取り上げられる。本講義では加齢に伴う自らの身体の変化を理解するとともに他者の加齢変化に対する理解も重要となっている。そこで身体内部のミクロレベルの変化、地域、国レベルで見る環境を理解しながら、自ら積極的に健康を維持するために方策についての理解を深めることを目的とする。						
授業計画	第1回	アンチエイジングとは					
	第2回	生理学から見たアンチエイジング					
	第3回	ミクロレベルの変化					
	第4回	加齢による身体の変化					
	第5回	老化のメカニズム					
	第6回	日本人高齢者の健康問題					
	第7回	介護予防					
	第8回	健康寿命と介護予防					
	第9回	アンチエイジングとエビデンス					
	第10回	アンチエイジングと生活習慣					
	第11回	アンチエイジングと食事・栄養					
	第12回	アンチエイジングと身体活動					
	第13回	アンチエイジング 本邦の取り組み					
	第14回	アンチエイジング 世界の取り組み					
	第15回	まとめ					
履修上の注意	講義形式をとる。資料を毎回、配布し、それにもとづいて授業を進める。						
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する						
テキスト	参考図書、その他						
特になし	『のばそう健康寿命』岩波書店						

講義名	専門職連携総合演習A
講師名	松永 秀俊/吉崎 邦夫/長辻 永喜 /大松 慶子
学年	4 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、急性期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職連携・チーム医療について</p> <p>第2回 各専門職と倫理、チームにおけるコミュニケーション</p> <p>第3回 チーム分け、症例①情報共有（整形疾患患者）</p> <p>第4回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第5回 グループディスカッション① 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第6回 グループディスカッション② 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第7回 グループディスカッション③ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第8回 症例①の全体発表</p> <p>第9回 チーム分け、症例②情報共有（中枢神経疾患患者）</p> <p>第10回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第11回 グループディスカッション④ 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第12回 グループディスカッション⑤ 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第13回 グループディスカッション⑥ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第14回 症例②の全体発表</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	各専門職の特性を理解し、チームで働くことを意識して学ぶこと。 グループディスカッションが多い授業になるので、能動的に授業に参加すること。
成績評価	グループ発表およびグループ活動の振り返りシートにより判定する 症例①発表(30点)、症例①振り返りシート(20点)、症例②発表(30点)、症例②振り返りシート(20点)
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>水本清久ほか編著インタープロフェSSIONナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 医歯薬出版</p>

講義名	専門職連携総合演習B
講師名	長辻 永喜/松井 有史/川 雅弘/福井 直樹
学年	4 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、回復期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職連携・チーム医療について</p> <p>第2回 各専門職と倫理、チームにおけるコミュニケーション</p> <p>第3回 チーム分け、症例①情報共有（整形疾患患者）</p> <p>第4回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第5回 グループディスカッション① 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第6回 グループディスカッション② 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第7回 グループディスカッション③ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第8回 症例①の全体発表</p> <p>第9回 チーム分け、症例②情報共有（中枢神経疾患患者）</p> <p>第10回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第11回 グループディスカッション④ 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第12回 グループディスカッション⑤ 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第13回 グループディスカッション⑥ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第14回 症例②の全体発表</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	各専門職の特性を理解し、チームで働くことを意識して学ぶこと。 グループディスカッションが多い授業になるので、能動的に授業に参加すること。
成績評価	グループ発表およびグループ活動の振り返りシートにより判定する 症例①発表(30点)、症例①振り返りシート(20点)、症例②発表(30点)、症例②振り返りシート(20点)
テキスト	参考図書、その他 水本清久ほか編著インタープロフェSSIONナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 医歯薬出版

講義名	専門職連携総合演習C
講師名	鍵井 一浩/幸福 秀和/栗川 幹雄/井口 知也
学年	4 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、生活期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職連携・チーム医療について</p> <p>第2回 各専門職と倫理、チームにおけるコミュニケーション</p> <p>第3回 チーム分け、症例①情報共有（整形疾患患者）</p> <p>第4回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第5回 グループディスカッション① 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第6回 グループディスカッション② 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第7回 グループディスカッション③ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第8回 症例①の全体発表</p> <p>第9回 チーム分け、症例②情報共有（中枢神経疾患患者）</p> <p>第10回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第11回 グループディスカッション④ 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第12回 グループディスカッション⑤ 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第13回 グループディスカッション⑥ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第14回 症例②の全体発表</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	各専門職の特性を理解し、チームで働くことを意識して学ぶこと。 グループディスカッションが多い授業になるので、能動的に授業に参加すること。
成績評価	グループ発表およびグループ活動の振り返りシートにより判定する 症例①発表(30点)、症例①振り返りシート(20点)、症例②発表(30点)、症例②振り返りシート(20点)
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>水本清久ほか編著インタープロフェSSIONナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 医歯薬出版</p>

講義名	応用理学療法演習Ⅰ				
講師名	松永 秀俊/栗川 幹雄/河西 紀秀/福井 直樹				
学年	3年	学期	後期	時間	30時間 必修 1単位
講義目標	<p>今までに培った専門性の総まとめとして、授業目標は、仮定の理学療法評価結果をもとに問題点の抽出、治療プログラムの立案を行えるようにする。授業内容はグループでの課題に対し、発表を行い比較検討する。その際に文献検索を行い根拠のある治療方法を検討することにより、より良い治療法の立案を目指す。</p>				
授業計画	<p>第1回 コースガイダンス</p> <p>第2回 高齢者を取り巻く社会状況・介護保険制度（創設の目的）</p> <p>第3回 高齢者を取り巻く社会状況・介護保険制度（運用開始から現代へ）</p> <p>第4回 高齢者の心身の特性（身体的特性）</p> <p>第5回 高齢者の心身の特性（精神的特性）</p> <p>第6回 高齢者のリハビリテーションについて（病院・施設）</p> <p>第7回 高齢者のリハビリテーションについて（地域・在宅）</p> <p>第8回 高齢者に多い疾患とその理学療法（局所疾患）</p> <p>第9回 高齢者に多い疾患とその理学療法（全身疾患）</p> <p>第10回 高齢者施設と理学療法（介護老人保健施設）</p> <p>第11回 高齢者施設と理学療法（サービス付き高齢者向け住宅）</p> <p>第12回 通所リハビリテーション</p> <p>第13回 訪問理学療法</p> <p>第14回 介護予防</p> <p>第15回 まとめ</p>				
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。</p>				
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>				
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>福祉住環境コーディネーター2級検定試験公式テキスト 東京商工会議所</p>				

講義名	応用理学療法演習Ⅱ				
講師名	吉崎 邦夫/松井 有史/河西 紀秀/福井 直樹				
学年	3年	学期	後期	時間	30時間 必修 1単位
講義目標	<p>今までに培った専門性の総まとめとして、授業目標は、仮定の理学療法評価結果をもとに治療プログラムの立案、実施を行えるようにする。授業内容はグループでの課題に対し、発表を行い比較検討する。その際に文献検索を行い根拠のある治療方法かを検討することにより、より良い治療法の立案を目指す。</p>				
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、①症例（中枢神経疾患）提示、情報収集</p> <p>第2回 ①症例に対するプログラム立案（グループディスカッション）</p> <p>第3回 ①症例の理学療法プログラムについて各グループの発表と質疑応答と検討</p> <p>第4回 ②症例（下肢の整形疾患）提示、情報収集</p> <p>第5回 ②症例に対するプログラム立案（グループディスカッション）</p> <p>第6回 ②症例の理学療法プログラムについて各グループの発表と質疑応答と検討</p> <p>第7回 ③症例（スポーツ障害）提示、情報収集</p> <p>第8回 ③症例に対するプログラム立案（グループディスカッション）</p> <p>第9回 ③症例の理学療法プログラムについて各グループの発表と質疑応答と検討</p> <p>第10回 ④症例（内部障害）提示、情報収集</p> <p>第11回 ④症例に対するプログラム立案（グループディスカッション）</p> <p>第12回 ④症例の理学療法プログラムについて各グループの発表と質疑応答と検討</p> <p>第13回 ⑤症例（腰痛症）提示、情報収集</p> <p>第14回 ⑤症例に対するプログラム立案グループディスカッション）</p> <p>第15回 ⑤症例の理学療法プログラムについて各グループの発表と質疑応答と検討</p>				
履修上の注意	<p>予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加すること。 グループディスカッションを行いうので、積極的に参加すること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。</p>				
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する</p>				
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>理学療法ハンドブック改訂第4版 協同医書出版</p>				

講義名	理学療法総合演習		
講師名	松永 秀俊／鍵井 一浩／松井 有史／河西 紀秀／福井 直樹		
学年	4 年	学期	前・後期
時間	60 時間	必修	2 単位
講義目標	<p>学内で学んだ基礎医学・臨床医学・理学療法学の各分野について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習を通じて理解を深める。到達目標は、基礎医学・臨床医学・理学療法学の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行し、理学療法士として必要な基礎的知識と実地問題を用いて技術等の再確認を行い、要求される以上のレベルに到達すること。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、国家試験の傾向と学習方法（学習の意図、進め方）</p> <p>第2回 運動器領域の臨床医学・理学療法に関する学習①</p> <p>第3回 運動器領域の臨床医学・理学療法に関する学習②</p> <p>第4回 運動器領域に関する復習・まとめ</p> <p>第5回 神経系領域の臨床医学・理学療法に関する学習①</p> <p>第6回 神経系領域の臨床医学・理学療法に関する学習②</p> <p>第7回 神経系領域に関する復習・まとめ</p> <p>第8回 呼吸器領域の臨床医学・理学療法に関する学習</p> <p>第9回 呼吸器領域に関する復習・まとめ</p> <p>第10回 循環器領域の臨床医学・理学療法に関する学習</p> <p>第11回 循環器領域に関する復習・まとめ</p> <p>第12回 小児発達系領域の臨床医学・理学療法に関する学習</p> <p>第13回 小児発達系領域に関する復習・まとめ</p> <p>第14回 内部障害領域の臨床医学・理学療法に関する学習</p> <p>第15回 内部障害領域に関する復習・まとめ</p>		
履修上の注意	<p>問題の解説、資料の収集、論理の展開の仕方、自分なりの考えをもち、それを裏付ける方法などについて、学習していくことが要求される。</p>		
成績評価	<p>複数回実施する確認テスト合計点で判断する。</p>		
テキスト	<p>理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント （専門基礎分野 基礎医学、専門基礎分野 臨床医学、基礎 PT 学、障害別 PT 治療学） 医歯薬出版</p>		
参考図書、その他	<p>その都度紹介する</p>		

講義名	理学療法総合演習									
講師名	松永 秀俊／鍵井 一浩／松井 有史／河西 紀秀／福井 直樹									
学年	4	年	学期	前・後期	時間	60	時間	必修	2	単位
講義目標	<p>学内で学んだ基礎医学・臨床医学・理学療法学の各分野について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習を通じて理解を深める。到達目標は、基礎医学・臨床医学・理学療法学の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行し、理学療法士として必要な基礎的知識と実地問題を用いて技術等の再確認を行い、要求される以上のレベルに到達すること。</p>									
授業計画	<p>第16回 基礎医学：解剖学①</p> <p>第17回 基礎医学：解剖学②</p> <p>第18回 基礎医学：生理学①</p> <p>第19回 基礎医学：生理学②</p> <p>第20回 基礎医学：運動学①</p> <p>第21回 基礎医学：運動学②</p> <p>第22回 臨床医学：脳血管・神経筋障害①</p> <p>第23回 臨床医学：脳血管・神経筋障害②</p> <p>第24回 臨床医学：呼吸・循環・代謝障害①</p> <p>第25回 臨床医学：呼吸・循環・代謝障害②</p> <p>第26回 臨床医学：骨関節障害①</p> <p>第27回 臨床医学：骨関節障害②</p> <p>第28回 臨床医学：小児</p> <p>第29回 臨床医学：精神医学</p> <p>第30回 臨床医学：その他の領域</p>									
履修上の注意	<p>問題の解説、資料の収集、論理の展開の仕方、自分なりの考えをもち、それを裏付ける方法などについて、学習していくことが要求される。</p>									
成績評価	<p>複数回実施する確認テスト合計点で判断する。</p>									
テキスト	<p>理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント （専門基礎分野 基礎医学，専門基礎分野 臨床医学，基礎 PT 学，障害別 PT 治療学） 医歯薬出版</p>									
参考図書，その他	<p>その都度紹介する</p>									

講義名	専門職連携総合演習A
講師名	松永 秀俊/吉崎 邦夫/長辻 永喜 /大松 慶子
学年	4 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、急性期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職連携・チーム医療について</p> <p>第2回 各専門職と倫理、チームにおけるコミュニケーション</p> <p>第3回 チーム分け、症例①情報共有（整形疾患患者）</p> <p>第4回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第5回 グループディスカッション① 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第6回 グループディスカッション② 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第7回 グループディスカッション③ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第8回 症例①の全体発表</p> <p>第9回 チーム分け、症例②情報共有（中枢神経疾患患者）</p> <p>第10回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第11回 グループディスカッション④ 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第12回 グループディスカッション⑤ 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第13回 グループディスカッション⑥ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第14回 症例②の全体発表</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	各専門職の特性を理解し、チームで働くことを意識して学ぶこと。 グループディスカッションが多い授業になるので能動的に授業に参加すること。
成績評価	グループ発表およびグループ活動の振り返りシートにより判定する 症例①発表(30点)、症例①振り返りシート(20点)、症例②発表(30点)、症例②振り返りシート(20点)
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>水本清久ほか編著インタープロフェSSIONナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 医歯薬出版</p>

講義名	専門職連携総合演習B
講師名	長辻 永喜/松井 有史/川 雅弘 /福井 直樹
学年	4 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、回復期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職連携・チーム医療について</p> <p>第2回 各専門職と倫理、チームにおけるコミュニケーション</p> <p>第3回 チーム分け、症例①情報共有（整形疾患患者）</p> <p>第4回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第5回 グループディスカッション① 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第6回 グループディスカッション② 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第7回 グループディスカッション③ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第8回 症例①の全体発表</p> <p>第9回 チーム分け、症例②情報共有（中枢神経疾患患者）</p> <p>第10回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第11回 グループディスカッション④ 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第12回 グループディスカッション⑤ 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第13回 グループディスカッション⑥ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第14回 症例②の全体発表</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	各専門職の特性を理解し、チームで働くことを意識して学ぶこと。 グループディスカッションが多い授業になるので、能動的に授業に参加すること。
成績評価	グループ発表およびグループ活動の振り返りシートにより判定する 症例①発表(30点)、症例①振り返りシート(20点)、症例②発表(30点)、症例②振り返りシート(20点)
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>水本清久ほか編著インタープロフェSSIONナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 医歯薬出版</p>

講義名	専門職連携総合演習C
講師名	鍵井 一浩/幸福 秀和/栗川 幹雄/井口 知也
学年	4 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、生活期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職連携・チーム医療について</p> <p>第2回 各専門職と倫理、チームにおけるコミュニケーション</p> <p>第3回 チーム分け、症例①情報共有（整形疾患患者）</p> <p>第4回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第5回 グループディスカッション① 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第6回 グループディスカッション② 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第7回 グループディスカッション③ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第8回 症例①の全体発表</p> <p>第9回 チーム分け、症例②情報共有（中枢神経疾患患者）</p> <p>第10回 専門職別グループで情報整理</p> <p>第11回 グループディスカッション④ 対象者・家族や周囲の環境について総合的な視点で理解する</p> <p>第12回 グループディスカッション⑤ 問題点の把握とニーズの抽出</p> <p>第13回 グループディスカッション⑥ 各職種の特性を生かしたプログラム立案</p> <p>第14回 症例②の全体発表</p> <p>第15回 総括</p>
履修上の注意	各専門職の特性を理解し、チームで働くことを意識して学ぶこと。 グループディスカッションが多い授業になるので能動的に授業に参加すること。
成績評価	グループ発表およびグループ活動の振り返りシートにより判定する 症例①発表(30点)、症例①振り返りシート(20点)、症例②発表(30点)、症例②振り返りシート(20点)
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>水本清久ほか編著インタープロフェSSIONナル・ヘルスケア 実践チーム医療論 医歯薬出版</p>

講義名	応用作業療法演習Ⅰ									
講師名	幸福 秀和/長辻 永喜/川 雅弘/井口 知也									
学年	3	年	学期	後期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	<p>総まとめとして、高齢者の地域生活支援を学修する。老年期地域健康増進活動における作業療法の立場からみた支援の実際について理解を深める。健康増進事業施設の見学、身体能力測定の見学などを通して、高齢者の生活不活発病の背景や、チームアプローチによる解決手法を知り、作業療法士として必要なアセスメント能力と、生活の場において課題解決の視点と技法について学修する。</p>									
授業計画	<p>第1回 地域における課題1（医療）</p> <p>第2回 地域における課題1（介護）</p> <p>第3回 地域における課題2（前期高齢者）</p> <p>第4回 地域における課題2（後期高齢者）</p> <p>第5回 地域における課題3（コミュニティー（近隣の））</p> <p>第6回 地域における課題3（コミュニティー）</p> <p>第7回 地域における課題4（結婚・出産）</p> <p>第8回 地域における課題4（出産・育児）</p> <p>第9回 地域における課題5（雇用先）</p> <p>第10回 地域における課題5（雇用形態）</p> <p>第11回 地域における課題を正しくとらえるために必要な事（フォーマル）</p> <p>第12回 地域における課題を正しくとらえるために必要な事（インフォーマル）</p> <p>第13回 地域の課題を解決していく方法1（インクルーシブデザインとは）</p> <p>第14回 地域の課題を解決していく方法1（インクルーシブデザインの方法）</p> <p>第15回 地域の課題を解決していく方法2（参加型開発）</p>									
履修上の注意	事前及び授業中に配布した資料や新聞などを読み地域における様々な課題について理解すること。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(40%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
	筧 祐介著「地域を変えるデザイン」英治出版									

講義名	応用作業療法演習Ⅱ							
講師名	幸福 秀和/長辻 永喜/川 雅弘/井口 知也							
学年	3	年	学期	後 期	時間	30 時間	必修	1 単位
講義目標	<p>総まとめとして、障害者の地域生活支援を学修する。障害者における作業療法の立場からみた支援の実際について理解を深める。作業療法評価から治療プログラムの立案の課程を再確認し生活に結び付けるための学習を行う。作業療法士として必要な評価能力と、治療学を用いた課題解決の視点と技法について学修する。</p>							
授業計画	<p>第1回 地域の課題を解決していく方法2 (慈善型から参加型開発へ)</p> <p>第2回 地域における課題解決事例1 (医療)</p> <p>第3回 地域における課題解決事例2 (介護)</p> <p>第4回 地域における課題解決事例3 (高齢化)</p> <p>第5回 地域における課題解決事例4 (コミュニティ)</p> <p>第6回 地域における課題解決事例5 (一般雇用)</p> <p>第7回 地域における課題解決事例6 (福祉雇用)</p> <p>第8回 地域における課題解決演習1 (課題理解)</p> <p>第9回 地域における課題解決演習2 (課題解決)</p> <p>第10回 ケア会議の実際</p> <p>第11回 ケア会議の実際 (模擬練習)</p> <p>第12回 障害を持ちながら地域で暮らすということ (周囲の意見から)</p> <p>第13回 障害を持ちながら地域で暮らすということ (当事者と作業療法士の意見から)</p> <p>第14回 地域における作業療法で大切なこと (理念)</p> <p>第15回 地域における作業療法で大切なこと (実践編)</p>							
履修上の注意	<p>事前及び授業中に配布した資料や新聞などを読み地域における様々な課題について理解すること。</p>							
成績評価	<p>受講態度(20%)、レポート課題(40%)で判断する</p>							
テキスト	<p>参考図書、その他</p> <p>筧 祐介著「地域を変えるデザイン」英治出版</p>							

講義名	作業療法総合演習		
講師名	幸福 秀和／長辻 永喜／石渡 香住／井口 知也／山田 隆人		
学年	4 年	学期	前・後期
時間	60 時間	必修	2 単位
講義目標	<p>学内で学んだ基礎医学・臨床医学・作業療法学の各分野について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習を通じて理解を深める。到達目標は、基礎医学・臨床医学・作業療法学の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行し、作業療法士として必要な基礎的知識と実地問題を用いて技術等の再確認を行い、要求される以上のレベルに到達すること。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、国家試験の傾向と学習方法（学習の意図、進め方）</p> <p>第2回 身体障害領域の中樞神経障害の臨床医学・作業療法に関する学習</p> <p>第3回 身体障害領域の中樞運動器障害の臨床医学・作業療法に関する学習</p> <p>第4回 身体障害領域の内部障害の臨床医学・作業療法に関する学習</p> <p>第5回 身体障害領域のその他の障害の臨床医学・作業療法に関する学習</p> <p>第6回 身体障害領域に関する復習・まとめ</p> <p>第7回 精神障害領域の臨床医学・作業療法に関する学習①</p> <p>第8回 精神障害領域の臨床医学・作業療法に関する学習②</p> <p>第9回 精神障害領域に関する復習・まとめ</p> <p>第10回 発達期障害領域の臨床医学・作業療法に関する学習①</p> <p>第11回 発達期障害領域の臨床医学・作業療法に関する学習②</p> <p>第12回 発達期障害領域に関する復習・まとめ</p> <p>第13回 老年期障害領域の臨床医学・作業療法に関する学習</p> <p>第14回 地域作業療法領域の臨床医学・作業療法に関する学習</p> <p>第15回 老年期障害領域・地域作業療法領域に関する復習・まとめ</p>		
履修上の注意	<p>問題の解説、資料の収集、論理の展開の仕方、自分なりの考えをもち、それを裏付ける方法などについて、学習していくことが要求される。</p>		
成績評価	<p>複数回実施する確認テスト合計点で判断する。</p>		
テキスト	<p>理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント （専門基礎分野 基礎医学、専門基礎分野 臨床医学、基礎 OT 学、障害別 OT 治療学） 医歯薬出版</p>		
参考図書、その他	<p>その都度紹介する</p>		

講義名	作業療法総合演習		
講師名	幸福 秀和／長辻 永喜／石渡 香住／井口 知也／山田 隆人		
学年	4 年	学期	前・後 期
時間	60 時間	必修	2 単位
講義目標	<p>学内で学んだ基礎医学・臨床医学・作業療法学の各分野について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習を通じて理解を深める。到達目標は、基礎医学・臨床医学・作業療法学の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行し、作業療法士として必要な基礎的知識と実地問題を用いて技術等の再確認を行い、要求される以上のレベルに到達すること。</p>		
授業計画	<p>第16回 基礎医学：解剖学①</p> <p>第17回 基礎医学：解剖学②</p> <p>第18回 基礎医学：生理学①</p> <p>第19回 基礎医学：生理学②</p> <p>第20回 基礎医学：運動学①</p> <p>第21回 基礎医学：運動学②</p> <p>第22回 臨床医学：脳血管・神経筋障害①</p> <p>第23回 臨床医学：脳血管・神経筋障害②</p> <p>第24回 臨床医学：呼吸・循環・代謝障害①</p> <p>第25回 臨床医学：呼吸・循環・代謝障害②</p> <p>第26回 臨床医学：骨関節障害①</p> <p>第27回 臨床医学：骨関節障害②</p> <p>第28回 臨床医学：小児</p> <p>第29回 臨床医学：精神医学</p> <p>第30回 臨床医学：その他の領域</p>		
履修上の注意	<p>問題の解説、資料の収集、論理の展開の仕方、自分なりの考えをもち、それを裏付ける方法などについて、学習していくことが要求される。</p>		
成績評価	<p>複数回実施する確認テスト合計点で判断する。</p>		
テキスト	<p>理学療法士・作業療法士 国家試験必須ポイント （専門基礎分野 基礎医学，専門基礎分野 臨床医学，基礎 OT 学，障害別 OT 治療学） 医歯薬出版</p>		
参考図書，その他	<p>その都度紹介する</p>		